

< | + + + + + + + + + < | 男女共同参画推進センター報告書 | <

> | > > > | 平成 28 年

28

京都大学

男女共同参画推進センター報告書

平成29年3月

## 目 次

ご挨拶	1
運営体制	2
<b>I 「広報・相談・社会連携」事業</b>	<b>3</b>
1) Women and Wish フォーラム 3	4
2) 京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）	5
3) 講義・ゼミ	14
4) 女子高生・車座フォーラム 2016	15
5) 第 11 回女子中高生のための関西科学塾	19
6) 男女共同参画推進センターNewsletter	21
<b>II 「育児・介護支援」事業</b>	<b>41</b>
1) 平成 28 年度「保育園入園待機乳児のための保育施設」	42
2) おむかえ保育	49
3) ベビーシッター利用育児支援	51
<b>III 「病児保育」事業</b>	<b>53</b>
1) 病児保育室「こもも」	54
<b>IV 「就労支援」事業</b>	<b>69</b>
1) 研究・実験補助者雇用制度	70
<b>資料</b>	
1) 男女共同参画推進センター関係者名簿	79
2) 男女共同参画推進センター会議議事	80
3) 京都大学の教員・学生数	83
4) 京都大学の女性研究者・女子学生の状況	85



## ご挨拶

理事・副学長

京都大学男女共同参画推進センター長

稲葉カヨ

平成 18 年に科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成事業」の下で設立された女性研究者支援の活動も 10 年目の節目を終え、11 年目に入っています。既に昨年度からは、「女性研究者支援センター」を発展的に改組し、男女共同参画推進本部のもとに設置された男女共同参画推進センターで行っています。そのため、支援の対象も女性研究者のみならず教職員・学生へと広がってきました。

平成 27 年 4 月には、山極総長の下にアクション・プラン（2015 年度～2020 年度）を公表しました。その中には、「男女共同参画推進本部・推進センターを軸にして、基盤整備の拡充を進めると共に、女性リーダーの育成、家庭生活との両立支援、次世代育成支援という 3 つの目標を設定し、本学における男女共同参画の一層の進化を進める」としています。また、その後発表された「WINDOW 構想」の末尾の W は“Women and Wish”を表すとし、「男女共同参画推進アクション・プランに基づき明るい希望を持てる環境を整備します」と明記されました。

それを裏付けるように、平成 26 年 7 月に思修館の学寮「船哲房」の 1 階に入居したセンターでは、以前より多くの待機乳児を受け入れることができるようになっただけでなく、これまでの 9 月からの受け入れ開始を 4 月初旬からとし、利用者の利便性の向上に努めています。

今年度は 5 回発行したニュースレターでも、多くの方々に楽しみにしていただいている「連載：研究者になる！」では 59 人目の教員に登場していただきました。教養教育でも、ポケットゼミ「ジェンダーと科学」や「偏見・差別・人権」の講義において本センターの運営に関与する教員が大きな役割を担っています。さらに、京都大学進学を目指す女子高校生を対象として年末の押し迫った時期に開催した「女子高生・車座フォーラム 2016（第 11 回）」には、北関東から九州にまたがる地域から、129 名の高校生と 64 名の保護者の参加を得ることができました。

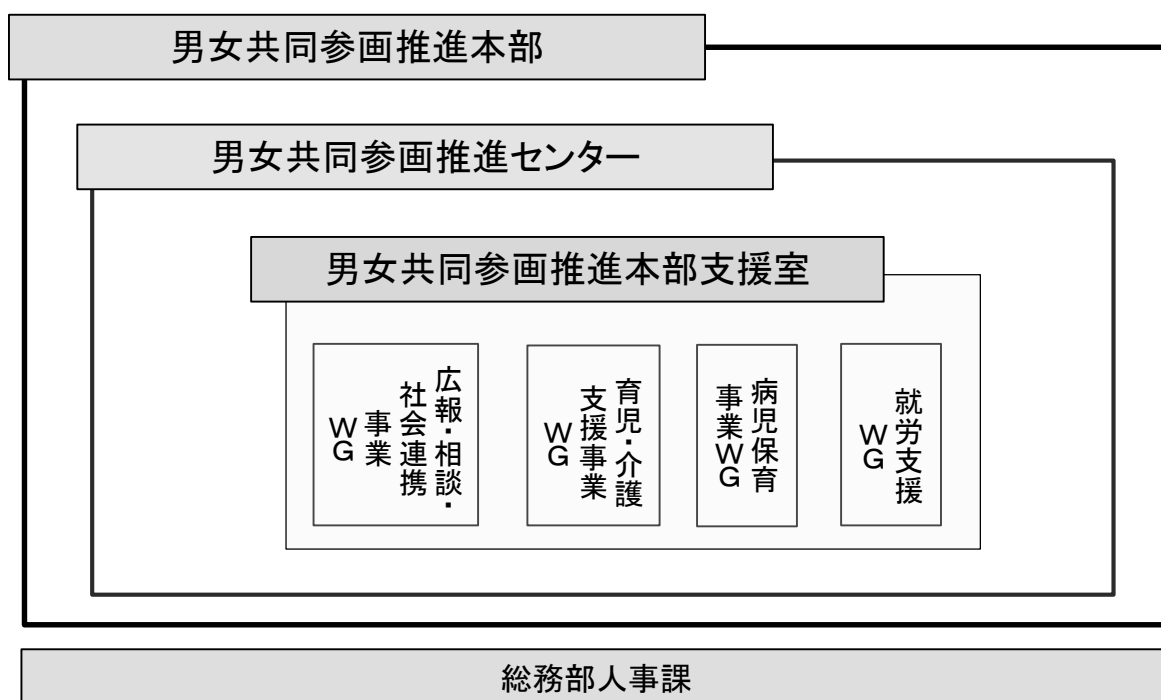
センターにとって最も有意義なイベントは、昨年度に引き続き女性教員懇話会との共催として開催した第 3 回“Women and Wish”フォーラムです。総長の出席を得て、多くの出席者との対話の中で、課題に立ち向かう姿勢を示していただいたことは大きな成果でした。

しかし、昨年度実施した「京都大学男女共同参画に関する意識・実態調査」では、教職員共に女性で、「男女共同参画に関する基本理念と基本方針」や「アクション・プラン」の存在に関する認知度が低いという問題も浮かび上がりました。そのため、さらに多くの方々に事業を知り、理解頂けるよう、ホームページの刷新に取り組んでおります。

最後になりますが、運営費交付金の減額や組織改革推進など、大学運営の厳しさも増している状況の中、今後もなお一層のご理解、ご支援とご協力をお願い申し上げます。

## 運営体制

男女共同参画推進本部のもと、京都大学の男女共同参画を推進するために、男女共同参画推進センターが設置されています。本センターには男女共同参画推進本部支援室をおき、そのもとに学内教員を委員とする4つのワーキンググループを設置して、それぞれの事業を企画・運営しています。



役職	氏名
男女共同参画推進センター長	稲葉 カヨ (理事・副学長)
男女共同参画推進本部支援室長	伊藤 公雄 (文学研究科)
広報・相談・社会連携事業ワーキンググループ主査	今村 博臣 (生命科学研究科)
育児・介護支援事業ワーキンググループ主査	小西 由紀子 (理学研究科)
病児保育事業ワーキンググループ主査	足立 壯一 (医学研究科)
就労支援事業ワーキンググループ主査	佐藤 亨 (情報学研究科)

# I 「広報・相談・社会連携」事業

# 広報・相談・社会連携事業ワーキンググループ活動報告

広報事業では、3月10日にWomen and Wish フォーラム3「男女共同参画に向けた研究者と大学のダイアログ」を女性教員懇話会との共催で行った。基調講演に続いて、総長との意見交流をおこない、京都大学のWindow構想における本センターが果たすべき役割を再確認した。

社会連携事業としては、関西の他大学との連携で第11回女子中高生のための関西科学塾を開催した。京都大学では、11月20日に実験講座を行った。また、12月23日には女子高生・車座フォーラム2016を学内にて開催した。両イベントとも多数の高校生および保護者が参加し、次世代の女性研究者としての役割を担う世代に、早い段階から大学の教員や学生と交流する機会を提供することができた。

そして、センターの活動について、ウェブサイトやニュースレターを通して、学内外に広報活動を行った。ウェブサイトについては、大幅に刷新した。



広報・相談・社会連携事業WG主査 今村 博臣

## ■活動記録

- |           |  |
|-----------|--|
| 5月10日(火)  | ニュースレター「たちばな」第68号発行                            |
| 6月8日(水)   | 京都産業大学にて教職員セミナー「成果を出すための工夫」-仕事と家庭の両立-:小石かつら    |
| 7月25日(月)  | ニュースレター「たちばな」第69号発行                            |
| 8月7日(日)   | フォーラム「これからの人生の話をしよう～あなたのライフプランに新たな選択肢を～」       |
| 10月22日(土) | エル大阪、大阪府立天王寺高等学校にて大阪サイエンスデイ:村山美穂               |
| 11月15日(火) | ニュースレター「たちばな」第70号発行                            |
| 11月1日(火)  | 岡山大学にて管理職セミナー「ダイバーシティ・マネジメント」:稲葉カヨ             |
| 11月20日(日) | 第11回女子中高生のための関西科学塾<D>を京都大学で実施                  |
| 12月23日(金) | 女子高生・車座フォーラム2016                               |
| 12月25日(日) | ニュースレター「たちばな」第71号発行                            |
| 2月25日(土)  | ニュースレター「たちばな」第72号発行                            |
| 3月10日(金)  | “Women and Wish”フォーラム3「男女共同参画に向けた研究者と大学のダイアログ」 |
| 3月13日(月)  | 京都府立洛北高等学校にて特別講義:稲葉カヨ                          |

☆☆☆☆ 京都大学男女共同参画推進センター

シリーズ "Women and Wish" フォーラム3

# 男女共同参画に向けた 研究者と大学のダイアローグ

日時 2017年 **3月10日** (金) 【参加費無料】

12:30~14:30

※11:30 から利用できます(飲食可)

場所 国際科学イノベーション棟 会議室5a・5b



京都大学理事・副学長  
男女共同参画推進センター長  
稲葉 カヨ



京都大学副学長  
山極 壽一

講演者等

登壇者

「京大病院の取り組みについて」

府立病院 看護部長・准教授 北浦 和子

「センターを利用して」

医学部附属病院 中嶋 千紗

理学部研究科 渡邊裕美子



山極壽一京都大学第26代総長は六つの活動指針の頭文字をとった標語 WINDOWを掲げています。その結びの“W”は、男女共同参画社会実現のための“Women and Wish”です。男女共同参画推進センターでは、シリーズ「Women and Wish フォーラム」を開催し、センターや総長への要望を伺うとともに女性研究者が直面している問題点、あるいは数値目標だけでは語ることでできない目標の解決に向けたディスカッションを行います。

対象者 京都大学に所属する教職員・学生

定員 40名(先着順)

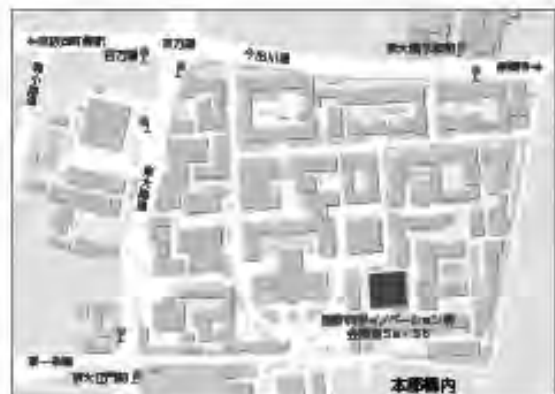
申込 予約制

京都大学男女共同参画推進センター  
(<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>)のフォーラム  
申込入力フォームよりお申し込みください。

問合せ先 京都大学男女共同参画推進センター

URL:<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>  
E-mail: [w-shien@mail.adm.kyoto-u.ac.jp](mailto:w-shien@mail.adm.kyoto-u.ac.jp)  
Tel: 075-753-2437

主催 京都大学男女共同参画推進センター 共催 女性教員懇話会





# 第九回

# 京都大学 たちばな賞

# 応募者募集

この京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）は、優れた研究成果を挙げた本学の若手女性研究者を顕彰することによって、研究意欲を高め、我が国の学術研究の将来を担う優れた女性研究者の育成を目的として創設されました。



## 対象

人文・社会科学又は自然科学の分野において優れた研究成果をあげた本学に所属する45歳未満（昭和47年4月2日以降生まれ）の若手女性研究者のうち下記条件を満たす者

【学生部門】 応募時点において、大学院博士後期課程に在学中であること。

【研究者部門】 博士の学位を取得（博士の学位を取得した者と同年以上の学術研究能力を有する者を含む）していること。なお、教授職（特定教員）の者は応募できません。

## 顕彰

●たちばな賞 正賞：賞状 副賞：記念品及び賞金10万円

（研究者部門・学生部門 各1名）

●奨励賞 正賞：賞状 副賞：記念品及び賞金8万円

（該当者がいた場合のみ）



## 応募受付期間

平成28年11月1日（火）～ 11月30日（水）

【協賛】

株式会社ワコール

## ●応募要領などの詳細について

京都大学の HP からダウンロードしてください。 <http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/female>

お問い合わせ先：総務部人事課職員掛 電話：075-753-2283

## 第9回京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）応募要領

### 1. 趣旨・目的

京都大学における若手の女性研究者の優れた研究成果を讃えるため、平成20年度に「たちばな賞（京都大学優秀女性研究者賞）」を創設しました。本制度は、人文・社会科学又は自然科学の各分野において、優れた研究成果を挙げた若手の女性研究者を顕彰することにより、当該若手女性研究者自身及びこれに続く多くの若手女性研究者の励みとし、ステップアップに繋がるよう研究意欲を高め、もって本学、さらには我が国の学術研究の将来を担う優れた女性研究者の育成等に資することを目的としています。

### 2. 応募条件

昭和47年4月2日以降生まれの本学に所属する女性の大学院生及び女性研究者（研究を職務に含んでいる者。ポスドク及び日本学術振興会特別研究員を含む。）のうち、学術上優れた研究成果を挙げたと認められる者で、以下の条件を満たす者となります。なお、過去に学生部門でたちばな賞を授与された者も、研究者部門に応募することができます。また、過去に奨励賞を授与された者も、受賞対象となる業績が異なる場合に限り、次年度以降に本賞へ応募できます。

#### 【学生部門】

応募時点において、大学院博士後期課程に在学中であること（医学研究科医学専攻及び薬学研究科薬学専攻にあつては博士課程、アジア・アフリカ地域研究研究科及び総合生存学館の博士課程にあつては後期に相当する課程を含む。休学中の者は除く。）

#### 【研究者部門】

博士の学位を取得（博士の学位を取得した者と同等以上の学術研究能力を有する者を含む）していること。なお、教授職（特定教員を含む）の者は応募できません。

### 3. 顕彰

受賞者は、各部門1名ずつとし、表彰状と副賞（記念品及び賞金10万円）を授与します。また、該当者がある場合は、奨励賞として各部門原則1名ずつに表彰状と副賞（記念品及び賞金8万円）を授与します。（ただし、該当者がいない場合は、奨励賞の授与はありません。）

### 4. 提出書類

- ①応募調書（様式1／PDF）
- ②これまでの研究の概要（様式2／PDF）
- ③推薦状（様式3／PDF）
- ④業績目録（A4／形式自由／PDF）

⑤その他特記すべき事項（特許・書評・新聞記事などの参考資料（形式自由）／PDF）

⑥応募対象となった書籍、論文の別刷（主なものを学生は3編以内、研究者は5編以内／PDF）

上記③の推薦状については、応募者の研究をよく理解している、本学に所属する常勤の研究者が作成してください。③以外の書類については、応募者本人が作成してください。

### 5. 提出方法

(1) 提出書類は、応募者が直接、下記連絡先にメールに添付して提出してください。

(2) 提出書類①～⑥については、PDFにして提出してください。なお、⑥については、表紙、目次及び該当部分を抜粋したPDFを提出してください。

PDFfile が大容量になる場合には、大容量文書にて提出もしくはCD に焼くかUSB メモリーに入れて学内便にて提出することも可とします。

### 6. 応募受付期間

平成28年11月1日（火）～平成28年11月30日（水）

### 7. 選考及び選考結果の通知

学内に設置された選考委員会において、書面審査による第一次選考を行います。第一次選考通過者にはヒアリング審査による第二次選考を行い、受賞者を決定します。

なお、ヒアリング審査は平成29年1月下旬に実施予定です。また、第一次選考通過者には、平成29年12月末日までに第一次選考のご連絡及び第二次選考ヒアリング審査用の資料の提出を依頼いたしますので、よろしくご願ひいたします。

受賞決定の通知は、平成29年2月上旬頃に行い、学内外へ公表します。

### 8. 表彰式

平成29年3月3日（金）午後に行います。また、表彰式後に受賞対象となった研究成果の発表をしていただきます。日程等詳細については、別途、受賞者に通知します。

### 9. その他

(1) 選考結果に対する問い合わせには応じかねます。  
(2) 受賞者の氏名、略歴及び受賞の対象となった研究業績等は公表されますので、予めご承知願ひします。

(3) 提出書類に含まれる個人情報は、厳重に管理し、本表彰の事業遂行のためのみに利用します。



〈受賞者による研究発表〉

たちばな賞

優秀女性研究者賞 受賞者

学生部門

中塚 祐子

(工学研究科 博士課程3年)

「アモルファス酸化物の磁氣的、磁気光学的性質」

研究者部門

池田 華子

(医学部附属病院 准教授)

「難治性眼疾患に対する新規神経保護治療法の開発」

優秀女性研究者奨励賞 受賞者

学生部門

久保田 結子 (工学研究科)

仲間 絢 (人間・環境学研究科)

研究者部門

クイドンシルビアアタナソヴァ (白眉センター)

中谷 加奈 (農学研究科)

日時…2017年3月3日(金) 午後15時~16時  
場所…京都大学国際科学イノベーション棟5階  
シンポジウムホール

第九回  
京都大学  
「たちばな賞」表彰式

プログラム

- 15:00~15:05 開会の挨拶 稲葉 カヨ(京都大学理事)
- 15:05~15:15 表彰式・ワコール賞贈呈
- 15:15~15:25 総長挨拶
- 15:25~15:35 来賓祝辞 安原 弘展(株式会社ワコール代表取締役社長)
- 15:35~15:45 研究発表1【学生部門】中塚 祐子
- 15:45~15:55 研究発表2【研究者部門】池田 華子
- 15:55~16:00 閉会の挨拶 川添 信介(京都大学理事)

表彰式は、山極総長より、表彰状と記念楯が授与されます。  
副賞として、㈱ワコール 安原代表取締役社長より、ワコール賞が授与されます。  
表彰式のあと、たちばな賞受賞者による研究発表を行います。

お問い合わせ先：総務部人事課職員掛 電話 075-753-2284

URL:<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/female>



## 2016 年度 京都大学たちばな賞(優秀女性研究者賞)表彰式

### 受賞者略歴

#### 【たちばな賞】



#### 【学生部門】

中塚 祐子

現 職:工学研究科博士課程 3 年、日本学術振興会特別研究員(DC2)

専門分野:無機材料化学

研究テーマ:アモルファス酸化物の磁氣的、磁気光学的性質

(略 歴)

2012 年 3 月 京都大学工学部 卒業

2014 年 3 月 京都大学大学院工学研究科修士課程 修了

2015 年 3 月～2016 年 2 月 ドイツ連邦共和国イェナ大学 留学

2015 年 4 月 日本学術振興会特別研究員 DC2

2017 年 3 月 京都大学大学院工学研究科博士課程 修了見込

(受賞歴)

2016 年 第 17 回量子理工学教育研究センター公開シンポジウム「ベストポスター賞」

2016 年 第 77 回応用物理学会秋季学術講演会「第 41 回(2016 年秋季)応用物理学会講演奨励賞」

(研究概要)

アモルファス酸化物、所謂ガラスは、均質性が高く、加工成形・大面積化が容易であり、組成変化により物性を連続的に変化させられるという特徴を持つ、自由度の高い材料である。光学材料、電子材料としては既に広く応用されているが、磁性材料としての応用は少ないのが現状である。アモルファス酸化物の基礎的な磁性の機構と磁性材料としての可能性を探るために、遷移元素を含有するアモルファス酸化物の磁氣的および磁気光学的性質について研究を行ってきた。アモルファス鉄ケイ酸塩薄膜において、アモルファス材料としては異常に大きな磁気光学効果、具体的には従来の希土類含有アモルファス酸化物を 1 桁上回るファラデー回転角を得ることに成功した。さらに、大きな磁気光学効果が、薄膜中に存在する金属鉄のナノクラスターによるものであることを明らかにした。また、鉄リン酸塩ガラスの磁気挙動の研究を行った。低温における磁気挙動がどのような理論モデルで記述できるのか、実験的な検討を行った。これはアモルファス酸化物における初の試みである。



【研究者部門】

池田 華子

現 職：医学部附属病院 臨床研究総合センター 網膜神経保護治療プロジェクト 准教授

専門分野：眼科学

研究テーマ：難治性眼疾患に対する新規神経保護治療法の開発

(略 歴)

1999年3月 京都大学医学部卒業

2002年10月 (財)先端医療振興財団・知的クラスター研究員

理化学研究所発生再生科学総合研究センター・共同研究員

2005年4月 京都大学医学部附属病院探索医療センター・網膜再生医療プロジェクト医員

2008年6月 博士(医)学位取得(京都大学)

2009年4月 京都大学医学部附属病院・眼科助教

2014年8月 同臨床研究総合センター・網膜神経保護治療プロジェクト准教授

(受賞歴)

2008年4月 ARVO international travel grant

2012年7月 Yong Investigator Award 2012年 Glaucoma Summer Camp

2012年7月 Wakamoto Gold Award 第2回わかもと先進眼科医療研究会

2012年9月 第23回 日本緑内障学会 最優秀演題賞

2013年2月 第17回 眼科分子生物研究会 最優秀演題賞

(研究概要)

現在、緑内障、加齢黄斑変性、網膜色素変性は日本において中途失明の主な原因となっている。緑内障は眼圧降下が唯一の治療法であるが、眼圧を下げて視野障害が進行する例が少なくない。また網膜色素変性や萎縮性加齢黄斑変性には、有効な治療法が存在しない。緑内障、網膜色素変性・加齢黄斑変性の視野・視力障害は、それぞれ網膜神経節細胞、視細胞、網膜色素上皮が変性・脱落することにより引き起こされることから、この網膜細胞の変性を抑制できれば、新たな治療への道がひらける。そこでまず、眼疾患モデル動物の網膜に対するライブイメージング法を確立し、同一動物での経時的な薬効評価を可能とした。その評価系を用い、VCP というストレス応答にかかわる蛋白質の ATPase 活性を阻害する新規化合物が、ストレス化での ATP の減少を抑制することで神経保護作用を示し、上記の眼疾患モデル動物での病態の発症と進行の抑制効果を持つことを明らかにした。さらに、本新規化合物を患者に届けるべく、諸準備を行い、眼難治疾患である網膜中心動脈閉塞症に対する医師主導治験を開始した。一方、患者由来 iPS 細胞から効率よく網膜細胞へ分化誘導することに成功し、個々の病態における薬効評価のスクリーニング系や疾患の病態解明研究の礎を築いた。このように、眼難治疾患に対し、新規の神経保護剤による共通治療薬の開発を目指した研究の成果は、多くの患者を失明から守ることに繋がる可能性を持ち、科学的のみならず社会的にもその意義は非常に大きいと考えている。現在は、上記医師主導治験を実施する傍ら、基礎研究面では、細胞保護メカニズムや、新たな網膜変性疾患の病態解明に取り組んでいる。

## 【奨励賞】



### 【学生部門】

久保田 結子

現 職: 工学研究科博士課程 2 年、日本学術振興会特別研究員 (DC2)

専門分野: 宇宙プラズマ

研究テーマ: 非線形波動粒子相互作用による放射線帯電子フラックスの急激な消失・生成過程の研究  
(略 歴)

2013 年 3 月 神戸大学工学部 卒業

2015 年 3 月 京都大学大学院工学研究科修士課程 修了

2016 年 4 月 日本学術振興会特別研究員 DC2

2018 年 3 月 京都大学大学院工学研究科博士課程 修了見込

(受賞歴)

2014 年 Asia Oceania Geosciences Society Annual Meeting / Best Student Poster Award

2015 年 日本地球惑星科学連合・連合大会 国際セッション / 学生優秀発表賞

2015 年 京都大学工学研究科 / 馬詰奨励賞

2015 年 地球電磁気・地球惑星圏学会 / 学生発表賞 (オーロラメダル)

(研究概要)

地球から  $4 \sim 7 R_e$  ( $R_e$ : 地球半径) 程度離れた比較的地球近傍の宇宙空間では高いエネルギーを持つ電子が光速に近い速さで動きながら地球を取り囲んでいる。この電子は宇宙飛行士の被爆や人工衛星の故障を引き起こすことから『キラールエレクトロン』、そしてその集まりは『放射線帯』と呼ばれている。放射線帯は太陽活動が活発な時に消失と生成を繰り返しており、その発生の正確な予報を実現することは人類の宇宙環境利用を進展させる上で必要不可欠となる。特に被害を低減するための作業はある程度の時間を要することから、“短期間で急激な発生”を予測することが重要となる。世界各国で放射線帯の変動は非線形効果を見逃した準線形理論で議論されてきたが、変動の中でも急激なもの説明が不可能であることから電磁波動との非線形相互作用を考慮したシミュレーターの開発を行った。その結果、放射線帯の急激な生成過程の再現ができ、非線形効果が本質的に重要な要因であることを明らかにした。放射線帯消失時には放射線帯を形成していた電子は地球へ降下してしまうのだが、降り込んだ放射線帯電子は大気圏中の中性粒子をイオン化させオゾン層の破壊など地球環境に影響を与えている可能性が指摘されている。そのため消失過程についても数値計算を行い、降り込み電子を定量的に評価した。さらにこの評価中に新たな非線形効果を見つけ、理論的にそのプロセスを解明した。今年度の後半には実際の放射線帯の変動を確認するため、アメリカに 4 ヶ月間留学し NASA で打ち上げられた人工衛星 Van Allen Probes のデータ解析に従事した。今後は 2016 年 12 月に日本が打ち上げた人工衛星「あらせ」のデータ解析を行い、スーパーコンピューターの大規模並列計算で求めた上記のシミュレーション結果との比較・検討を行いたいと考えている。



**【学生部門】**  
**仲間 絢**

現 職：人間・環境学研究科博士後期課程 3 年

専門分野：美術史・美学

研究テーマ：バンベルク大聖堂彫刻群と『雅歌』の花嫁神秘主義

(略 歴)

東京外国語大学外国学部欧米第一課程ドイツ語専攻卒業(2008 年 3 月)

東京外国語大学大学院地域文化研究科博士前期課程(2008 年 4 月入学、2009 年 3 月退学)

フリードリヒ・アレクサンダー・エアランゲン＝ニュルンベルク大学大学院修士課程(美術史研究所)

(2009 年 9 月～2010 年 9 月)

京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程修了(2012 年 3 月)

日本学術振興会特別研究員(DC1、科研費特別枠)(2012 年 4 月～2015 年 3 月)

ミュンヘン美術史中央研究所奨学研究員(2013 年 4 月～2015 年 3 月)

ポーロニャ大学招聘博士課程院生(2015 年 8 月～2016 年 3 月)

(研究概要)

中世の聖母マリア美術におけるイメージの成立について、聖母マリア崇拝の重要な原典であった旧約聖書『雅歌』に基づいて研究を進め、花嫁神秘主義にみられる女性性から考察している。このテーマに関連し、13 世紀中葉に成立したバンベルク大聖堂彫刻群についてその表現内容の解明に取り組んできた。本彫刻群はドイツ中世美術史上きわめて重要な作品であるが、先行研究は様式論がほとんどであり、膨大な研究史があるものの、作品の表現内容や意図を解明することは困難とされてきた。本研究では、バンベルク大聖堂成立の背景にある寄進者クニグンデの崇敬に着目し、この崇敬が聖母マリアの『雅歌』の花嫁神秘主義に結びつくという、新たな観点から彫刻群のイメージ分析を行っている。『クニグンデの説教』『コンラートの説教』(ともに 1200 年頃)などの聖クニグンデ崇拝の史料、聖堂が保有していた礼拝書や『バンベルク雅歌』(1000 年頃)などの『雅歌』注解書の写本表現と彫刻イメージとの類似性、および共通点を考察した。

なかでもバンベルク大聖堂の主要扉口「君侯の門」について、主に終末の「神秘の結婚」による花嫁たちの救済を表し、「キリストの花嫁」としての「第二のマリア」であるクニグンデの美德が聖堂の主要扉口でも強調されていることを明らかにした。今後の展望としては、聖堂内部の聖ゲオルギウス内陣についても、『雅歌』に基づく聖母マリアの花嫁としての戴冠として考察し、門と内陣との連関性を指摘していきたい。



【研究者部門】  
クロイドン シルビア  
アタナソヴァ

現 職: 京都大学白眉センター・法学研究科特定助教

専門分野: 法学・政治学

研究テーマ: 日本と東アジア域内外における人権の衝突と擁護をめぐる多元的理解と課題解決に向けた学際的研究

(略 歴)

2003 年 7 月 上智大学比較文化学部 卒業

2005 年 7 月 オックスフォード大学大学院東洋学/日本学研究科修士課程 修了

2010 年 1 月 オックスフォード大学大学院東洋学/日本学研究科博士課程 修了

2010 年 1 月 オックスフォード大学東洋学/日本学博士課程 終了

2012 年 11 月 東京大学法学部日本学術振興会外国人特別研究員任期 終了

2012 年 4 月 京都大学白眉センター・法学研究科特定助教 採用

(受賞歴)

1997 沼津市日本語弁論大会 1 位

2000 上智大学日本語弁論大会 1 位

1999-2000 財団法人横山国際奨学財団 留学生奨学金

2000-2001 在日米国大使館日本語を学ぶ外国人女子留学生 奨学金

2001-2003 上智大学 留学生奨学金(学費相当額)

2001-2003 財団法人徳洲会国際奨学財団 留学生奨学金

2006-2009 財団法人日本科学協会 笹川科学研究助成金

2007 国際交流基金日本財団 博士課程研究助成金

2009 英国日本研究協会 ジョン・クランプ科学研究助成金

2009 ヨーロッパ日本研究会 東芝国際交流財団研究助成金

(研究概要)

「人権」の概念と現実の事象との間のギャップ——人権を擁護できる状況において空間的・時間的差異が非常に大きいのはなぜか、という問題意識をもち続け、その問いに応えるべく、これまで日本ならびに国外における実証的研究に従事してきた。国連加盟国では、人権は存在するという前提のもと、国連の創設以来の柱石である文書「世界人権宣言」において 30 もの権利を挙げ、尊重・確保するよう求めている。人権とはなにか、その内容こそ分かるものの、それらが損得関係に陥った場合どの人権を優先的に擁護し、どの人権を保留すべきかという悩ましい問題については、国連から加盟国への指導は全くない。そのため、各国はこのジレンマを各自それぞれの政治状況、世論、歴史、文化等によって解決するしかないのが現状である。

これまでの研究の特色は、日本を事例に、人権と人権の衝突が特に多くみられる刑事司法分野に焦点を定め、その解決プロセスと諸要因を多角的に分析した点にある。社会の安全という権利を保証するために公判廷で有罪が証明されるまで厳密には無実であった刑事被疑者の自由を、先進国では最も長い期間である 23 日間にわたって保留し、その間取り調べることを目的に警察が勾留し続けることが妥当であるとする日本の政策について、それがどのようなプロセスを経て定着したのかについて調査した。また、日本の刑務所は、反乱・脱走・暴力事件の発生が他の先進国に比べて圧倒的に少ないという事実を踏まえて、社会全体が有する「安全な環境」への権利と、囚人達個人の基本的権利、例えば、「監視されずに入浴する」権利が互いにかいなる均衡状態にあるのかも探った。日本の政策立案者の今後の法律改正のため、また日本の制度をモデルにしよと考える他国の政策立案者のため、これからも人権擁護に関する研究を続ける予定である。





**【研究者部門】**  
**中谷 加奈**

現 職:農学研究科 助教

専門分野:砂防学、森林科学

研究テーマ:土石流による具体的な被害状況の検討

(略 歴)

2005年3月 京都大学農学部 卒業

2007年3月 京都大学大学院農学研究科修士課程 修了

2009年4月 日本学術振興会特別研究員

2010年3月 京都大学大学院農学研究科博士課程 修了

2011年3月 京都大学大学院農学研究科 助教 着任、現在に至る

(受賞歴)

2010年5月 (社)砂防学会 砂防技術賞

2012年8月 (財)河川環境管理財団 河川整備基金助成事業平成24年度優秀成果表彰

2016年12月 農林水産省 農林水産技術会議 平成28年度(第12回)若手農林水産研究者表彰

(研究概要)

土砂災害の中でも土石流は、発生件数に対する被害の甚大度が高い。被害の防止軽減には、土石流の氾濫・堆積範囲の推定や具体的な危険箇所・安全箇所の把握が必要である。扇状地などの住宅地における土石流の氾濫・堆積には家屋、道路などの人工構造物の存在が影響することは報告されていたが、定量的な検討がなされていなかった。本研究では、地形模型を用いた実験、ならびに土石流後の被害状況調査から、扇状地における人工構造物の配置や存在により土石流の最大水位や氾濫・堆積範囲が変化し、建物などの被害状況に違いが生じることを定量的に明らかにした。家屋などの建物が存在すると流れが阻害され、氾濫・堆積範囲が広がることや、建物の上流側に顕著な堆積が生じることが確認された。また、道路沿いを土石流が流動する場合があることや、道路によりショートカットが形成されて構造物がない状況よりも早く土石流が到達する地点が生じる場合があることも示した。これらの知見に基づき、開発したGUIを実装してGISと連携した統合システムを用いて土石流数値シミュレーションを行い、行政が設定した警戒区域内においても、実際の危険度にはばらつきがあることや、危険度の高いエリアに避難場所や経路が設定されている場合があることを明らかにした。また、人工構造物などを考慮した数値シミュレーションを行うことで実際の災害事例に近い結果が得られることを確認した。詳細な検討を行うことで、現実的な土石流の影響範囲としてどの家が危険か、どの家は相対的に安全なのか把握でき、具体的な危険箇所を示すことで土砂災害への意識向上にも繋がると期待される。さらに、本研究の成果はハード対策の優先順位の検討などの防災対策にも活用できて、将来的には新たな地域開発や街づくり提案のための情報提供にも繋がると期待される。

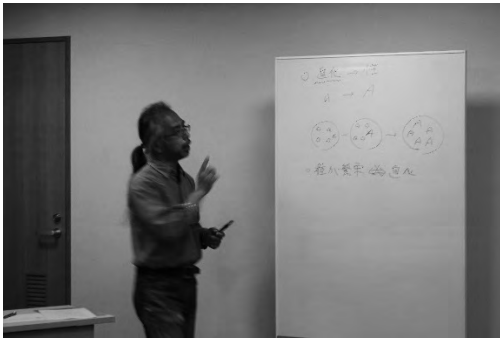
## 講義・ゼミ

### ■ILAS セミナー「ジェンダーと科学」

平成28年度のILASセミナー「ジェンダーと科学」では、1回生を対象に少人数での講義、討論などを通して、ジェンダーについての基礎知識や考え方を身につけました。講師3名で講義を行いました。

回	講義日	氏名（所属）	テーマ
1	4月12日	伊藤 公雄（文学研究科）	オリエンテーション—ボケゼミの目的と内容について
2	4月19日	〃	ジェンダーと科学（1）
3	4月26日	〃	〃（2）
4	5月10日	山内 淳（生態学研究センター）	性の進化について（1）
5	5月17日	〃	〃（2）
6	5月24日	〃	〃（3）
7	5月31日	〃	〃（4）
8	6月7日	速水 洋子（東南アジア研究所）	ジェンダーと文化人類学（1）
9	6月14日	〃	〃（2）
10	6月21日	〃	〃（3）
11	6月28日	〃	〃（4）
12	7月5日	伊藤 公雄（文学研究科）	討論とワーク・ショップ
13	7月12日	〃	まとめ

火曜日5限（16時30分～18時）、男女共同参画推進センター会議室にて



### ■全学共通科目「ジェンダー論」

伊藤公雄教授の全学共通科目「ジェンダー論」では、現在、さまざまな学術分野で重要な概念として使用されつつあるジェンダーについて、主に人文社会科学の視点から考察することを通して、ジェンダーに敏感な視点を養いました。「生物学的性差とジェンダー」「文化のなかのジェンダー」「歴史とジェンダー」「教育とジェンダー」などジェンダーに関する様々な課題について講義を行いました。



京都大学の受験を目指す女子高校生の皆さん！  
受験の前に京大の教育・研究を知り、  
研究者や大学院生・学部学生と話をしませんか？



女子高生・車座フォーラム2016

# 京都大学を知ろう 研究者と語ろう

日程

2016年12月23日(金) 祝

時間

10:00～17:00

会場

京都大学国際科学イノベーション棟  
シンポジウムホール、他

募集定員

女子高校生100名程度(先着順)・保護者50名程度

申し込み方法

男女共同参画推進センターホームページ  
(<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>)をご覧ください。  
期間内にお申し込みください。

参加費  
無料

申し込み期間: 2016年9月26日(月)～11月25日(金)

申し込み・お問い合わせはこちら

〒606-8303 京都市左京区吉田橋町 京都大学男女共同参画推進センター  
(mail)w-shien@mail.adm.kyoto-u.ac.jp  
(TEL)075-753-2437

主催 京都大学男女共同参画推進センター

共催 京都大学教育推進・学生支援部入試企画課

# 女子高生・車座フォーラム 2016

京都大学がどんなところなのか、大学ではどんな勉強や研究をするのか、また大学卒業後の進路にはどんなものがあるのか、などなど、色々な疑問をお持ちのみなさん、京都大学の企画する「女子高生・車座フォーラム2016」にいらっしやいませんか？

京都大学男女共同参画推進センターでは、京都大学の研究者や科学者の仕事を知ってもらおうと「京都大学を知ろう・研究者と語ろう」を企画しました。フォーラムでは、理系・文系それぞれにどんな研究分野や領域があるのか、なぜ今の分野を選んだのかといった大学進学に関わる話をはじめ、研究の面白さや苦勞、専門職や研究職など大学卒業後の将来設計のための心得、あるいはまた、具体的に、たとえば子育てと研究生活の両立方法、研究論文の執筆や学会発表といった研究者の仕事内容など、さまざまなテーマについて、教員や大学院生、学生が疑問にお答えします。

保護者の方々の参加も募集します。どうぞ奮ってご参加ください。

## プログラム

10:00~10:30	受付
10:30~10:35	開会の挨拶
10:35~10:55	京都大学の紹介
10:55~11:10	入試に関する説明
11:10~11:30	女性研究者の講演
11:30~13:00	昼休憩
13:00~13:40	講師紹介・グループワークの説明・移動
13:40~15:00	グループワーク「車座になって話そう」 <small>高校生 講師・京大生とのグループワーク</small> <small>保護者 京大生との交流</small>
15:00~15:10	移動(休憩)
15:10~15:50	まとめ
15:50~16:00	休憩
16:00~17:00	入試に関する質疑応答

### グループワーク希望学部

**A**文学部 **B**教育学部 **C**法学部 **D**経済学部 **E**理学部 **F**医学部(医学) **G**医学部(人間健康科学)  
**H**薬学部 **I**工学部 **J**農学部 **K**総合人間学部(文系) **L**総合人間学部(理系)

## ■車座フォーラム参加者アンケート

### 〈グループ討論について〉

- ・これまで疑問に思っていたことを解消することができ、非常に有意義な時間となりました。また、同じ志を持った高校生の方のお話が聞けて良かったです。
- ・どんな分野に対しても、様々なアプローチができて魅力を感じた。深い！面白い！
- ・京大生の方々の話を聞いて、増々意欲が湧きました。
- ・授業のこと、サークルのことなど大学生活についても知ることができたのでよかった。
- ・先生方や学生さん方のいろんな話が聞けて楽しかったし、質問にも丁寧に答えてくださって、とても充実した時間が過ごせました。
- ・学部・修士・博士課程について、どこまで進学すればどのように就職先が変わるのか、などが分かって良かったです。
- ・自分以外の人の意見を聞くことができ、視野が広がった。また、自分の意見を言うことで、意志がより固くなったと感じる。京大生から直接話を聞き、校風が体験できたのがよく、女子だけということもあり、話しやすかった。
- ・研究をするためにはいろいろな道があるのだなと思いました。留学について知れたのも良かったです。
- ・いろんな専門的なことが知れてよかった。専門的なことだけでなく、日常のことや高校時代のこと聞いて良かった。
- ・討論というか、きちょうな話をきかせていただきました。学生さんも個性がありとてもおもしろかった。特に、女性ならではの、子育てのお話とかリアルなプライベートをきけ、将来を想像することができた。やっぱり、薬学部を目指そうと思えた。
- ・理学部と工学部でどのような違いがあるのか、というのが学部選択をする上で悩んでいた一つだったので、今日知れてすごく良かったなと思います。
- ・直接、京大生や教授の方と語り合うことができ、研究することの楽しさや、おもしろさを感じることができました。また、お話を聞いて、今後、どのように学部・学科を詳しく決めていくかの大体の方針のたて方が分かって良かったです。
- ・実際の学生さんの考えや思いを聞くことができ、とても参考になった。パンフレットなどでは得られない情報も得られて良かった。

### 〈車座フォーラム全体について〉

- ・一つ一つの質問に丁寧に答えて下さって、今まで進路を考えようにも大学ではどんなことをしていて、卒業後どんな進路があるのかわからなかった部分のことを知ることができ、とても参考になりました。
- ・興味がある研究の先生に会って、話を聞いて、やる気が出たというか、自分の将来に希望が持てました。自分の興味に合ったことを追求できるように勉強と勉強以外のことも積極的にやりたいという気になりました。
- ・女性からの視点で話を聞くことができ、大変良かった。
- ・女子学生を対象に、こうして希望する分野の専門性の高いお話、また大学全体に関するお話を伺える機会は東京近郊の大学にはあまりなかったので、足をのばして京都まで来てよかったと思っています。有意義な時間になりました。ありがとうございました。
- ・近くで先生・学生のみなさんと濃い内容の話をすることができとても有益な時間を過ごすことができました。普段かかわることのできない他校で同じ志をもつ女子学生と共に過ごすことができその点においても、この車座フォーラムに参加できよかったと思います。
- ・来る前より京大に入りたいと強く思うようになりました。オープンキャンパスや講演会と違って車座という少人数で話しを聞いた質問したりするので、わかりやすいし聞きやすく良かったです。くわしく聞くことが出来たので良かったと思いました。また、全体会もあり、学部間の差や同じ所も聞くことが出来たので、学部について考えるきっかけになりました。できればもう少し長いほうが良かったです。質問を紙に書く方法は聞きやすく良かったです。

## 〈女性研究者や大学の研究職について〉

- ・研究職につきたいと思ったとき、その入り口は狭いものだと改めて感じました。しかし、初めて今回のように近い距離で研究していらっしやる大学の先生の話聞いて広範囲の多様な知識をたくさん持っていらっしやるのを見て、自分が研究者になった場合、目標にすべき姿・将来像を具体的にイメージすることができました。
- ・研究者は男性の方が多くイメージがありましたが、女性の方も第一線で活躍されていると分かり、良かったです。その一方で男性の割合がまだまだ多いことは改善すべき点であり、私たち学生の姿勢も重要だと感じました。
- ・今の日本は女性の研究者がまだまだ少ないですが、これから女性の活躍も必要だと思います。今日は大澤准教授のお話を聞いて、自分も社会に貢献できる研究者になりたいとあらためて感じました。
- ・様々な事柄を自由に学べ、研究でき、多くの人々の意見を聞いてそのことに関する考えを深めるということはとても面白そうに興味がありました。
- ・研究者でいるのは大変なことだと思います。女性の研究者が少しずつ増えていけば、女性が研究職につきやすくなると思います。
- ・女性が男性と同じか、それ以上にその分野に長けていてすごいと思いました。自分の研究内容について話す姿がかっこよかったです。
- ・子育てと研究の両立の難しさを知りました。産休育休も3～6ヶ月が限界だときいてびっくりしました。
- ・まだまだ活躍できる場所が少ないようなので、道が広がると嬉しいなと思います。また、その中でも努力されている方がいらっしやるようなので、その方々に続けるよう頑張りたいと思います。
- ・女性の活躍する場が増えていると以前は思っていたのですが、今回のお話を聞いて自分の想像よりはるかに低かったので驚きました。将来は、社会の中で活躍できる女性の一人になれるようがんばりたいです。
- ・結婚や子育てと研究職は両立できないと思っていたけど、色々な支援があると知って、将来の仕事の幅が広がった。
- ・女性研究者の少なさに衝撃を受けたが、自分の夢や意志をはっきり持って、とても魅力的に感じた。自分がやりたいことをすることへの勇気が素晴らしかった。医者になって、結婚、出産をしても、やめない人が多数いることに驚いたが、自分の将来に希望を持つことができた。
- ・実際にお話を聞いてみて、女性特有の大変さがあることがわかり、女性研究者の方々の努力に感激を受けました。これから、より女性が活躍しやすい環境が作られるといいなと思います。
- ・京都大学が女性の社会進出に積極的に取り組んでいることがわかりました。

## 〈保護者より〉

- ・女性研究者と聞くだけで、ハードルがかなり高く感じます。一般職でさえ女性は肩身のせまい思いをしています。国も女性が活躍できるようにとか言ってますが、そんな事本気で思っていない様に感じます。このフォーラムをお聞きして、私達の子供の時代には女性が活躍できる社会である様になってほしいと切に思います。
- ・大変有意義でした。入試・学習環境・システムそれからサークルのことなど知りたい内容をすべて聞けて、良かったですと思います。祝日なのにありがとうございました。入学できますよう親として我が子を見守っていきます。
- ・保護者との交流の時間に女子学生が少なかったことだけが残念でしたが、学生さんがたくさんの質問に素直にお答えくださり有難かったです。
- ・女性研究者の方や京大生の方に直接お会いしてお話を伺ったことでとても刺激になったと思います。オープンキャンパスよりも交流も多く内容の濃い1日でした。研究でお忙しい中、貴重なお時間を使っただき有り難うございました。
- ・先生・学生の皆様、お忙しい中都合をつけて下さいます、ありがとうございます。学生の皆様の積極的な姿勢に、とても感動致しました。直接お話しできる機会に恵まれて、子供も良い刺激を受けたと思いますし、親も、子供からの目線での学生さんのお話を聞かせて頂き参考になりました。ありがとうございました。
- ・大変素晴らしい企画を続けていただき感謝しています。(上の子供のときも参加させて頂きました。)女子学生がより社会に出てリーダーシップを発揮できる社会になるための土台として支えるものとして、今後も継続されることが、男女がともに参画する社会発展につながると思います。

第11回女子中高生のための

国立研究開発法人 科学技術振興機構  
女子中高生の理系進路選択支援プログラム



# 関西科学塾



2016年 **6/16(木)締切** (必着)

全参加でも、部分参加でもOK!

A~Eは無料。Fは6000円(宿泊費・食費等)

## A

大阪大

2016年 **7/24** (日) 午後  
企業や大学で活躍する女性研究者による講演&理系大学生との交流会。  
講師：高機能材料の専門家 **ダイキン工業株式会社** 小泉美子さん、記憶の研究者 **大阪大学** 准教授 高永(吉野) 恵子さん【定員250名】  
身近なロールモデルと  
気軽に話そう!

## B

神戸大

2016年 **8/4** (木) 午後  
神戸大の練習船「深江丸」で体験クルージング。船を使った実験の解説、海軍科学部の女子大生との交流など。【定員40名】  
大海原に飛び出そう!



## C

2016年 **10/16** (日) 午後  
小グループに分かれて実験。実験コースは裏面参照。  
【定員220名】



大学の研究を体験!

神戸大

奈良女子大

## D

2016年 **11/20** (日) 午後  
小グループに分かれて実験。実験コースは裏面参照。  
【定員330名】



大学の研究を体験!

大阪府大  
大阪市大  
京都大

## E

大阪大

2016年 **12/18** (日) 午後  
ロボット研究のミニ講演会のあと、グループに分かれて研究室訪問。大学生との交流。豊中or吹田のロボット研究・開発の研究室を訪問  
【定員250名】  
ロボット研究最前線!



## F

大阪大

2017年 **3/25** (土) ~ **26** (日)  
実験から、結果の整理、考察、発表準備、発表まで。1泊2日の充実の2日間。  
【定員80名】  
実験の背景にある  
原理現象を理解!



※本事業は国立研究開発法人科学技術振興機構  
女子中高生の理系進路選択支援プログラムの受託事業です。

問い合わせ先:大阪大学 男女協働推進センター内 関西科学塾運営事務局

E-mail: [kagakujuken-2016@ml.office.osaka-u.ac.jp](mailto:kagakujuken-2016@ml.office.osaka-u.ac.jp) TEL:080-8349-0036(詳細は裏面参照)

主催:大阪大学

共催:奈良女子大学(理系女性教育開発共同機構、男女共同参画推進機構)、京都大学(男女共同参画推進センター、理学研究科)、大阪府立大学、神戸大学、大阪府立大学、一般社団法人日本物理学会、サイエンス・サポート・アソシエーション

連携:ダイキン工業株式会社、NPO法人あなただけをサポート、一般社団法人ナレッジキャピタル、堺市教育委員会

後援(申請中):大阪府教育委員会、奈良県教育委員会、京都府教育委員会、兵庫県教育委員会、大阪市教育委員会、豊中市教育委員会、伊丹市教育委員会

協力:男女共同参画学協会連絡会、日本分子生物学会、日本遺伝学会、日本統計学会、日本企業学会、近畿化学協会

## 京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）表彰式

若手の女性研究者の優れた成果を讃える制度である京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）の第8回表彰式が、3月3日（木）京都大学にて開催されました。

はじめに、選考委員長の稲葉 カヨ理事・副学長より開会の挨拶がありました。

次に、たちばな賞 学生部門受賞者の田辺 弘子氏（人間・環境学研究科 博士課程3年）、研究者部門受賞者の井上 恵美子氏（経済学研究科 講師）に、それぞれ山極 壽一総長より表彰状と記念楯が授与され、株式会社ワコールの安原 弘展代表取締役社長より副賞の「ワコール賞」が授与されました。

続いて、優秀女性研究者奨励賞 学生部門受賞者の信川 久美子氏（理学研究科 博士課程3年）に、山極総長より表彰状が、安原社長より副賞が授与されました。

次に、山極総長、安原社長から受賞者へ祝辞が述べられました。

その後、山極総長、安原社長、川添 信介理事・副学



左上より、川添理事、稲葉理事、山極総長、安原社長  
 左下より、田辺氏、井上氏、信川氏

長より、受賞者へ研究テーマに関する質問があり、田辺氏、井上氏、信川氏がそれぞれ回答しました。

最後に、川添理事・副学長より閉会の挨拶があり、表彰式は盛会のうちに終了しました。



### たちばな賞（優秀女性研究者賞）

部門	氏名	所属・身分	研究テーマ
学生部門	田辺 弘子	人間・環境学研究科 博士課程3年	ヒトの立位制御メカニズムの包括的解明： 人間の文化的身体運動と自然・社会環境の関連性
研究者部門	井上 恵美子	経済学研究科 講師	気候変動の影響下における企業行動

### 優秀女性研究者奨励賞

部門	氏名	所属・身分	研究テーマ
学生部門	信川 久美子	理学研究科 博士課程3年	銀河面X線放射の観測的研究：宇宙線の寄与の発見



## 冊子「未来に繋がる青いリボンのエトセトラ Vol.3」発行

さまざまな学問分野で活躍する本学の女性研究者を紹介する冊子「未来に繋がる青いリボンのエトセトラ」のVol.3を発行しました。なぜ研究者の道を選択したのか、研究の面白み、難しさ、研究する上で大切にしていることなど、それぞれの研究者の思いや経験が詰まっています。

男女共同参画推進センターにて冊子を配布しておりますので、必要な方はセンターまでご連絡ください。また、ホームページからPDF版をダウンロードできます。

## 出前講義

### 滋賀医科大学

2月12日（金）、滋賀医科大学にて男女共同参画推進のための講演会が開催され、稲葉 カヨ理事・副学長が「男女共同参画の現状と課題～女性研究者支援を通じて～」をテーマに講演を行いました。



### 京都府立洛北高等学校

3月11日（金）、京都府立洛北高等学校にて、稲葉カヨ理事・副学長が「“免疫” 味方？ それとも 敵？」と題し、講義を行いました。



## 平成 28 年度保育園入園待機乳児保育室 開室

学生、研究者の学業、研究と育児の両立を支援することを目的とし、「保育園入園待機乳児のための保育施設」を設けています。この保育施設は、現在、保育園の入園待ちを余儀なくされている研究者等を対象とします。詳細はセンターのホームページをご覧ください。



### 保育室の概要

開室期間	平成 28 年 4 月 4 日～平成 29 年 3 月 31 日
開室日時	月曜日～金曜日午前 9 時～午後 6 時 (時間外保育は、午前 8 時～9 時/午後 6 時～8 時)
保育場所	京都大学男女共同参画推進センター
利用資格	京都大学に所属する学生、研究等に携わる教職員（日本学術振興会特別研究員を含む）
対象乳児	生後 9 週目～15 ヶ月未満の健康な乳児
定 員	4 月～5 月：3 名、6 月～8 月：6 名、9 月～翌 3 月：18 名

## 平成 27 年度 ワーキンググループ活動報告

### 広報・相談・社会連携事業 WG

主査 山末 英嗣（エネルギー科学研究科）

広報事業では Women and Wish フォーラム 2「男女共同参画推進センターの実験研究補助者制度を利用して」を行った。前回と同じく総長との意見交流を主体とし、京都大学の Window 構想における本センターの重要性を再確認した。

社会連携事業としては、第 10 回女子中高生のための関西科学塾、女子高生・車座フォーラム 2015 を学内にて開催し、次世代育成のための活動を行った。これからの社会を担う若い女子学生に対し、研究職に興味を持たせるような機会を提供するとともに、更なる工夫、改善の必要性を感じた。

そして、センターの活動について、ウェブサイトやニュースレターを通して、学内外に広報活動を行った。

### 就労支援事業 WG

主査 佐藤 亨（情報学研究科）

本 WG の主要活動である「研究・実験補助者雇用制度」については、育児や介護期にある研究者の研究継続支援という目的に即して、アンケートなどに示される利用者の声も考慮しながら、毎年、少しずつ改良を加えてきている。本年度中の実績は、第 1 期で応募者 19 名、利用者 16 名、第 2 期で応募者 26 名、利用者 16 名と、時期により変動はあるもののここ数年増加傾向にある。

予算の制約のなかで、応募者が困難な状況にあることがわかりながら十分な支援ができないケースも増えてきている。また、ここ数回の傾向として、特任教員・研究員など比較的短い任期で京都大学に所属している研究者、特に外国人研究者からの応募が増加している。不安定な雇用、慣れない土地、家族からの援助も望めない、という状況のなかで育児や介護と研究の両立に苦慮されている男女研究者も多い。

雇用形態の変化や教員のダイバーシティ拡大に適応した制度とその運用の見直しも、制度全体の拡充とともに今後の課題である。



### 育児・介護支援事業 WG

主査 小西 由紀子（理学研究科）

当ワーキンググループは京都大学構成員の育児と介護に関する支援活動を行っている。今年度は待機乳児保育室を 2015 年 4 月 6 日に開室した。ここでは認可保育所に入所できなかった乳児をお預かりしているが、利用希望者は少なくなく、3 月の利用者は定員 18 名を超える見込みである。11 月 25 日には保護者懇談会を開き、保育士や保護者の間の交流をはかった。昨年度からの変更点として、女性研究者だけでなく男性研究者も利用可能になったことが挙げられる。また、これまで 9 月だった開室を 4 月とした。男性利用者は 5 名、4 月から 8 月の利用者は 6 名だった。

### 病児保育事業 WG

主査 足立 壮一（医学研究科）

京都大学男女共同参画推進センター・病児保育室「こもも」（以下、病児保育室）は、京都大学に在籍する全ての教職員・学生の子供（生後 6 ヶ月から小学校 3 年生）を対象とし、急な疾病により保育園・幼稚園、小学校などに通うことの出来ない病中病後児の保育を行っている。事前登録制による運用で、登録者数はのべ 811 名、うち平成 27 年度の新規登録者は 79 名と年々増加している（平成 27 年 12 月末現在）。定員 5 名（感染隔離室 1 名を含む）であり、平成 27 年度は 405 名の利用があった（平成 27 年 12 月末現在）。利用状況は感染症の流行に大きく左右されており、定員を上回る利用希望のために断わらざるを得ない日もしばしばみられるが、利用者の感想としては概ね良好である。また、京大病院オープンホスピタルやホームページ等を通じての広報活動も継続して行った。

保護者からの保育許可基準の引き下げを求める要望を受けて、京都大学医学部附属病院感染制御部の承諾を得て平成 27 年 6 月より利用基準を変更したところ、利用率は増加傾向にある。また、予約時間や事前登録方法の見直しも行った結果、より利用しやすくなったという声をいただいている。感染対策上、困難な点もあるが、育児を行いつつ、仕事や学業を継続することの可能な環境を実現するため、今後も引き続きよりよい運営方法を検討する必要がある。

## 連載：研究者になる！－第56回－

研究者になる ～ロールパン？～

理学研究科・教授 高橋 淑子

私は1988年に理学博士の学位（京都大学）を取得して、すぐに日本を飛び出した。フランスに3年間、アメリカ3年間と渡り歩き、6年ぶりに日本に帰国した。日本を出る前は、「同じ能力だったら男を採用するぞ」と面と向かって言われるような社会だった。“こんな男社会なんかまっぴらごめんだ、もう日本なんかに戻るものか！”と日本を後にした。事実、フランスにいた3年間は、一度も帰国していない（その一番の理由は貧乏だったからである）。

ところが、帰国後6年ぶりにみる日本は、まるで手のひらを返したように変わっていた（少なくとも表面上は）。「女を採用しまーす！女、女、女を発掘しよう！」という、以前では信じられないようなかけ声があちこちから聞こえてきた。なにか気色悪いなと思ったが、その理由は後にわかることになる。そのころから、「ロールモデル」という言葉を耳にするようになった。しかし当時の私はこういう言葉をきいたことがなかったので、「なんだ、このへんでこなカタカナは？ きっと『ロールパン』を焼くときに使う鋳型みたいなものだろう」と思っていた（他にもやたらとカタカナ言葉が増えてきたのもその頃である）。

私の専門分野は発生生物学である。1つの受精卵から、どのような仕組みで脳や心臓、そして手足が出来るのかを理解する学問である。発生生物学は統合生物学であり、DNAや遺伝子のレベルから細胞や臓器の働きまでを視野に入れて、形作りの謎を解き明かす。有名なiPS細胞も発生生物学を基礎にして花が咲いた成功例の1つである。発生中の胚（人間でいえば胎児）の中でせつせと“仕事”をしている細胞をみていると、わくわくドキドキの連続である。

私は高校の時の先生のおかげで、生物学が大好きになった。当時実家から5分のところにあった広島大学理学部生物学科に入ったが、どうも期待とちがった。体育会のワンダーフォーゲル部だったので、授業はサボり倒して山ばかりいっていた。そうこうするうちに、当時の京都大学教授おかたきんじ岡田節人先生が書かれた「試験管の中の生命」や「細胞の社会」を読んで、すっかり動物発生の魅力にとりつかれ、岡田研究室の門をたたいた。

生まれて初めての下宿生活。私は究極の自由を獲得した。岡田研のドアを開けると、そこから一気に世界につ

ながる感覚を覚えた。大学院ではES細胞（iPS細胞のもとになった細胞）を使った細胞分化の研究を進め、5年間が楽しく過ぎていった。しかし当時は、男でも就職は困難を極める時代である。ましてや女だと絶望的だった。そういうとき、フランスのニコル・ルドワラン先生が第2回京都賞受賞のために京都に来られた。岡田節人先生の友人であったこともあり、私は彼女と話をする機会を得た。そのとき彼女から「私のところにポスドクに来ませんか？」と尋ねられた。大感激して「はい、是非行きたいです」と答えるのに5秒もかからなかった。今のようにWebもemailも無い時代である。しかし、人生の選択をえいっ！と決めて、あとは腹をくくって死にもの狂いで走り抜くという道も悪くない。

大学院時代、女は私1人という状況であったのに対し、ルドワラン先生の研究所では7割ぐらいが女性だった。加えて“ラテン文化の洗礼”も浴びて、まるで違う惑星に来たような気分だった。3年間の滞在のうち、前半では遺伝子のクローニングが難航してミゼラブルな毎日を送ったが、後半ではロケット噴射のごとく一気に研究を進めた。前半期データに苦しんでいた時には私を罵倒し続けていたルドワラン先生も、後半期では私を認めてくれたのか、夢一杯のディスカッションをしてくれた。そして私は、生物学の「本当のすばらしさ」を学ぶことが出来た。

冒頭に書いた“気色悪さ”とはなんだったのか。うわべだけのかけ声の裏に潜む「暗い影」を感じたように思う。その影は、その後の社会に新たなゆがみを生み、さらに悪いことに、それに批判的な言論も抑圧されつつある。その成れの果てがああのSTAP細胞事件だとすると、私が感じていた気色悪さとは、20年後のゆがんだ社会の予言であったのかもしれない。といっても800年以上も続いた日本の男社会を瞬時に変える特效薬などあるはずもない。大切なことは、社会のゆがみを受け入れながらも、それに対する批判的精神を堅持することであろう。少なくとも、私にとって「母」のような存在であるルドワラン先生を、ロールモデルなどというカタカナで表したくはない。彼女は私にとって、永遠の「あこがれ」なのである。



Gender Equality Promotion Center

〒606-8303 京都市左京区吉田橋町  
 電話 075 (753) 2437  
 FAX 075 (753) 2436  
 E-mail w-shien@mail.adm.kyoto-u.ac.jp  
 HP <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>

## 男女共同参画推進センターのホームページが新しくなりました！

センターのホームページが新しくなりました。トップページのデザインを一押し、見やすくしたことに加え、「第一線で活躍する研究者たち」「最先端で輝く先輩たちのキャリアパス」「Web マガジン」など、新しくコンテンツを追加しています。Web マガジンでは、「イクメン

たちのワークライフバランス」と題し、待機乳児保育室を利用された男性研究者のお話を紹介しています。より内容が充実した新しいホームページをぜひご活用ください！

<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp>

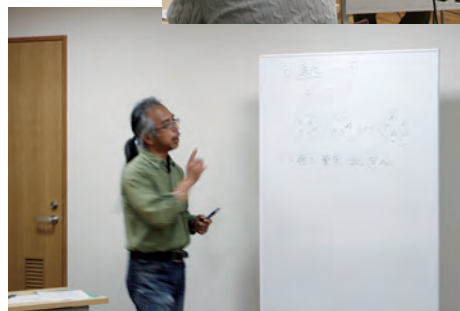


## ILAS セミナー「ジェンダーと科学」開講

平成 28 年度の ILAS セミナー「ジェンダーと科学」が開講しました。1 回生を対象に、少人数での講義、討論などを通して、ジェンダーについての基礎知識や考え方を身につけます。講師 3 名で講義を行いました。

「ジェンダーと科学」講師・テーマ一覧

講師	テーマ
伊藤 公雄 (文学研究科 教授)	ジェンダーと科学
山内 淳 (生態学研究センター 教授)	性の進化について
速水 洋子 (東南アジア研究所 教授)	ジェンダーと文化人類学



## 全学共通科目（前期）「ジェンダー論」開講

伊藤 公雄教授の全学共通科目「ジェンダー論」が開講しました。現在、さまざまな学術分野で重要な概念として使用されつつあるジェンダーについて、主に人文社会科学の視点から考察することを通して、ジェンダーに敏感な視点を養います。「生物学的性差とジェンダー」「文化のなかのジェンダー」「歴史とジェンダー」「教育とジェンダー」などジェンダーに関する様々な課題について講義を行いました。



## ベビーシッター利用育児支援

京都大学男女共同参画推進本部では、本学における教職員の仕事と子育ての両立支援を目的として、「ベビーシッター育児支援割引券」を発行して、ベビーシッター事業者が提供するサービスを利用した場合に、その利用

料金の一部を助成しています。対象事業は以下の 2 つです。詳細、ご利用につきましては、センターのホームページをご覧ください。

対象事業	①ベビーシッター派遣事業	②ベビーシッター派遣事業（多胎児分）
利用対象者	配偶者が就労している、もしくは配偶者の病气入院等により、サービスを使わなければ就労することが困難な本学教職員	義務教育就学前の双生児等多胎児を持つ本学教職員
対象児童年齢等	0 歳～小学校 3 年生、その他健全育成上の世話を必要とする小学校 6 年生までの児童	義務教育就学前の児童（多胎児以外の児童を含む）
割引金額	1 日につき 1 家庭 2,200 円（2,200 円以上で利用可）	1 日につき 1 家庭 9,000 円（2,200 円以上で利用可） 義務教育就学前の多胎児が 3 人以上の場合は、18,000 円（2,200 円以上で利用可）
割引券の利用可能枚数	1 日 1 枚、1 月 24 枚、1 年 280 枚まで	1 日 1 枚、1 年 2 枚まで

## 病児保育室の開室時刻が7時半からになりました。

病児保育室を利用されている方からご要望の多かった早朝のお預かりについて、体制が整ったため、開室時刻を7時半からに早めることとなりました。それに伴い、当日朝の予約方法に変更があります。詳細はセンターのホームページをご覧ください。



### 病児保育室「こもも」

設置場所	京都大学医学部附属病院 外来棟5階
対象者	京都大学教職員及び学生の子どものみで、病中・病後の子ども
対象年齢	生後6ヶ月～小学校3年生
定員	5名（隔離室を含む）
開室日	月曜日～金曜日
保育時間	7:30～19:00
料金	子ども1人につき、1時間あたり500円（昼食・おやつ代を含みます） ※保護者が学生の場合は、保育料金の半額を大学が負担します。
保育体制	看護師、保育士

## 京都産業大学教職員セミナーにて小石先生が講師

6月8日（水）、京都産業大学にて教職員セミナー「成果を出すための工夫」—仕事と家庭の両立—が行われ、本学から白眉センター（人文科学研究所）特定助教の小石 かつら先生が講師として参加しました。小石先生は、京都大学の研究実験補助者利用制度の利用者として、制度や仕事と家庭の両立について自らの経験をもとに話をしました。このセミナーは、大学の支援制度への理解を深め、仕事と家庭の両立について実践例を参加者で情報共有するとともに、男女共同参画について考える機会とするもので、京都産業大学ダイバーシティ推進室主催、京都工芸繊維大学KIT男女共同参画推進センター、京都大学男女共同参画推進センターの協力のもと行われました。



## 香港城市大学の学生が男女共同参画推進センターを訪問しました。

5月25日（水）、香港城市大学の学生15名、引率者1名が京都大学男女共同参画推進センターを訪問しました。

センターの会議室にて、本学の伊藤 公雄教授（男女共同参画推進本部支援室長）が日本におけるジェンダーについての講義を行い、グローバルジェンダーギャップやジェンダーの歴史、男女平等が進まない理由、DV、働く女性の支援などについて説明し、学生は資料を見ながら熱心に聞き入っていました。質疑応答の時間には、「日本において女性の大学進学率が低いのはなぜか」「大

学に進学しなかった女性はどのような職業に就くのか」「これから女性の社会進出は進むか」「時間外労働の上限はあるか」など、学生から次々に質問が寄せられ、伊藤先生が回答しました。また、反対に香港の現状を学生に話してもらうなど、講義は大いに盛り上がりしました。その後、伊藤先生が、センターの概要や京都大学における女性研究者、女子学生支援の取り組みを紹介し、講義を終了しました。講義後は全員で記念撮影をし、学生はセンターの保育室を見学した後、笑顔でセンターを後にしました。



## 連載：研究者になる！－第57回－

### 研究者への道程と家庭との両立

理学研究科・准教授 小西 由紀子

2008年に京大数学教室に来て8年になります。実はずっとこの連載を楽しみにしていて、(1)執筆された方がどういう経緯で研究者への道を行っていったのか、また(2)家庭との両立をどうされているのか、興味深く読ませていただいております。そういうわけで私もこの2点について書かせていただきます。

まずは(1)から。高校生のとき素粒子論に憧れて、大学では物理学を専攻しました。しかし、大学院で念願の素粒子論研究室に入れたのはよかったものの、そこで大きくつまずきました。修士1年のとき場の理論と弦理論の教科書を読むセミナーがあったのですが、難しかった。そしてそれが終わったあとは自分でテーマをみつけて研究を始めなければなりません。しかし最新の論文もセミナーの講演もさっぱり分からずで、同期の人たちが着々と論文を書いていくのに焦る日々。ストレスで過食したり、不安で夜中に目が覚めるようになったりしました。鬱にならなかったのはひとえに妹といっしょに暮らしていたため研究以外に逃避できる場所があったからだと思います。見かねた先輩が共同研究に誘ってくださってなんとか論文を書くことができ、学位をとりました。

つまずいた原因は何だったのか、かなり考えました。一つは勉強の仕方にあったと思います。学部時代、私は講義内容しか勉強しませんでした。大学院での研究をみすえて専門の分野の勉強を始めておくべきでした。また、自主ゼミで他の人と議論しながら理解を深めるという経験を積んでおくべきでした。もう一つの大きい原因は私のコミュニケーション能力の低さだと思います。当時周りの人にもっと心を開いて相談していれば、どうすべきか指針を見つけれられたのかもしれない。

さて、今でもそうだと思いますが、私が学位を取った頃の素粒子論業界は大変な就職難でした。大学教員になることはもちろん、国内でポスドクの職を得ることも難しく、優秀な人でさえ海外へ行かざるをえない状況でした。落ちこぼれの私を雇ってくれるところがあるはずありません。もうあとがないという思いで数理解析研究

所の齋藤恭司先生にお願いし、研修員としておいていただくことになりました。(研修員とは研究生のようなものです。)面識もなかった私をあたたかく受け入れてくださった齋藤先生とその研究室の方達には感謝してもしきれません。そこでお世話になった3年間、毎週土曜日のセミナーでとても刺激を受けました。いくつか論文も書け、学振特別研究員となった後に京大数学教室に講師として採用されて現在に至ります。

次に(2)について。両親の不仲を見てきた私は中学生の頃から、結婚とは女性が苦勞するシステムであると考えていました。もちろんこれは一般論としては正しくありませんが、結婚して幸せな人もいるということが、頭では理解できてもなかなか納得できません。やっと納得できたのは数理研時代に尊敬する女性研究者に出会ってからです。

その後共同研究者として夫と出会い結婚しました。研究者どうしだとよくある話だと思いますが、ずっと別居です。4年前妊娠した時に話し合い、夫の職場のある東京都では保育所入所が難しいことから、子供は私と京都で暮らすことにしました。夫は毎週末帰ってきて家事と子供の相手をしてくれます。それでも子供は夫が普段いないのが寂しいようですが、どうしようもありません。

子供がいると仕事にかけられる時間が足りない切実に思います。夕方、あと30分あればこの用事をすませられるのに、というときでも保育園へ迎えに行かなければなりません。家事は家電と食材宅配を利用してできる限り手を抜いていますが、それでも単身時代の倍以上やる必要があります。また家で仕事をしていると子供が遊んでほしがるので、それもできません。もう少し大きくなったら子供が宿題をする隣で論文を読めるようになるのでしょうか。

たまに研究集会に行く機会があると浦島太郎状態の自分を意識してしまって落ち込みます。「自分は研究者としてやっていけるのか」と悩んだ院生時代に戻ったみたいです。でも家族と過ごす時間があるためか昔のように闇雲に不安ではありません。



Gender Equality Promotion Center

〒606-8303 京都市左京区吉田橋町  
 電話 075 (753) 2437  
 FAX 075 (753) 2436  
 E-mail w-shien@mail.adm.kyoto-u.ac.jp  
 HP <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>

# たちばな

## 京都大学男女共同参画推進センター Gender Equality Promotion Center

### 平成28年度2期研究・実験補助者雇用制度 利用者決定

平成28年度2期研究・実験補助者雇用制度の利用者は、19名（女性16名、男性3名）の方に決まりました。

研究・実験補助者雇用制度とは出産・育児・介護等で、十分な研究・実験時間がとれない研究者に対し、研究又は実験業務（注：教育関係の業務は支援対象外）を

補助する者の雇用経費を負担するものです。募集は、年2回（6月、12月）です。本事業は、女性研究者に限らず、男性研究者も対象となります。また、研究分野の文系・理系は問いません。補助者未定でも申請できます。

### 「女子高生・車座フォーラム2016」12月23日（金・祝）に開催

京都大学男女共同参画推進センターでは、京都大学の研究者や科学者の仕事を知ってもらおうと「女子高生・車座フォーラム2016 京都大学を知ろう・研究者と語ろう」を企画しました。

京都大学がどんなところなのか、大学ではどんな勉強や研究をするのか、また大学卒業後の進路にはどんなものがあるのか、などなど、さまざまな疑問に教員や大学院生、学生がお答えします。

日時 2016年12月23日（金・祝）10時～17時  
会場 京都大学国際科学イノベーション棟、他  
参加費 無料  
募集定員 女子高校生100名程度（先着順）  
保護者50名程度

申込方法 男女共同参画推進センターホームページより

<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>

申込期間 2016年9月26日（月）～11月25日（金）



### 第9回京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）応募者募集

京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）は、優れた研究成果を挙げた本学の若手女性研究者を顕彰することによって、研究意欲を高め、我が国の学術研究の将来を担う優れた女性研究者の育成を目的として創設されました。

応募要領など詳細につきましては、京都大学のホームページをご覧ください。

<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/female>

対象 人文・社会科学又は自然科学の分野において優れた研究成果をあげた本学に所属する45歳未満（昭和47年4月2日以降生まれ）の若手の女性研究者

顕彰 たちばな賞 正賞：賞状  
副賞：記念品、賞金10万円  
奨励賞 正賞：賞状  
副賞：記念品、賞金8万円

応募受付期間 2016年11月1日（火）～11月30日（水）





男女共同参画推進センターでは、子育てと仕事や研究の両立支援を目的とした様々な取り組みを行っています。詳細、利用方法については、センターホームページをご覧ください。[http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/ikuji\\_kaigo](http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/ikuji_kaigo)

## 病児保育室「こもも」

「京都大学男女共同参画推進センター病児保育室」は、京都大学教職員・学生の子どもが、病中・病後のため幼稚園・保育園・学校へ登園・登校できない時、親が仕事や研究を休むことなく、子どもの保育ができる環境を提供する施設です。京大病児保育室では、京都大学医学部附属病院と連携し、看護師・保育士が常駐する安心できる環境において、病児の保育を行います。

保育場所	京都大学医学部附属病院 外来棟 5階 ※東玄関（東大路通沿い）から入ってすぐ右にあるエレベーターで5階です。
対象者	生後6ヶ月～小学校3年生までの病中・病後の子ども
利用資格	京都大学教職員及び学生
定員	5名（隔離室を含む）



開室日	月曜日～金曜日
開室時間	7:30～19:00
利用料金	子ども1人につき、1時間あたり500円 （昼食・おやつ代を含みます） ※保護者が学生の場合は、保育料金の半額を大学が負担します。
保育体制	看護師、保育士

## おむかえ保育

「決まった曜日だけ子どもを保育園に迎えに行けない。」「急遽夕方に打合せが入り、保育園のお迎えに間に合わない……」などで、困っていませんか。そんな研究者・学生のために、男女共同参画推進センターでは「おむかえ保育」を実施しています。運営は、民間企業に委

託して実施しています。保護者に代わり、センターが委託している企業から派遣された保育者（シッター）が子どもを保育機関などに迎えに行き、男女共同参画推進センターで一時保育を行うものです。

保育場所	京都大学男女共同参画推進センター保育室
対象者	生後2ヶ月～小学校3年生までの子ども
利用資格	京都大学に所属する学生・研究等に携わる教職員（日本学術振興会特別研究員を含む）
定員	5名程度（兄弟姉妹、年齢構成により異なる場合がある）

開室日	月曜日～金曜日
開室時間	17:00～22:00
利用料金	保育料金は、970円～1,410円/30分（税込） *時間帯により異なる ・利用は2時間以上、30分単位で受付 ・子ども1人についての料金です。 ・学生は保育料金のみ、大学が半額を負担します。 ・交通費・夕食等は別途実費が必要です。 ・状況により、その他利用手数料が必要です。

## ベビーシッター利用育児支援

京都大学男女共同参画推進本部では、本学における教職員の仕事と子育ての両立支援を目的として、「ベビーシッター育児支援割引券」を発行して、ベビーシッター事業者が提供するサービスを利用した場合に、その利用料金の一部を助成しています。

対象事業は以下の2つです。

- ① ベビーシッター派遣事業
- ② 双生児等多胎児家庭育児支援事業



## 保育園入園待機乳児保育室

京都大学男女共同参画推進センターでは、学生及び研究等に携わる教職員の研究と育児の両立を支援することを目的とし、男女共同参画推進センター内に、「平成28年度保育園入園待機乳児のための保育施設」を設けています。この保育施設は、自治体に保育園入園申請をおこなったが、入園待ちを余儀なくされている研究者等を対象とします。



保育場所	京都大学男女共同参画推進センター保育室
開室期間	平成28年4月4日～平成29年3月31日
対象者	原則として生後9週目～15ヶ月未満の健康な乳児（15ヶ月になる月の前月まで利用できます。） 例：2015年12月10日生まれのお子さんの場合、2017年2月末まで利用可能

利用資格	京都大学に所属する学生・研究等に携わる教職員（日本学術振興会特別研究員を含む）
開室日	月曜日～金曜日
開室時間	9：00～18：00 （時間外保育は、8時～9時及び18時～20時までとし、別途利用料が必要）

## フォーラム「これからの人生の話をしよう。 ～あなたのライフプランに新たな選択肢を～」

8月7日（日）、京都大学百周年時計台記念館2階国際交流ホールにて、ライフプランニング応援コミュニティ「choose it.」、京都大学COC事業「COCOLO域」、京都大学男女共同参画推進センターの共催で、男女のライフプランを考えるイベント「これからの人生の話をしよう。～あなたのライフプランに新たな選択肢を～」を開催しました。

ゲストとして、株式会社ワークスアプリケーションズCEOの牧野 正幸氏、日本たばこ産業株式会社多様化推進室長の金山 和香氏、NPO法人ファザーリングジャパン理事の西村 創一朗氏、作家で少子化ジャーナリストの白河 桃子氏、女子学生チームmanma代表の新居 日南恵氏が壇上にたち、前半と後半の二部に分かれてパネルディスカッションを行いました。第一部では、「男女のためのライフプランニング～両立ってできるの？～」というテーマで、金山氏、白河氏、西村氏が自身の子育て経験や育休経験などを踏まえて両立について論じました。第二部では、「これからの働き

方・育児システムについて」というテーマで、牧野氏、西村氏、新居氏が、育児システムを作っていく側の観点から、多様



化していく働き方について激論を交わしました。最後に、男女共同参画推進センター長の稲葉理事・副学長より閉会の挨拶があり、イベントは盛況のうちに終了しました。会場には男女150人もの京都大学を中心とする学生が詰めかけ、学生にとって自身のライフプランを考えるとてもよい機会となりました。

（ライフプランニング応援コミュニティ「choose it.」代表  
京都大学法学部3回生 高島 菜芭）



## 連載：研究者になる！－第58回－

### これまでを振り返って

経営管理大学院・准教授 木元 小百合

以前から、このコーナーで多くの女性教員の方々のメッセージを読ませて頂いておりました。今回この依頼を頂き、私自身は、未だに悩みながら研究・教育者生活を送っていますので、何を書けばよいのやら……と悩みましたが、改めてこのコーナーを読み返し、いろいろな研究者がいてよい、と励まされましたので書かせて頂くことにしました。

私の専門は土木工学の中の地盤力学です。また2年ほど前から、工学研究科（社会基盤工学専攻 地盤力学分野）と経営管理大学院を併任で担当しております。経営管理大学院は今年でちょうど創立10周年を迎えましたが、文理融合のビジネススクールとして、経済と工学（主に土木系専攻）の教員で運営されています。経営管理大学院では、これまでの専門に関連する形で（例えばエネルギー問題、防災工学）、新しい講義を担当させて頂くなど、自身の専門を広げるため模索中ですが、ここでは主に地盤の研究者としてのこれまでを振り返りたいと思います。

高校の進路選択の際には、建築を専門としていた父の影響と、当時、地元である神戸の近くで明石海峡大橋の建設が進められていたことなどにも影響を受けたように思いますが、「土木は面白そう」という直感と、将来は手に職を、と考へ工学部土木系の受験を決めました。京都大学へのあこがれもありました。土木系では、4回生で研究室に配属されますが、その時には「土（地盤）系」の研究室を選ぶことを決めていました。土の力学を当時は3回生ではじめて学びましたが、理論的に複雑でまだ分からない部分が多く、また理論だけではなく現場の経験によるところも大きいところに魅力を感じ、「土」を選びました。当時の指導教員で、その後長くお世話になることになった岡 二三生先生に、4回生の当初「なぜ土質力学を選んだのですか？」と研究室で聞かれ、自分の返事は忘れてしまいましたが、先生は「土の研究は、土の医者になるのと同じ。それぞれの現場で土の特性を知らなければならない」と仰い、やはり土を選んで正解だったと思いました。今も土は分からないことが多く、飽きることはありません。

それ以来、修士・博士課程、その後の教員生活を含め、現在の研究室に18年在籍しています。当時は全く予想していなかったことです。当時も、工学部の大半の学生は修士課程後に就職していました。修士2年の進路選択の際、専門性を活かした仕事に就きたいと思い、民間企業への就職も考えていましたが、自分の希望するようにはいかず、そのころ、「博士課程で研究を続けるという道もある」と指導教員であった岡先生に助言を頂きました。これは私が優秀な学生であったというわけでは全くなく、勉強がしたければウェルカムです、ということであったと思います。が、当時、博士課程で引き続き研究する、という選択肢に心が躍り、その思いにしたがって進学することを決めました。

その後、博士課程を経て、教員という立場になりました。その間も、研究が進まず、研究者に向かないのではないか、と悶々としたこともあります。ここまでやってこられたのは、岡先生をはじめ、先生方、学生を含め、よい出会いに恵まれてきたことと、飽きずに継続できたためであると思います。現在は、講義担当や学内外での仕事も増えました。研究、教育、社会活動の場でいろいろな機会を頂きます。今も、これからの研究の方向性、教員としての理想像など、考えなければならない課題は大きく、悩みは尽きません。が、とにかく何かを吸収して、続けることが大事と考えています。今後も自分と向き合い、周囲への感謝を忘れずに、日々精進したいと思っています。

女性という立場については、不満を感じたことはなく、逆に多くの機会を頂いてきたように思います。ただし、会議や学会でも女性がまだ少なく、マイノリティであることに慣れてしまいましたが、やはり窮屈に感じることはあります。もう少し女性が増えれば、活躍の場はさらに広がるように思います。最近では「ドボジョ（土木女子）」という言葉もありますが、この分野で女性研究者・技術者がもっと増えることを願っています。



Gender Equality Promotion Center

〒606-8303 京都市左京区吉田橋町  
 電話 075 (753) 2437  
 FAX 075 (753) 2436  
 E-mail w-shien@mail.adm.kyoto-u.ac.jp  
 HP <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>

ニュースレター第69号の掲載内容に誤りがありました。お詫びして訂正致します。

P.2 ILAS セミナー「ジェンダーと科学」開講 【誤】医学とジェンダー → 【正】ジェンダーと文化人類学

### 待機乳児保育室 保護者懇談会

11月25日(金)12時～13時にセンター会議室にて、「保育園入園待機乳児のための保育室」の利用者を対象に保護者懇談会を行いました。

育児・介護支援事業 WG 主査の小西 由紀子先生の司会進行で自己紹介の後、保育士さんが子供たちの日々の生活の様子やそれぞれのお子さんの成長について話しました。保護者の方は昼食を食べながら、子供たちの個性あふれるエピソードや成長ぶりに喜び、保育室で撮影した子供たちのスライドに目を細めていました。その後、保育士さんが、子供たちが大好きだという手遊び「アイアイ」「パンダ、ウサギ、コアラ」を紹介し、保護者の方も一緒にやってみました。最後に、小西先生が保護者の方へ、より良い保育室にするための意見を募り、懇談



会を終了しました。短い時間でしたが、保育室でのお子さんの様子を知ってもらい、保育士の先生と保護者が交流する貴重な時間となりました。



### 平成 29 年度第 1 期研究・実験補助者雇用制度の利用者募集

平成 29 年度第 1 期研究・実験補助者雇用制度の利用者を募集します。出産・育児又は介護のために十分な研究・実験時間が確保できない研究者に対し、研究又は実験業務（注：教育関係の業務は支援対象外）を補助する者の雇用経費を助成します。本事業は、女性研究者に限らず、育児・介護等に携わる男性研究者も対象となります。

今回の募集について、雇用期間は平成 29 年 4 月から平成 29 年 9 月末までの間です。応募締め切りは平成

29 年 1 月 13 日(金) 17 時必着、選考結果は 2 月下旬頃に通知する予定です。詳細、申請様式等については、男女共同参画推進センターのホームページをご確認ください。

Web: <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/support/hojo/index.html>

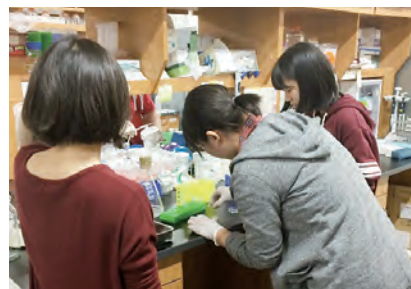
問い合わせ先：総務部人事課職員掛

(g-e@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)

## 第11回女子中高生のための関西科学塾 JST 女子中高生の理系進路選択支援プログラム

女子中高生のための関西科学塾は、科学技術振興機構（JST）の「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の一環として関西の大学が連携し、女子中高生を対象に講演会や実験などを行う企画です。第11回目となる今回は大阪大学を中心に、神戸大学、奈良女子大学、大阪

府立大学、大阪市立大学、京都大学などが参加し開催しました。京都大学では、11月20日（日）に13のテーマで実験講座を行い、高校生109名、保護者25名が参加しました。



### ■京都大学での実験一覧

	テーマ	部局	講師
1	地下を“掘らず”に探してみよう！	工学研究科	後藤忠徳
2	DNA とはなにかー DNA に関する基礎実験	理学研究科	朴昭映
3	カオス・フラクタルの世界を知る	情報学研究科	宮崎修次
4	生物のミクロの世界を実体験！ ～身近な微生物を光学顕微鏡・電子顕微鏡で観てみよう～	人間・環境学研究科	幡野恭子
5	私たちは土を食べている	農学研究科	間藤徹・落合久美子
6	高温超伝導を体感してみよう	理学研究科	吉村一良
7	「にじいろ」を見よう	理学研究科	馬場正昭
8	RNA はストレスを感じる？	物質－細胞統合システム拠点	王丹
9	蛍光顕微鏡で細胞をみる、染色体をみる	物質－細胞統合システム拠点	Peter Carlton・佐藤綾
10	DNA・タンパク質1分子を実際に見てみよう！	物質－細胞統合システム拠点	原田慶恵・韓龍雲・多田隈尚史
11	太陽のにじいろを見てみよう	理学研究科	浅井歩・野上大作
12	イケジョ（医系女子）のお仕事：ヒトを科学する！ 「栄養や酸素の行方を追う」	医学研究科	木下彩栄
13	イケジョ（医系女子）のお仕事：ヒトを科学する！ 「ヒトの脳と人の作業活動を科学する」	医学研究科	木下彩栄



## 連載：研究者になる！－第59回－

いつか「女性」研究者と呼ばれない日

情報学研究科・准教授 小山 里奈

「研究者になる！」に女性研究者の生き方をテーマとした文章を、という依頼を頂き、実は「あ、また女性研究者としての、だ」と思ってしまいました。依頼頂いたのは、「院生時代以降、どんなことに悩み、どんなことを考えて研究者の道を進んできたのかについて」ということなので、それとは少しずれてしまうかも知れないが、何が「あ、また」なのかということは、女性研究者としてやっていくことと大きく関わると思うので、その話をしようと思う。

まず、自分自身のことを少し説明すると、京都大学の農学部・農学研究科で学生時代を過ごし、その後、金沢大学自然科学研究科と鳥取大学乾燥地研究センターで博士研究員、いわゆるポスドクのポジションを2つ経験した。現在は、情報学研究科社会情報学専攻の生物圏情報学講座で准教授を務めている。この研究室は様々な生物を対象とした研究を行っている、特に野外で調査をしてデータ収集を行うことが多いのが情報学研究科の中でも他の多くの研究室とは違うところだろう。私自身も国内外のフィールドで生物の調査をしている。この研究室の助手として採用されたのが2004年、その後助教に称号が変わったり、准教授に昇任したり、と立場は変わったが、同じ研究室にもう12年もいることになる。

学生・ポスドクでいた間に、自分が「女子」学生・「女性」研究者である、ということ強く意識したことがあったか？今考えると、実はあまりそんなことはなかった。「女性」研究者を意識したり、「女性」教員としての意見や貢献を求められたりするようになったのは、情報学研究科に当時唯一の女性教員として着任してからだ。

学生の頃は、周囲に普通に女子学生・女性教員がいたこともあって、女性の比率がどれだけか、あまり問題にしたことはなかった。ところが教員となってからは、研究科全体で100人を超える教員のうち女性は現在3名、女子学生の比率も12.5%と京都大学全体での比率の半分程度という現状を事ある毎に意識することになる。まず、着任してすぐに研究科のハラスメント相談窓口担当に。また、女子学生・女性教員が少ない状況の改善を目指して、環境改善について要望を聞いたり、学生同士の交流をはかってもらったりすることを目的に、研究科として女子学生懇談会が開催される。「トイレの個室に棚が欲しい」「女性専用の休憩スペースが欲しい」などここで出された意見から実現したものもあるし、学生同士が知り合ったことがハラスメント対応につながっ

たといったケースもあった。女性教員の懇談会もあって、教員が少ないのだから当然出席者はほとんどが職員だが、ここでも環境改善についての意見が聴取される。何だか色々手厚く扱われている。

しかし、予期していなかったのが、女性教員・女性研究者として、一言挨拶をとか、プレゼンをとか、広報的な活動が求められることが研究科の内外、学内外を問わずちょくちょくあることだ。「〇〇で話をして下さる方を探しているのですが、できれば女性を……」というケースもある。要は、看板に出ている男女比を1:1に近づけるため、サンプリング比率は偏っているのだ。

そんなに頻度は高くない。そればかりやらされてるといふ不平不満を言うほどの負担ではない。でも、何度も繰り返していると、疑問に思えてくることもある。これを引き受けることで、本当にこれが現在の、あるいは将来の女性研究者に役に立つのか？もしかして、「ほら、ここには女性もちゃんといますよ」というトークンになってしまったら、逆効果になりはしないだろうか？それよりも、「女性研究者のため」を目指していいのか？

おそらくこんなことを言えるのは、女性研究者・女性教員が現在よりももっと少なく、想定外としての扱いあるいは反発があった頃に、その中でもやってきた方がおられるからだと思う。男女共同参画推進センターのように、組織として状況を改善しようとされている方達の努力もある。また、研究だけでなくどんな分野でも今問題になっている、結婚・出産・育児と仕事をどうやって両立させていくのか、ということについて、たまたま私個人が今のところ大きな問題を抱えていないということもあると思う。

それでもやはり、最終的に目指す方向は、『女性』といちいち言わないでいい、女性研究者が「女性として」の意見を求められなくなることはないだろうか。大学院生が性別関係なく研究をしていくために必要な環境整備を軽視する訳ではないし、将来大学院生になる人たちを含めて大学や学界の外に向けてメッセージを発する必要があると考えている訳でもない。ただ、その先を、つまり本来の目的を、忘れないようにしなければ、と思うだけだ。私の仕事は研究と教育だ。研究内容にも教育内容にも、私の性別は関係ない。「女性として」の諸々を引き受けるのは、いつか、「女性」研究者と呼ばれない日が来るのに役立つ欲しいからなのだ。



Gender Equality Promotion Center

〒606-8303 京都市左京区吉田橋町  
 電話 075 (753) 2437  
 FAX 075 (753) 2436  
 E-mail w-shien@mail.adm.kyoto-u.ac.jp  
 HP http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/

# たろばな 京都大学男女共同参画推進センター Gender Equality Promotion Center

## 女子高生・車座フォーラム 2016

12月23日(金)、京都大学国際科学イノベーション棟シンポジウムホールにて「女子高生・車座フォーラム 2016」を開催しました。このフォーラムは、男女共同参画推進センターが中心となり、女子高校生に京都大学の研究者や科学者の仕事を知らせてもらおうという企画で、今年で11回目の開催となります。高校生129名、保護者64名の参加がありました。



はじめに、今村 博臣男女共同参画推進センター広報・相談・社会連携事業ワーキンググループ主査の司会進行で、稲葉 カヨ理事・副学長より開会の挨拶がありました。車座フォーラムについて当初は30



名程度で始まったものが、京都大学へより多くの女子学生に入って来てほしいという願いから規模を拡大してきたと語り、京都大学では男女共同参画アクションプランや山極総長が打ち出しているWINDOW構想において次世代育成を掲げ、総長をはじめ全学一丸となって女子学生の支援をしていきたいと思っていますと述べました。最後に、「希望あるいは夢を持ってそれが実現する

ように何事にもチャレンジしていただきたい。大学受験も夢を実現するための一歩です。今日一日が皆さんにとって実りある、楽しい、よい経験だったと言えるような一日になることを願っています。」と高校生を激励しました。

次に、川添 信介理事・副学長が、京都大学について紹介をしました。山極総長の掲げているWINDOW構想について、大学とは閉じた場所ではなく社会や世界に向けて学生を送り出す窓であると述べ、京都大学は規



模が大きく様々な分野があり、学ぶことのできる範囲が非常に大きい総合大学であると説明しました。京都大学の理念である「対話を根幹とする自学自習」について、教えてもらうのではなく自分で考え自分で学ぶ姿勢、尚且つ独りよがりにならないで多くの人と交わりながら学ぶ姿勢を大切にしていると述べ、「自由の学風」については、常識に捕らわれない自由な発想を大事にしており、京都大学がノーベル賞受賞者を多く輩出したのは、そうした学風によるものかもしれないと語りました。最後に、「山極総長はいつも“おもしろい”という言葉をお使いになっていますが、是非ともおもしろいことを探しに京都大学に来ていただくことを期待しています。」と締めくくりました。

続いて、教育推進・学生支援部入試企画課より、平成29年度学生募集要項についての説明があり、アドミッションポリシーや入試についての説明がありました。

その後、生命科学研究所の大澤 志津江准教授が「生命現象の美しさに惹かれて」の題で講演を行いました。大澤先生は高校時代の恩師の「出会いというのは、それまで何でもなかったものが自分にとってかけがえのないものになることなんだ。だから出会いを自分自身で積極的に求めて歩いていってください。」という言葉を紹介し、現在している研究が大澤先生にとって一つの大きな出会いだったのではないかと語りました。そして、「大学に入るといことは人生の中の一つのプロセス







であって、その後、様々な出会いを通して周りの人たちから影響を受け、自分のやりがいや生きがいを見つけていくのだということや少しでも感じていただければと思います。」と高校生に語り掛け、大澤先生が高校生の頃からどのように研究の道を歩んできたかについて話をしました。高校時代はバスケットボール部の活動に励み、将来については化学や癌の研究、理学療法士にも興味があり、何が一番やりたいのかわからない中、化学で行った実験で劇的な物の変化を目の当たりにしたとき、生命現象を学びたいと思い、東北大学理学部の化学科に進んだと語りました。そして、学ぶうちに自分の身体で起きている現象を理解したいと思うようになり、生物系の研究室である藤井 義明先生の研究室に入り、そこで藤井先生が夢を語る姿に、そこまで熱くさせる研究とはどういうものなのかと興味を持ったと振り返りました。研究を進めていくうちに、自分なりに考え、文献を調べ、アドバイスをもらいながら進めていく研究の面白さに目覚め、明確にやりたいことを決めてそれに向かって進んでいる同期に影響され、自分のやりたい研究は何かと考えたとき、細胞死の研究に興味を持ち三浦 正幸先生の研究室に入ったと話しました。そして、研究する中で見た神経細胞が決まった位置へ投射する現象や細胞死遺伝子カスパーゼが活性化する現象の美しさに感動し、自分の研究への強い愛着が生まれ、現象を理解したい、調べたいという強い気持ちが研究を続けていくきっかけになったと熱く語りました。また、この頃には自分が研究者に向いているかという視点ではなく、好きだからやりたいと思うように考え方が変わったと心境の変化についても言及しました。井垣 達史先生の研究室に移り准教授になり、学生から教員になったことで、違う考えを持つ人と一緒に研究を作っていく楽しさ、学生の成長を見ると新しい研究の楽しさが見えてきたと話し、これからも新しい研究の楽しさを見つけて進んでいきたいと語りました。論文を受理してもらえないことが続くなど苦しい時期があっても研究をやめたいと思ったことは一度もなかったと話し、それについては、愛着のある

現象を自分で見つけて調べ、なかなか結果が出ない中でも調べ続けるうちに思いもしなかったような新しい現象が見つかり、更に自分の研究に愛着が生まれる、その繰り返しによって研究を続けることができているのではないかと分析しました。プライベートではテニスを始め、ひと時研究から離れることでまた新たに研究のことを考えることができ、テニスでつながった研究者と研究のディスカッションを深くできるなどよい影響があり、生活を充実させてくれていると語りました。最後に、「これから高校生活でいろいろな体験をされるでしょうし、卒業後も楽しいことや面白いこと、辛いこともいろいろあると思いますが、とにかく一つでも愛着の持てるものを見つけてほしいと思います。待っていても絶対に見つからないので自分から積極的に求めていって、見つけた愛着を持ったものを大事に生きていっていただけたらと思います。」と高校生にエールを送りました。

その後昼休憩に入り、昼休憩後はグループワークの説明と講師の紹介がありました。高校生は希望学部別のグループに分かれ各部屋に移動し、グループワークを行いました。高校生には事前に聞きたいことを質問用紙に記入してもらっており、それをもとに学生スタッフが主に受験勉強や学生生活などについて実体験を、講師が研究生生活や専門などについて語りました。和気あいあいとした雰囲気の中、「京都大学に決めたのは何故ですか」「どうやって学部を決めましたか」「受験勉強はどのようにしましたか」「どのような就職先がありますか」「高校時代にしてよかったことはありますか」「興味がすぐに変わってしまうのですが、どのように決めるといいですか」「何か取れる資格がありますか」など時間いっぱい様々な質問がありました。

高校生がグループワークに参加している間、保護者は京大生との交流会に参加しました。稲葉理事の挨拶の後、保護者から京大生へ学校生活や学部などについて疑問に思うことを質問してもらい、学生が回答しました。

グループワーク終了後は再び全員で集まり、まとめの会を行いました。グループワークの最後に、グループ



ワークで聞くことができなかった質問や学部を超えた質問などを質問用紙に記入してもらっており、伊藤 公雄男女共同参画推進本部支援室長の司会進行で、それぞれの質問に各分野の講師が回答しました。「心理学はどの学部で学べますか。」「法律を学ぶとどのような仕事に活かせますか。」「物理を学びたい場合は理学部と工学部でどのように違いがありますか。」「血が怖くても医学部でやっていけますか。」などたくさんの質問があり、学部ごとの特徴や学べることの違い、就職先などについて幅広く話がありました。最後に、伊藤支援室長が「今日は京都大学のいろんなことを知っていただけたと思いま

す。人権の観点からも学問や経済の活性化のためにも、女性の参画、社会に多様な人が必要です。女性が入っているような研究、いろんな議論をし、学問を活性化させるためにも、ぜひ意欲を持って京都大学に来ていただきたいと思います。」と締めくくりました。



その後、入試に関する質疑応答が行われ、車座フォーラムは盛況のうちに終了しました。

## グループワークの様子



文学部・教育学部



法学部



経済学部



理学部



医学部（医学）



医学部（人間健康科学）



薬学部



工学部



農学部



総合人間学部（文系）



総合人間学部（理系）



保護者（京大生との交流）

### 車座フォーラム参加者の声（アンケートより）

- ・直接、京大生や教授の方と語り合うことができ、研究することの楽しさや、おもしろさを感じることができました。また、お話を聞いて、今後、どのように学部・学科を詳しく決めていくかの大体の方針のたて方が分かって良かったです。
- ・オープンキャンパスでは、先生や学生さんと1対1で会話する企画に参加したけれど、今回はグループ討論ということで同い年の女子高生の子たちの質問をたくさん聞くことができ共感したり、刺激を受けることがたくさんあった。質問に対する応答も分かりやすかったし、自分では気づかなかった質問に対する答えを聞くことができ楽しかった。このような機会を設けて頂き、参加できて本当に良かった。
- ・学生さんや先生たちとグループワークと聞いて堅苦しいんだろうなと思っていたら、とても柔らかく親しみやすいものだったので良かったです！女子高生だけなので、とても取り組みやすかったです。
- ・好きな学問を深く学べるという意味で研究職はとても魅力的だと思った。女性研究者の支援もあり、研究しやすくなっていることがわかったので良かったです。
- ・実際に研究者の話聞いて、良い機会に恵まれたなと思いました。いい経験になりました。こういう機会はなかなかないので、思いきって行って本当に良かったです。これからも自分の好きなものを追いかけて頑張りたいと思います。



## 講師・グループ・会場

グループ	氏名	所属	研究分野	会場
文・教育	伊藤 公雄	文学研究科	文化社会学、メディア研究、ジェンダー論	総合研究 8 号館 数理会議室
	中川 純子	学生総合支援センター	臨床心理学、学生相談	
法学部	横山 美夏	法学研究科	フランス法・民法	総合研究 8 号館 演習室 1
経済学部	井上 恵美子	経済学研究科	気候変動、企業の自主的環境対応	国際科学イノベーション棟 会議室 5a
理学部	常見 俊直	理学研究科	理学と社会交流、科学コミュニケーション、社会連携	総合研究 8 号館 会議室 1
	村山 美穂	野生動物研究センター	遺伝情報に基づく野生動物の保全	
医（医学）	木梨 友子	原子炉実験所	放射線腫瘍学、放射線生物学、放射線管理学	国際科学イノベーション棟 ミーティングルーム
医（人間健康科学）	若村 智子	医学研究科	生活環境看護学、時間生物学、睡眠	総合研究 8 号館 演習室 2
薬学部	瀬原 淳子	再生医科学研究所	動物の発生・再生メカニズム	総合研究 8 号館 演習室 3
工学部	佐藤 亨	情報学研究科	電波工学、レーダー、イメージング	総合研究 8 号館 講義室 3
	島田 洋子	工学研究科	環境リスク評価、環境汚染モデリング	
農学部	徳地 直子	フィールド科学教育センター	森林生態系生態学、物質循環	総合研究 8 号館 講義室 4
	今村 博臣	生命科学研究所	生物物理、生化学、化学生物学、細胞生物学	
総人（文系）	小山 静子	国際高等教育院	教育史・家族史・ジェンダー史	国際科学イノベーション棟 会議室 5b
総人（理系）	東樹 宏和	人間・環境学研究科	生態学、進化生物学	総合研究 8 号館 会議室 2

## 学生スタッフ

グループ	氏名	所属
文学部・教育学部	鈴木 慎介	文学部
	渡 智一郎	文学部
	大坂 陽子	教育学部
法学部	桑原 静羽	法学部
経済学部	水野 寸奈於	経済学部
	志賀 琴乃	経済学部
理学部	佐藤 悠	理学研究科
	磯田 珠奈子	理学部
	栗原 悠宇希	理学部
医学部（医学）	向平 妃沙	医学研究科
	西尾 周朗	医学部
	三木 麻紗与	医学部
医学部（人間健康科学）	勝島 倫子	医学部
薬学部	油田 祥太郎	薬学部
	清水 海斗	薬学部
工学部	田中 雄大	エネルギー科学研究科
	佐治 奈萌子	工学研究科
	石田 彰紀	工学部
農学部	三木 健司	農学研究科
	富永 溪太	農学研究科
	岡田 瀬礼奈	農学部
総合人間学部（文系）	堀川 亮祐	総合人間学部
	高橋 連	総合人間学部
総合人間学部（理系）	岡村 名七子	総合人間学部
	下村 風香	総合人間学部

## プログラム

- 10：00-10：30 受付：京都大学国際科学イノベーション棟  
シンポジウムホール
- 10：30-10：35 開会の挨拶 （理事・副学長 稲葉カヨ）
- 10：35-10：55 京都大学の紹介 （理事・副学長 川添信介）
- 10：55-11：10 入試に関する説明  
（教育推進・学生支援部 入試企画課）
- 11：10-11：30 女性研究者の講演  
「生命現象の美しさに惹かれて」  
（生命科学研究所 大澤志津江）
- 11：30-13：00 昼食・休憩
- 13：00-13：40 講師紹介・グループワークの説明  
（広報・相談・社会連携事業 WG 主査 今村博臣）
- 13：40-15：00 グループワーク「車座になって話そう」  
高校生：講師・京大生とのグループワーク  
保護者：京大生との交流
- 15：00-15：10 休憩
- 15：10-15：50 まとめの全体会  
（男女共同参画推進本部支援室長 伊藤公雄）
- 15：50-16：00 休憩
- 16：00-17：00 入試に関する質疑応答  
（教育推進・学生支援部 入試企画課）

## Gender Equality Promotion Center

〒606-8303 京都市左京区吉田橋町  
 電話 075 (753) 2437  
 FAX 075 (753) 2436  
 E-mail w-shien@mail.adm.kyoto-u.ac.jp  
 HP http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/

## Ⅱ 「育児・介護支援」事業

## 育児・介護支援事業ワーキンググループ活動報告

当ワーキンググループは京都大学構成員の育児と介護に関する支援活動を行っています。今年度は4月に男女共同参画推進センター内に待機乳児保育室を開室いたしました。ここでは京都大学の学生・研究者を対象として、認可保育所に入所できなかった生後15ヶ月までのお子さんをお預かりしています。当保育室の利用状況を見ますと、2017年2月、3月には利用者数は定員18名に達しており、依然として年度途中での保育所入所は厳しい状況であることを感じます。また男性利用者の割合は約3分の1であり、男性研究者からのニーズも高いことがうかがえます。留学生や外国人研究者の利用者も増えています。



利用者の中には、月齢制限のために、お子さんの保育所が決まらないまま退室せざるをえない方も少なからずおられます。京都市の一時保育などはほぼ空きがないようですので、そのような方への支援対策は今後の課題です。

育児・介護支援事業 WG 主査 小西由紀子

### ■H28 活動記録

- ・4月4日(月) 平成28年度保育園待機乳児保育室を開室
- ・11月25日(金) 待機乳児保育室利用者の懇談会開催

## 京都大学男女共同参画推進センター 平成 28 年度「保育園入園待機乳児のための保育施設」利用案内

京都大学男女共同参画推進センターでは、学生、研究者の研究と育児の両立を支援することを目的とし、男女共同参画推進センター内に、「保育園入園待機乳児のための保育施設」を設けます。この保育施設は、現在、保育園の入園待ちを余儀なくされている研究者等を対象とします。運営については、民間企業に委託し、大学が一部費用を負担して実施します。

### ◇保育施設の概要

施設の名称: 京都大学男女共同参画推進センター保育園  
入園待機乳児保育室

施設の所在地: 京都市左京区吉田橋町 京都大学男女共同参画推進センター内

受入定員: 4 月～5 月: 3 名、6 月～8 月: 6 名、9 月～翌 3 月: 18 名

### ◇保育の概要

開室期間: 平成 28 年 4 月 4 日から平成 29 年 3 月 31 日

開室日: 月曜日～金曜日 (国民の祝日に関する法律に定める休日、大学の創立記念日、大学が定める夏季・冬季休業期間を除きます。また、京都大学男女共同参画推進センター長がやむを得ない事情により必要と認めるときは、臨時に休室することがあります。)

開室時間: 9 時～18 時

時間外保育は、8 時～9 時及び 18 時～20 時までとし、別途利用料が必要です。

対象乳児: 入室時生後 9 週目～平成 29 年 3 月末時点で 15 ヶ月未満の健康な乳児 (15 カ月になる月の前月まで利用できます。)

運営体制: 運営を保育業者に委託します。

### ◇利用条件

利用資格: 京都大学に所属する学生・研究等に携わる教職員 (日本学術振興会特別研究員を含む)

★開室期間: 平成28年4月4日～平成29年3月31日  
★開室日時: 月曜日～金曜日 午前9時～午後6時  
(時間外保育は、午前8時から9時/午後6時から8時)  
★保育場所: 京都大学男女共同参画推進センター  
★利用資格: 京都大学に所属する学生、研究等に携わる教職員  
(日本学術振興会特別研究員を含む)  
★対象乳児: 生後9週目～15ヶ月未満(退室時)の健康な乳児  
★定員: 4月～5月: 3名、6月～8月: 6名、9月～翌3月: 18名  
※平成28年度新入学生・新規着任者、及び諸事情により自治体の保育所の4月入所に申し込めなかった方を優先します。  
詳細は男女共同参画推進センターのホームページで!  
<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/index.php>

利用料金 (税込、乳児 1 人あたり):

週5日利用: 50,000 円/月、学生 40,000 円/月

週4日利用: 44,000 円/月、学生 35,000 円/月

週3日利用: 35,000 円/月、学生 28,000 円/月

週2日利用: 25,000 円/月、学生 20,000 円/月

※1) 週4日、週3日、週2日の利用は、あらかじめ曜日を指定して、利用するものとします。

※2) 月の途中の入・退室は日割り (1 日 2,500 円/学生 2,000 円 (税込)) 計算も可能です。

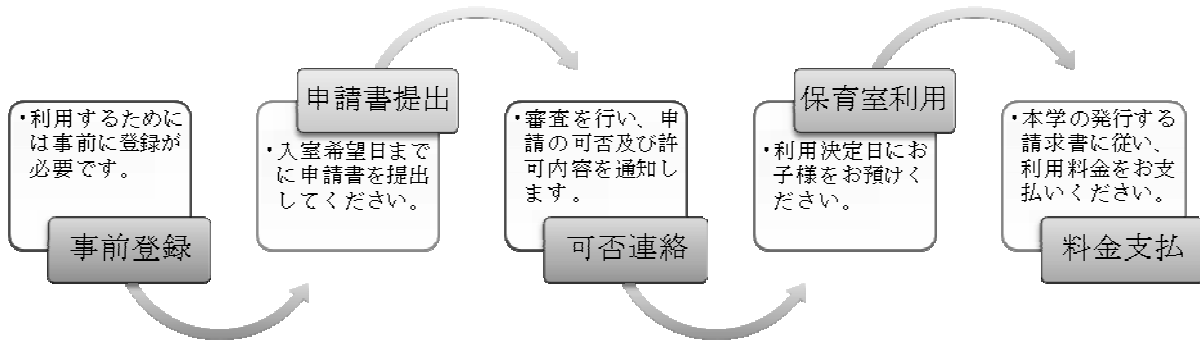
※3) 時間外保育料金は、30 分 1,000 円/学生 800 円 (税込、乳児 1 人あたり) です。

※4) 紙おむつ、ミルク、おやつ、食事等は利用料金に含まれませんので保護者が持参してください。

※5) 双子等の複数の乳児が利用する場合の利用料金は、乳児1人当たりについて、所定の利用料金に 80/100 を乗じた額とします。

入室申込: 1 ヶ月単位での申込みとします。但し、入・退室の月はこの限りではありません。

## ◇利用方法



### 1. 事前登録

利用希望の方は、別紙 1「事前登録票」に必要事項を記入のうえ、事前登録を行ってください。事前登録票は、ホームページ (<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp>) からダウンロードし、メールで送付することもできます。

送付先:京都市左京区吉田橋町

京都大学男女共同参画推進センター保育室利用係

メールアドレス:w-shien@mail.adm.kyoto-u.ac.jp

### 2. 保育室利用申請書提出

原則として、入室希望日の 1 ヶ月前までに、別紙 2「利用申請書」・別紙 4「健康・身体状況伺い書」を提出してください。送付先・方法は事前登録と同様です。ただし、特別な事由のある場合は、事前登録票と合わせて、入室希望日の 1 ヶ月以内の提出も受け付けます。なお、申請事項に変更が生じた場合は、別紙 3「利用変更申請書」に変更内容を記載し提出してください。

なお、保育室入室までに自治体が発行する利用不可通知の控えを提出する必要があります。

### 3. 申請結果通知書の交付

受入の可否については書類審査を行って決定し、男女共

同参画推進センターから申請者に「申請結果通知書」によりお知らせします。

### 4. 保育室の利用

保育室の利用については、「保育室利用の手引き」及び「京都大学男女共同参画推進センター保育園入園待機乳児保育室利用規程」を遵守し、利用してください。

### 5. 料金の支払い

利用者は、所定の方法で定められた期日までに、本学が発行する請求書によりお支払いください。

\*利用登録・申請において得た個人に関わる各種情報は、保育室の各業務及びそれらの業務に関する連絡・問い合わせのために利用します。

### 別紙一覧(省略)

別紙 1:「保育園入園待機乳児保育室」利用の事前登録票

別紙 2:「保育園入園待機乳児保育室」利用申請書

別紙 3:「保育園入園待機乳児保育室」利用変更申請書

別紙 4:「保育園入園待機乳児保育室」健康・身体状況伺い書

## ■保護者懇談会(2016年11月25日)



「保育園入園待機乳児のための保育室」の利用者を対象に保護者懇談会を行いました。育児・介護支援事業WG主査 小西由紀子先生の司会進行で、昼食を食べながら、子どもたちの保育室での様子をスライドで見たり、保育士さんから手遊びを教えてもらうなどして交流を深めました。



## 平成 27 年度待機乳児保育室 利用者アンケート（回答者：16 名）

### ・どうやってこの待機乳児保育室を知りましたか

センターの HP を見て：9 名

知人の紹介：4 名

ポスターを見て：3 名

### ・翌 4 月以降の状況

認可保育園・認定こども園を利用：15 名

小規模保育事業所を利用：1 名

### ・月齢制限のため、年度途中で退室された利用者の方対象（3 名）

#### 3 月末までの状況

認可保育園・認定子ども園へ入ることができた：2 名

次が決まらなかったため、自宅で世話をした：1 名

### ・利用者の声

・とても可愛がってくれ、こどもも保育室が大好きな様子だったので、安心して預けることが出来ました。ありがとうございました。

・2ヶ月の間、大変お世話になりまして、本当にありがとうございました。

15か月に達したため、退室した直後は、その後の保育園が決まっておらずどうしようか悩みましたが、運よく1月より上の子が入っている保育園に入所が可能となり、なんとか仕事を続けることができました。京都市の一時保育システムも、ほとんど空きがない状態で、職場に保育所があったということ自体、心強かったです。

・4月からの保育所の説明会で、細かいルールがあって希望どおりの対応が難しいことも多々あり、これまで保育室で当たり前のように対応していただいていたことが、実は柔軟に対応していただいていた事に気づかされました。恵まれた環境だったのだと改めて感謝しました。

・産休明けの復帰で不安が大きかった中、保育室の雰囲気がよく安心して預ける事ができました。ラボから近く、昼間に母乳をあげに行きやすかった点もとても良かったです。また認可保育園とあまり変わらない料金で利用する事ができありがたく思っています。

私は3月まで預ける事が出来ましたが、15ヶ月に達したために年度途中での退室を余儀なくされる方を見てきました。スペースの関係などで難しいかもしれませんが、15ヶ月を過ぎても年度末まで預けられるようになるといいように思います。

とはいえ、年度途中で認可保育園に入園するのが難しい中、このような施設があることは、働きながら出産育児をする上で大きな励みになりました。どうもありがとうございました。

・ちゃんと保育室に馴染めるかどうか、最初預ける際には夫婦共々心配をしていました。しかし、娘はすぐに慣れてくれ、親として非常に救われました。保育室としての規模（広さ、園児の数、先生の人数）が調度良く、なおかつ田中先生を始めとした先生方が優しく親身にしていただいたおかげでだと感じています。誠にありがとうございました。

来年度以降も、同じように育休から復帰する家族を支援していただきたいと思います。また、特に年明けから先生方にも疲労の色が感じ取れることが何度かあり、保育士さんの職場環境としてももう少し負担が少なくなればよいと感じています。

・もしよろしければ、慣らし保育の期間の利用もできるようになるとありがたいです。よろしく願いいたします。

・お家で子供を育てているように、とても丁寧にして頂き、感謝します。

4月からは認可保育園になりますが、そっちの環境に慣れてくれるか心配です。

・年度の最後まで見ていただけると助かりましたが、短期間でも保育所が利用できたことは本当に感謝しています。

・非常によくしていただき、ありがとうございました。

妻の職場復帰も早期にでき、助かりました。

・4月生まれでしたので、そのうちに認可保育園に入れるだろうと踏んでいましたが、結局、3月まで待機乳児保育室でお世話になりました。

先生方はとても丁寧に子どもと接して下さり、子どもも先生方が大好きなようでした。連絡ノートや送迎時の会話で子どもの様子を詳しく教えて頂き、こちらも安心しました。また、温かい言葉に励まされました。感謝感謝な保育室だったのですが、もし改善できるのならば助かるな、と言う点があります。布団についてですが、基本的には毎週持ち帰りで負担になります。次の保育園で使わないのであれば、1年で無駄になってしまいます（例えば上の子の保育園は布団なしです）。布団は保育室で用意して頂いて、タオルの

みとなればとても助かります。

他にもミルク、哺乳瓶を保育室で用意して頂ければ、と思うのですが、通年ではなく人数も一定ではない、待機乳児室という特殊性からそれは難しいのかな、とは思っていました。

短い間でしたが、大変お世話になりました。保育室のおかげで、安心して育児をしつつ仕事を続けることができました。とても感謝でいっぱいです。ありがとうございました。

・たくさんの先生方に丁寧に見て頂いて、親子ともに笑顔で過ごすことができました。1カ月と短い期間の通園だったのが、すこし残念。もう少し長く、先生方や子供たち、お母さんたちとおしゃべりしたかったです。ありがとうございました！！

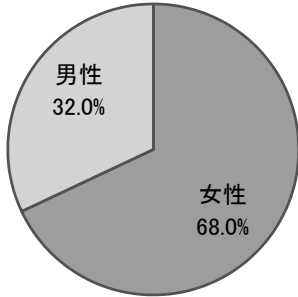
・先輩大学院生のご紹介で待機乳児保育室のことを知りました。平成27年7月1日から認可保育園に入所することができましたが、5月から6月末までの間、待機乳児保育室を利用させていただき、研究に復帰することができ、大変感謝いたしております。スタッフの皆様に温かくお迎えいただき、細やかに子どもをみていただき、大変ありがたく存じております。

・大変お世話になり、ありがとうございました。昨今の保育園事情がなかなか厳しい中、保育室を利用させて頂くことができ、また、非常に丁寧な保育をして下さり、とても感謝しています。

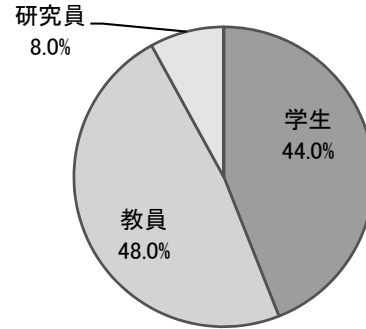
保育室で楽しい時間を過ごせたお陰か、家の外で日中過ごすことを然程嫌がらず、4月から新しい保育園でまずまずのスタートを切ることができました。それでも最初の数日は新しい先生に抱っこされた瞬間大泣きをし、保育室を利用させて頂いている間はあまり感じなかったのですが、人並みに人見知りがあるんだなあ、と気付かされた次第です。娘にとって保育室や保育士の先生方は第2の家のような、自然に安心して過ごせる場所だったようで、そのような素晴らしい環境をご提供頂いたことに改めて感謝申し上げます。

# 平成 28 年度待機乳児保育室利用実績

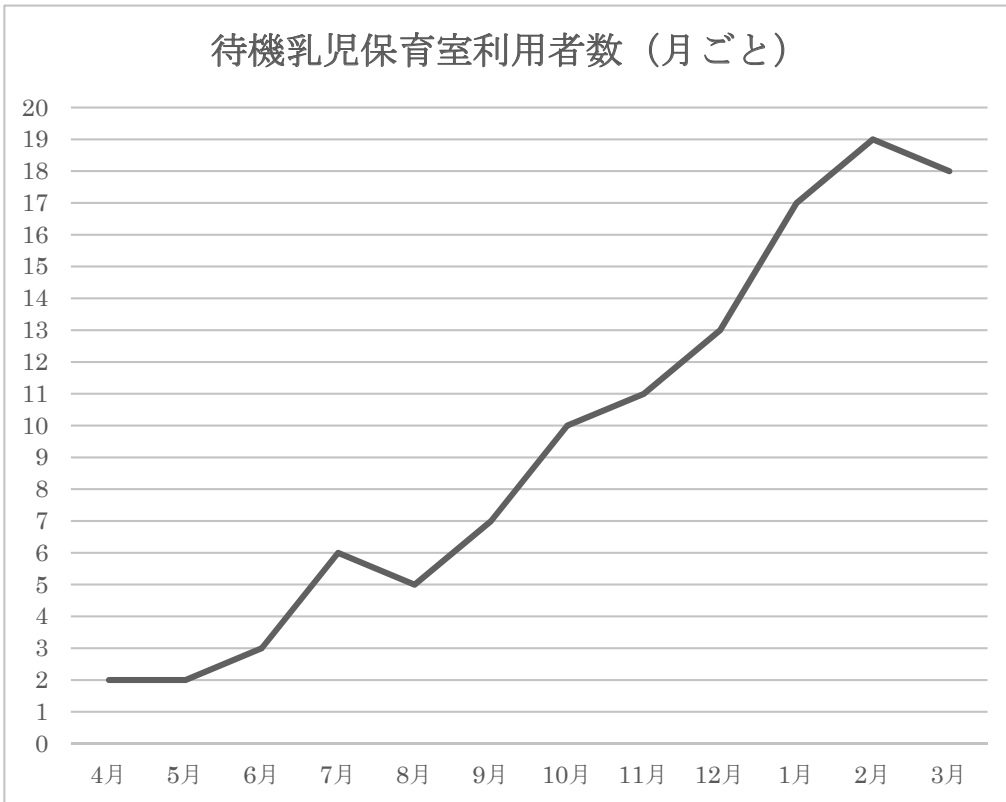
## 性別集計



## 身分別集計



## 待機乳児保育室利用者数（月ごと）



## おむかえ保育

### ■利用案内

決まった曜日だけ子どもを保育園に迎えに行けない。急遽夕方に打合せが入り、保育園のお迎えに間に合わない…などで、困っていませんか。そんな研究者・学生のために、男女共同参画推進センターでは「おむかえ保育」を開設します。この保育は、研究等仕事の都合で子どもを保育機関に迎えに行けない保護者に代わり、保育者が子どもを迎えに行き、男女共同参画推進センターで一時保育を行うものです。運営については、保育業者に委託して実施します。ご利用を希望される方は、下記の内容を熟読のうえ、お申し込みください。

### ◇利用条件

利用資格:

京都大学に所属する学生・研究等に携わる教職員(日本学術振興会特別研究員を含む)

保育対象:

生後2カ月から小学3年生までの利用資格者の子ども

利用定員:

子ども5人程度(兄弟、年齢構成により異なる場合がある)

利用料金:

①保育料金970円(税込)/30分～1,410円(税込)/30分(時間帯により異なる)

\* 子ども1人についての料金です。

\* 利用は2時間以上、30分単位で受け付けます。

\* 学生は保育料金のみ、大学が半額を負担します。

②その他利用手数料(状況により異なる)

※交通費・夕食等は別途実費が必要です。

※詳細については別紙3「おむかえ保育利用料金表」をご覧ください。

#### 1. 事前登録(無料)

別紙1「おむかえ保育事前登録票」に必要事項を記入のうえ、利用希望日の2日前の15時までに事前登録を行ってください。登録事項に変更が生じた場合は、再提出してください。

#### 2. 利用方法

##### (1)利用申込(FAX)

利用希望日の2日前の15時までに、別紙2「おむかえ保育申込票」を、センターにメールかFAX(075-753-2436)にて申込みをしてください。

事前登録票を2日前までに提出済みで、特別な事由のある場合は、利用希望当日の15時まで申込を受け付けます。ただし、利用希望当日の申込みの場合は、保育者手配の都合によりご希望に添えない場合がありますのであらかじめご了承ください。



##### (2)利用申込受付連絡

別紙2の申込票の受信を確認後、センターから、指定された連絡先に受付確認の連絡をします。

##### (3)利用可否連絡

申込日の翌開室日に、センターから利用の可否を電話連絡します。当日申込の場合は、16:30までに利用の可否を電話連絡します。

##### (4)保育者との打合せ

保育者手配が可能な場合、利用前日(当日申込の場合は当日)に保育者から保護者に電話がありますので、迎えに行く保育機関の場所、方法、夕食の有無、実費支払いの金額等について、トラブルにならないよう詳細に打ち合わせを行ってください。

子どもの夕食は、保護者が用意するか、保育者に購入を希望する場合は、コンビニエンスストア等で購入できるもの(おにぎ

り、パン等簡易なものに限る)を指定してください。

乳児のミルク、離乳食(レトルト食品など)、哺乳瓶、おむつ、着替え等は保護者が用意してください。

### (5)利用

利用にあたっては、「京都大学男女共同参画推進センターおむかえ保育利用規程」を遵守してください。

お子様が当日熱のある場合や、伝染病疾病の疑いのある場合は利用できません。この場合、キャンセル料が発生しますので、あらかじめご了承ください。

### 3. 料金の支払い

保護者は、所定の方法で定められた期日までに、本学が発行する請求書によりお支払いください。振込手数料は、保護者負担となります。

利用料金①、②に掲げる以外の料金(交通費、夕食費等)については、子どもをセンターに迎えに行った際、実費額を保育者へお支払いください。

### ◇保育について

保育場所：京都市左京区吉田橋町 京都大学男女共同参画推進センター保育室

### ◇補償制度について

万一の事故の場合には、施設に起因する損害は国立大学法人総合損害保険、業務に起因する損害は保育委託業者の賠償責任保険が適用されます。

○事前登録票、申込票は、ホームページ

(<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp>)からダウンロードできます。

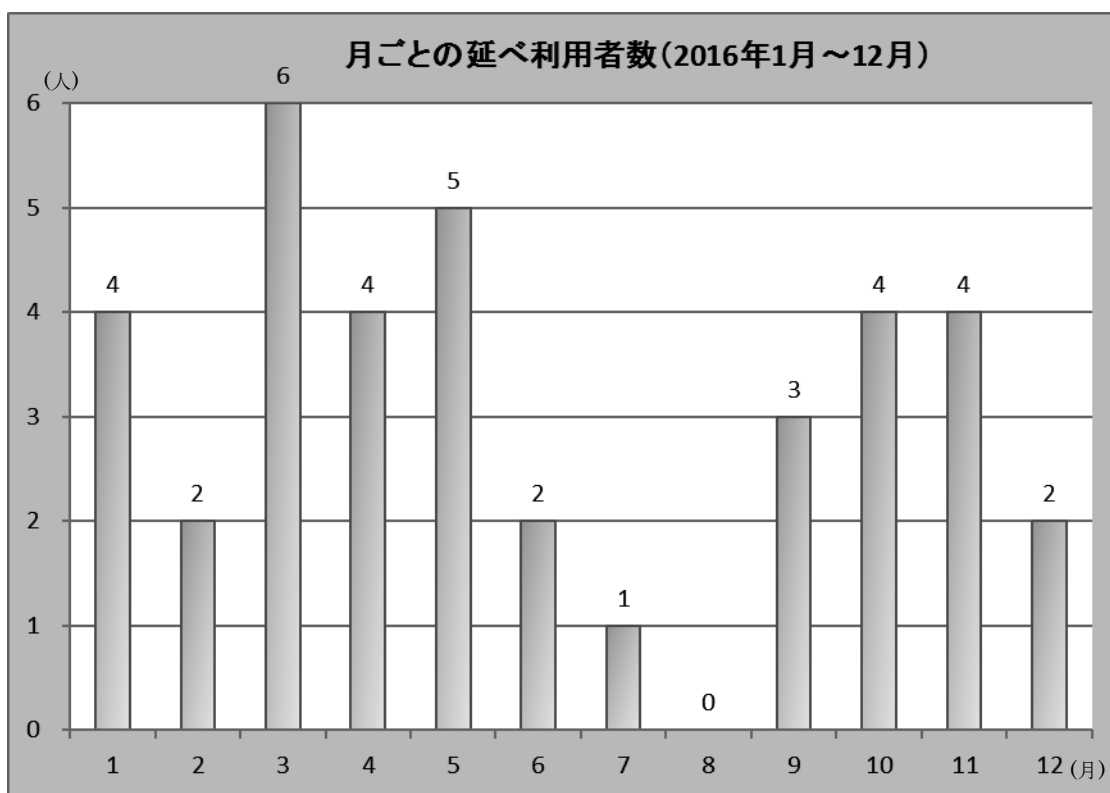
○事前登録及び利用申込において得た個人に関わる各種情報は、おむかえ保育の各業務及びそれらの業務に関する連絡・問い合わせのために利用します。

別紙一覧(省略)

別紙1:「おむかえ保育事前登録票」

別紙2:「おむかえ保育申込票」

別紙3:「おむかえ保育利用料金表」





京都大学男女共同参画推進本部では  
ベビーシッター利用育児支援を行っています。



京都大学男女共同参画推進本部では、本学における教職員の仕事と子育ての両立支援を目的として、「ベビーシッター育児支援割引券」を発行して、ベビーシッターによる在宅保育サービス事業を行う者（以下「ベビーシッター事業者」という。）が提供するサービスを利用した場合に、その利用料金の一部を助成しています。

対象事業は以下の2つです。

- ①ベビーシッター派遣事業
- ②双生児等多胎児家庭育児支援事業

**【注意事項】**

○割引券発行枚数の上限は、1家庭につき①：280枚、②：2枚まで。

○最初の利用方法

- 1 ベビーシッター事業者（webサイト）もしくは別紙に掲載されている、「割引券取扱事業者」から選んだベビーシッター事業者と事前に請負契約をする。
- 2 下記の必要書類を人事課職員掛まで直接お持ちいただくか、学内便等でお送りください。

- 1) ベビーシッター利用育児支援事業初回利用申込書
- 2) ベビーシッター事業者との利用契約書（請負契約書）の写し

※以下のことが明記されているかご確認ください。

- ・ベビーシッター事業者の住所・名称・代表者氏名
- ・利用者の住所・氏名
- ・サービス内容・料金
- ・その他必要な事項

3) その他必要書類

- ①については、配偶者の在職証明書等（配偶者が本学教職員の場合にはその旨を申告）
- ②については、子供の年齢・人数がわかる書類（扶養に入っている場合にはその旨を申告）
- 3 学内便等で割引券が届きましたら、利用者記入欄に記入の上、利用時にベビーシッターに割引券を渡してください。  
ベビーシッターが「報告用半券」を返却しますので、必ず受け取ってください。
- 4 割引券利用後の「報告用半券」は、翌月 5 日までに総務部人事課職員掛へ学内便等で提出してください。

○2回目以降の利用方法

- 1 割引券の発行依頼を E メールにて、人事課職員掛までお送りください。

-----  
ベビーシッター育児支援割引券発行依頼（2回目以降）

所属・職名：氏 名：

利用月：平成 年 月 希望枚数： 枚

- 2 割引券が届いた以降は、最初の利用方法 3、4 と同じです。

○利用するベビーシッター事業者を変更した場合

ベビーシッター事業者変更届を、E メールに添付して、人事課職員掛までお送りください。なお、変更届の提出と割引券の発行依頼を同時に行う場合は、変更届に発行希望枚数等を記載してください。

○制度自体に関しましては、公益社団法人全国保育サービス協会 HP をご覧ください。

担当：男女共同参画推進本部（総務部人事課職員掛）

（内）吉田 2284

E-mail [g-e@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp](mailto:g-e@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)



### Ⅲ 「病児保育」事業

# 病児保育事業ワーキンググループ活動報告

京都大学男女共同参画推進センター・病児保育室「こもも」(以下、病児保育室)は、京都大学に在籍する全ての教職員・学生の子供(生後6ヶ月から小学校3年生)を対象とし、急な疾病により保育園／幼稚園、小学校などに通うことの出来ない病中病後児の保育を行っています。事前登録制による運用で、登録者数はのべ913名、うち平成28年度の新規登録者102名と年々増加しています(平成28年12月末現在)。定員は5名(感染隔離室1名を含む)であり、平成28年度は597名の利用がありました(平成28年12月末現在)。利用状況は感染症の流行に大きく左右されており、定員を上回る利用希望のために断わらざるを得ない日もしばしばみられますが、利用者からは概ね良いご意見をいただいています。また、今年度も京大病院オープンホスピタルでのポスター掲示やホームページ等を通じての広報活動も継続して行いました。

保護者からの保育許可基準の引き下げを求める要望を受けて、京都大学医学部附属病院感染制御部の承諾を得て平成28年4月より利用基準(利用開始時間)を変更したところ、利用率は増加傾向にあります。また、予約時間や事前登録方法の見直しも行った結果、より利用しやすくなったという声をいただいています。感染対策上、困難な点もありますが、京都大学職員・学生が育児を行いつつ、仕事や学業を継続することの可能な環境を実現するため、今後も引き続きよりよい運営方法を検討する必要があると考えています。



病児保育事業WG主査 足立 壯一

## ■H28 活動記録

- ・10月22日(土) オープンホスピタルにポスター参加

## 病児保育室「こもも」

病児保育室は、2006年2月に附属病院内に開室しました。

2007年に、病児保育室登録者に対して利用者の声を聞くためのアンケート調査を行い、その結果出された意見に基づいて、2008年より、学生割引(半額)を導入、病児保育相談窓口の開設、お昼の食事メニューを増やす、ホームページに病児保育室のスタッフの紹介や保育室の紹介を写真入りで行うといった改善を行ってきました。

また、2009年2月には、感染隔離室の設置について、アンケートによる学内のニーズ調査を行い、2009年12月に病児保育室内に、感染隔離室を設置しました。

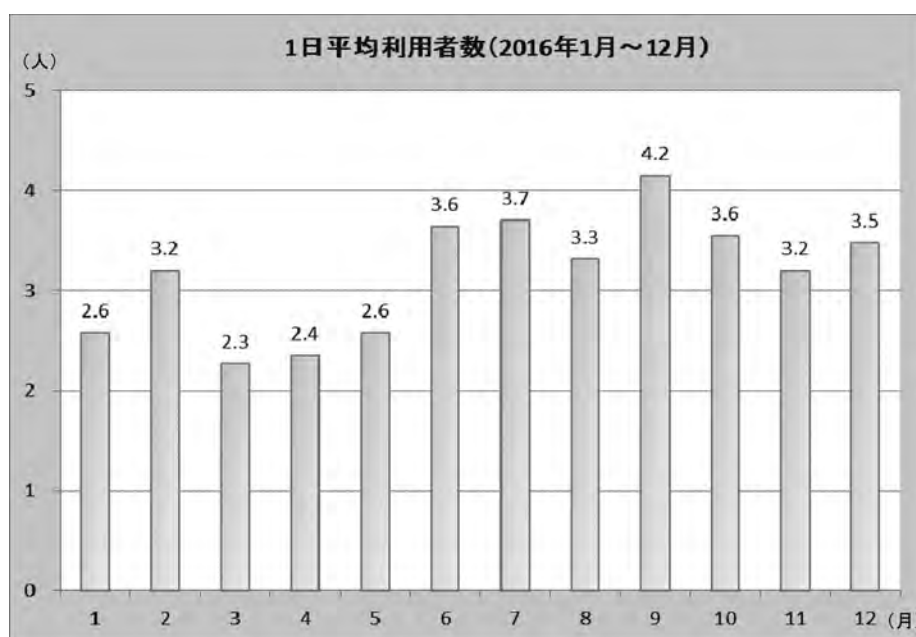
本年度は更に保育サービスを充実させるため、京都大学構成員にアンケートを行い、利用開始時間を7時30分からに変更しました。

### ■病児保育室利用状況

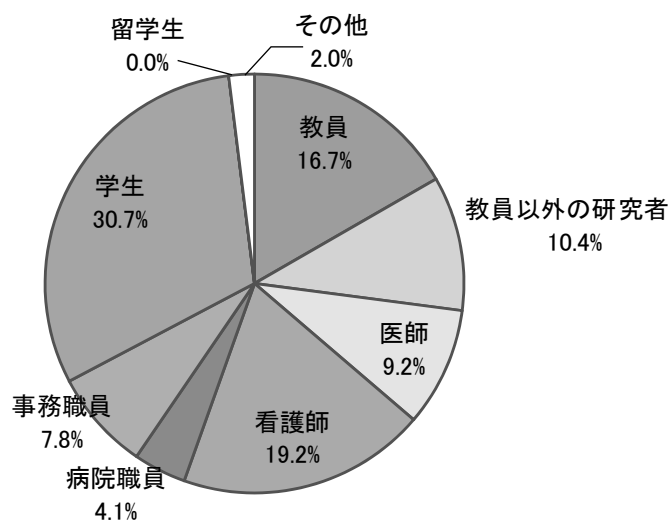
#### 1.利用実績(2016年1月～2016年12月)

##### 1) 利用者数

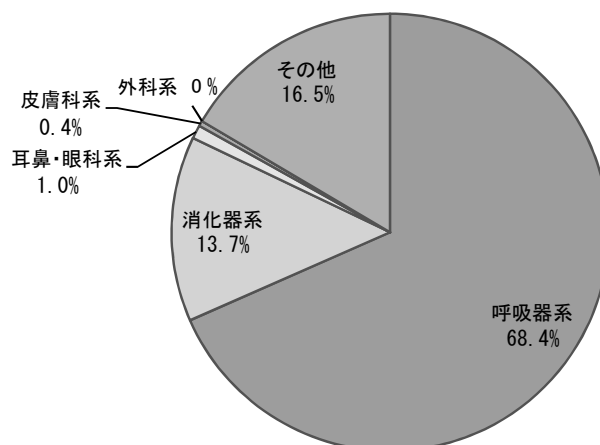
月	人数	うち隔離室利用者
1月	49	7
2月	64	14
3月	50	9
4月	47	1
5月	49	2
6月	80	1
7月	74	3
8月	63	2
9月	83	15
10月	71	2
11月	64	1
12月	66	5



##### 2) 利用者の職業別分布



##### 3) 利用疾患別延べ人数





# 京大病児保育室

## こもも



- ★事前診察が必要。京大病院では7時から救急外来で受診できます。
- ★熱が38.5度以上でも利用できるようになりました。
- ★感染隔離室があります。
- ★病児保育室では、医師の観察があります。



- 開室日時：月曜日～金曜日 午前7時30分～午後7時
- 場 所：医学部附属病院 外来棟5階 
- 利用資格：京都大学の教職員および学生の子どもで、生後6ヶ月から小学校3年生までの病中・病後の子ども（伝染性疾患を除く）
- 料 金：1時間500円（昼食・おやつ代込）  
※保護者が学生の場合は、保育料金の半額を大学が負担します
- 定 員：5名 



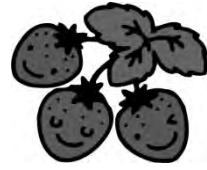
利用方法など、詳細は男女共同参画推進センターのホームページで！



[http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/ikuji\\_kaigo/byoujihoiku/index.html](http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/ikuji_kaigo/byoujihoiku/index.html)

## おもちゃ紹介⑤

### ～ブリオのレール&ロードデラックスセット～



BRIO(ブリオ)は北欧スウェーデンの木製玩具メーカーです。以前から簡単なレールと列車のセットはあったのですが、今回、トラベルトレイン、貨物列車、港、鉄橋、地下鉄、クレーン、駅、トンネルなどがセットになったものが増えました！

線路が高架になっていたり、ふみきりと道路が交差していたり、駅にはエレベーターがついていたたり、船が運んできた荷物をクレーンでつりあげてトラックに積み替えたり…。とても楽しく遊べます。電車好きの男の子に人気で、今のところ新しいおもちゃの中での登場回数ナンバー1です。



今日、2年生のお友だちが来てくれて、自分なりのつなぎ方でつなぎ楽しく遊んでいたのですが、プラレールも一緒に並べたところ…なんと！！プラレールの電車がブリオの線路を走ることが出来るのを発見！！プラレールの新幹線も木の線路を走ることができたのでした。

木のおもちゃは少々値段が高くて、家庭で買うのは躊躇してしまいがちですが、木の風合いや手ざわりがよく、丈夫で長く遊べます。

これからも、いろいろな遊び方を発見しながらたくさん遊んでもらえそうです。



## おもちゃ紹介⑥ ～「木のおもちゃ」たち～

病児保育室には「木のおもちゃ」がたくさんあります。前から木の「パンセット」や「バースデイケーキ」があったのですが、今回、「たこ焼きセット」と「アイスクリーム屋さん」がふえました。



「パンセット」は包丁で切りわけすることもできるし、パンと中身を分けたりもできます。おいしそうでしょ？

バースデイケーキはいちごクリームとチョコクリームがあり、フルーツをのせたりクリームをのせたりして遊びます。ろうそくもちゃんとしています。



たこ焼きセットはまあるいたこ焼きがころんと6個入っています。

みんなの1番人気はアイスクリーム屋さん。見た目もとてもかわいいです。アイスクリームがコーンにちゃんとのっかるんですよ。

「アイスクリームいかがですか～」とよく遊んでくれます。

木のおもちゃはてざわりがよく発色もきれいで、長く遊べます。なが～くみんなに遊んでもらいたいですね。



## おもちゃ紹介①

### ～サッカーゲーム～



暑い夏ですね・・・。

汗をかいて脱水にならないように水分補給はしっかりしましょうね。

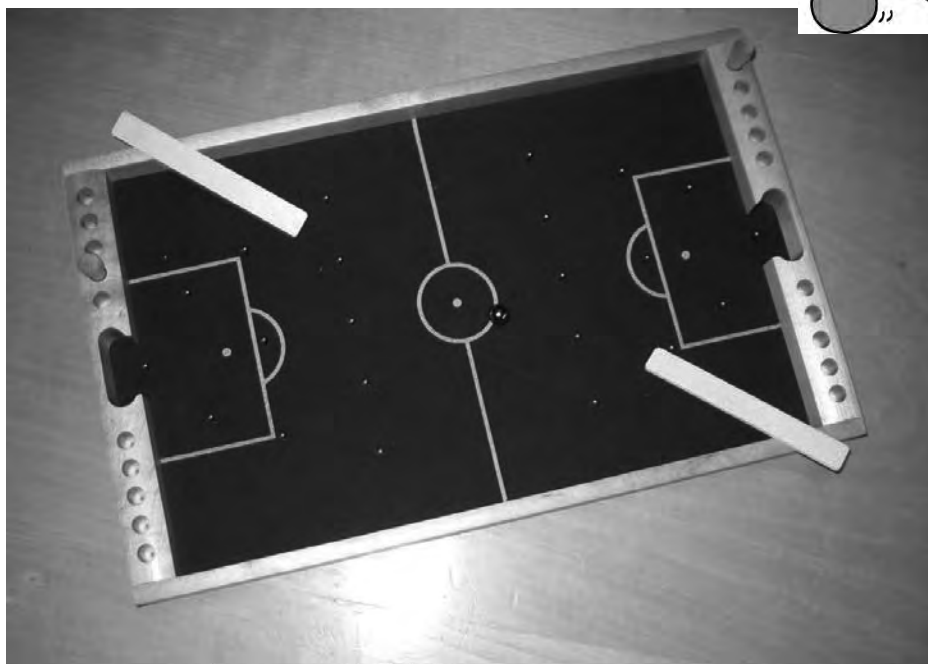
外で遊ぶのが暑い時にこんな室内ゲームはいかがでしょう。

フィンランドの JUSSILA 社の「サッカーゲーム」です。

テレビやパソコンのゲームに慣れたこの頃の子どもたちにはおもしろくないかと思いきや、これが結構おもしろく遊べます。

パチンコの玉くらいの小さな玉を平べったい木のスティックで打ち合うだけです。…が、これがなかなかゴールに入りません！表面に打ってある「くぎ」が結構邪魔をするのです。このくぎが11本あります。イレブンですね。うまくゴールに入ると「ナイス！シュート！」という気分になります。

テレビゲームに慣れた子どもたちにも、たまにはこういうアナログのゲームもいいのではないのでしょうか。



## おもちゃ紹介⑧

### ～お米のねんど～

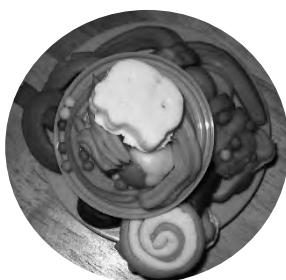


今回は「ねんど遊び」です。

この「ねんど」はお米素材でできています。アレルギーの心配が少なく安心して遊ぶことができます。とてもカラフルな色がそろっており発色もきれいです。

3歳くらいから小学生まで、ねんど遊びの好きな子は喜んで色々なものを作ってくれます。

先日、姉妹で利用してくれたお友達がとてもかわいく色々なものを作ってくれたので紹介します。



お菓子とケーキの盛り合わせ～



おいしそうだね！



キティちゃんやカラフルな魚と鳥いろいろあります！



おすしやさん。おいしそうなおすし。ホットケーキにスパゲティ。

カラフルでとってもかわいいごちそうができあがりしました。あいにく2人で隔離室に入っていたので、「お客さんがきてくれな～い」と寂しがっていました。残念…。

このごちそうは、きれいに箱に入れて持って帰ってもらいました。





## RS ウイルス感染症 について



RS ウイルス感染症は、冬場に流行する感染症です。  
今年は夏の終わり頃より流行していました。

乳児期に感染してしまうと重症になりやすいため注意が必要です。  
年長児、大人が感染してもふつうの「かぜ」症状のような軽い症状で治癒していきます。

### 感染経路

感染した人の咳やくしゃみで飛沫したウイルスを直接吸い込む飛沫感染と  
鼻汁や痰に含まれるRSウイルスが皮膚や衣服・玩具、またそれに触れた手指を介して  
眼瞼や鼻咽頭の粘膜と接触する接触感染でうつります。

### 潜伏期間

2～8日（主に4～6日）

感染期間は、ウイルスの排泄期間が7～21日と長いため、感染が広がりやすいです。

### 症状

咳・鼻水・発熱が数日続き、多くは軽症で済みます。

しかし、生後1年未満、特に6ヶ月以内の乳児や未熟児、循環器系の疾患を有する  
幼児では重症化しやすい（細気管支炎・肺炎を引き起こす）ため注意が必要です。

### 治療

特効薬はありませんので、多くの場合は症状を抑える対症療法がほとんどです。

### 予防

手洗いやマスクの着用・うがいを徹底し、  
また、流行期には、人込みを避けるなどの注意をしましょう。



病児保育室では。。。。



病児保育室では、RS感染症のお子さまでも受け入れは可能です。  
しかし、症状が重篤な場合は利用できない場合もありますのでご相談ください。

また、咳が多くマスクの着用が困難な場合や、乳児の利用状況によっては、  
他のお子さまに感染する可能性がありますので、隔離室を利用してもらって  
います。

みんなで予防を心がけましょうね!!



## こももでの感染性胃腸炎の子への感染予防策

以前、感染性胃腸炎についてお知らせしましたが、今回は、こももで、感染性胃腸炎のお子さんをお預かりした時の感染予防策についてお話ししたいと思います。

こももでは、ロタウイルスやノロウイルスの様な感染力の強い胃腸炎のおさんは院内感染予防のためにも、嘔吐・下痢症状が消失するまで利用が許可されていませんが、ロタやノロかどうか不明な胃腸炎は、嘔吐や水様便の症状の程度により隔離室を利用して看護・保育することが可能になっています。

### 隔離室での感染予防策



隔離室では、専従のスタッフが看護・保育を行っており、出入りは最小限とし、通常保育室の子どもさんとは接触を避けています。

隔離室利用時は、マスクを着用し、吐物や排泄物で衣類が汚れる可能性がある場合はガウンを着用しています。



適宜、手洗い・消毒・うがいを行い、吐物や排泄物などを処理する場合は、手袋・ガウンの着用を行っています。手袋を外した後も、必ず手洗いを施行しています。

ロタウイルスやノロウイルスの可能性もあるため、消毒は塩素系消毒薬（病児保育室ではミルトン）を使用しています。

また、ウイルスが乾燥すると容易に空気中に漂い、これが口に入って感染することがあるので、嘔吐物や便は速やかに処理しています。

具体的な処理・消毒方法は、次の記事でお伝えします。

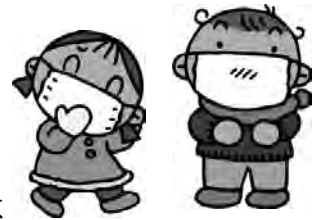


## こももでの感染性胃腸炎の子への感染予防策

### ～吐物・便の処理・消毒、使用後のお部屋の消毒編～

- 嘔吐物や便で汚れた衣類等について

厚生労働省より、「保育所における具体的な感染拡大防止策」で、



『嘔吐物や下痢便で汚染された衣類を保育所内で洗うと、洗った場所はノロウイルスに汚染されます。また、水洗いではなく洗剤を使用しても、衣服にはノロウイルスが付着したままです。だからといって、次亜塩素酸ナトリウムを用いて衣類を消毒することは、その衣類が漂白される可能性があることなどから、嘔吐物や下痢便で汚染した洋服は、ビニール袋に入れて保護者に持ち帰ってもらうようにします。家庭では衣類を破棄しない場合は塩素系の消毒剤で消毒してから洗濯するかあるいは熱水による消毒をして、他の家族が感染しないように処理する方法を保護者に説明します。部屋の中で、嘔吐物や下痢便で汚染した衣類や雑巾を洗ったり、部屋の中に干しておくことは絶対にしないようにします。』

と定められています。

その為、こももでも上記に準じて、

嘔吐物や下痢便で汚染した洋服は、ビニール袋を2重にしてしっかりと口を閉めた状態で保護者に持ち帰ってもらうように致しますのでご理解下さい。

- 嘔吐物や便などで汚れた床

- ①10倍に薄めたミルトンを浸したペーパータオル・布等で嘔吐物を覆い、外側から内側に向けて、拭き取り面を折り込みながら静かに拭き取ります。
- ②拭き取りに使用したペーパータオル・布等は、直ちにごみ袋に入れ、10倍に薄めたミルトンを入れ、消毒・密閉し破棄します。
- ③嘔吐物が付着していた床等は、周囲を含めて10倍に薄めたミルトンを浸したペーパータオル・布等で拭き、消毒します。

- お部屋の床・トイレの床・便座・蛇口など

250倍に薄めたミルトンを用いて拭いています。

(塩素系漂白剤は、金属腐食性があるので、拭き取り部分が金属の場合は、30分程度おいた後、水拭きしています。)

- 使用した食器類は、中性洗剤で洗浄後、250倍に薄めたミルトンで消毒を行っています。
- お昼寝時などに使用したリネン類は、使用后、洗濯に出しています。

適切な感染予防策を行い、集団感染を防ぎましょうね。





新年あけましておめでとうございます。

皆さま、楽しいお正月を過ごされましたでしょうか。  
今年のお正月は、例年よりも暖かく過ごしやすかったですね。

昨年より引き続き、感染性胃腸炎がまだまだ流行しています。  
インフルエンザも流行の時期になってきましたので、  
手洗い・うがいなど、いつも以上に心掛けてくださいね。

本年も、  
子どもたちにとって楽しく安心できる温かい病児保育室であるよう、  
また働きながら子育てをする保護者の方々への手助けとなりますよう、  
職員一同協力して努めて参りたいと思います。

本年もどうぞ宜しくお願い致します。



## こももでのインフルエンザの利用基準



インフルエンザが流行してきました。

今年もこももでは1月12日よりインフルエンザ対策を行うことになりました。  
今回はこももでの、インフルエンザ対策を紹介します。

病児保育室内での感染拡大及び附属病院内での院内感染の防止のため、インフルエンザウイルス流行期には、38.5℃以上の発熱児は原則としてインフルエンザウイルス抗原の迅速検査を行い、陰性と判定された方のみ病児保育室でお預かりすることとします。

ただし、発症から12時間程度は迅速検査の信頼性が低いため、インフルエンザウイルス流行期の病児保育室の入室基準について以下のように定めています。

### ○ BT38.5℃以上の発熱時

発熱した時刻より、12時間以上経過してからインフルエンザウイルス抗原検査施行。

陽性→病児保育室利用不可。(発症後の利用基準は下記)

陰性→病児保育室利用可能。



### ○ すでに BT38.5℃あるが 12 時間未満の場合、病児保育室で BT38.5℃以上に上昇した場合、隔離室に移動して保育可能。

(家族・兄弟にインフルエンザ罹患者がいる場合は利用不可、またはお迎え)  
12時間以上経過してから、インフルエンザウイルス抗原検査施行。

結果は、上記に準ずる。

### ○ インフルエンザ発症後は、解熱後 (BT38℃以下) 24 時間経過すれば隔離室で保育可能。

発症後5日経過しかつ解熱後3日(学童は2日)経過すれば通常保育室で保育可能。それまでは隔離室で保育。(学校感染症に準ずる)



### ◇ 隔離室優先順位について ◇

利用者の増加により、感染隔離室が既に空いていない状況があるかもしれません。

その場合は、来室時に 38.5℃以上の発熱がある場合や、入室中の発熱の際には利用できないか、お迎えに来て頂く場合がありますのでご了承ください。



伝えたい、医療を支える  
わたしたちの方

京大病院

# オープンホスピタル

OPEN HOSPITAL 2016

**10/22** 土  
2016  
10:00-16:00

場所 当院外来棟  
アトリウムホール 他

独立大学法人【特定非営利団体】  
京都大学医学部附属病院  
〒606-8507 京都市左京区聖園川1丁目54  
TEL.075-751-3005  
http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp

**京大病院 寄席** 大好評イベント!!

14:00-15:00 桂葉二 手酌 不興  
桂 権太





# 京都大学男女共同参画推進センター 病児保育室 こもも



## I. 病児保育室とは



「京都大学男女共同参画推進センター病児保育室」（以下、京大病児保育室）は、京都大学教職員・学生の子どもが、病中・病後のため幼稚園・保育園・学校へ登園・登校できない時間が仕事や研究を休むことなく、子どもの保育ができる環境を提供する施設です。京大病児保育室では、京都大学医学部附属病院と連携し、看護師・保育士が常駐する安心できる環境において、病児の保育を行っています。

また、昨年の利用可能基準の変更に続き、この春より、病児保育室の利用時間基準が変更になりました。

## II. 病児保育室の開室時刻について

当病児保育室は、開室当初より8時からの受け入れてでしたが、2016年4月18日より開室時刻を7時30分からに変更しました。それに伴い、当日の利用予約の電話方法・事前診察方法が変わりました。

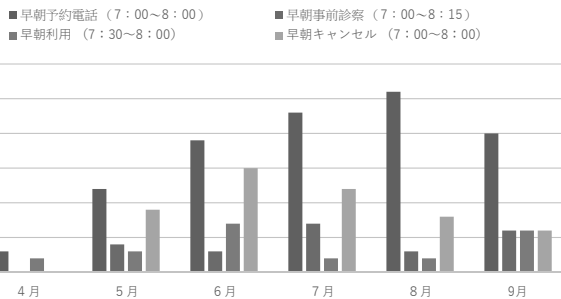
### ★ 当日朝の予約方法

- 7時～7時30分：時間外受付（075-751-3093）へ電話
- 7時30分以降：病児保育室（075-751-3090）へ電話
- 予約キャンセルも、上記対応になります。
- （前日予約は、12時から19時、当日予約は上記時間から16時30分 です。）

### ★ 当日の事前診察

- 不要の場合は（前日に近医を受診して診察医連絡票を受け取り済）、7時以降に時間外受付へ予約申し込みを行い、7時30分以降に直接病児保育室へ入室。
- 当院で希望される場合
  - ◇ 8時15分までに来院される場合は、時間外受付→救急外来で診察
  - ◇ 8時15分以降に来院される場合は、外来総合受付→番一小児科外来で診察

## 早朝利用状況



## III. アンケート調査



### ● アンケート調査課題

H19年2月の開設より9年が経過し、現在登録者数891名（削除者・兄弟登録含む）、利用許可基準の変更後、利用者数も増加しています。今後も利用しやすい病児保育室にするため、登録者・利用者を対象に保育室の運営状況に対してアンケート調査を行い、今後の改善を図ることを目的として行いました。

### ● アンケート対象

事前登録者全員（削除者除く・兄弟登録者は保護者1名で対象）、354名。

### ● アンケート調査方法

学内便郵送による調査：学内便にて調査票を郵送し、学内便にて返送頂き、返信用封筒も同封しました。

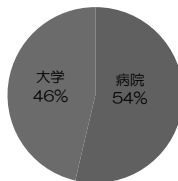
### IV. アンケート結果

354通郵送中、137通返送がありました。

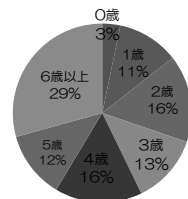
アンケート結果は以下になります。



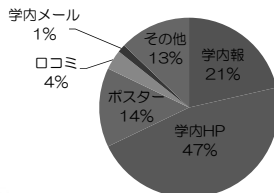
### 所属先



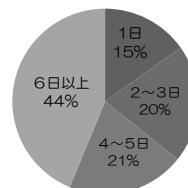
### 登録している子どもの年齢



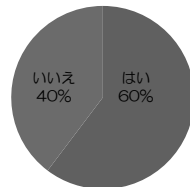
### 病児保育室を何で知りましたか



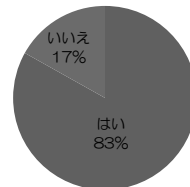
### 病児保育室利用回数



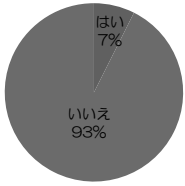
### 昨年6月からの利用基準の変更を知っていましたか



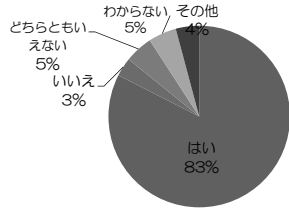
### 利用基準の変更後利用しやすくなりましたか



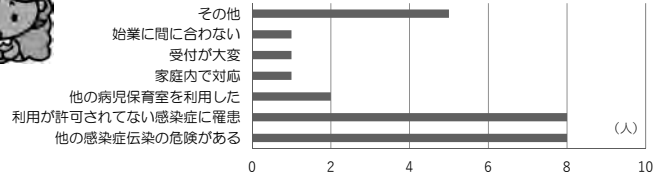
保育室利用後別の感染症に罹患した  
と思うことがありましたか



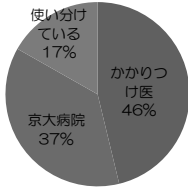
子育ての中で病児保育室は役立っていますか



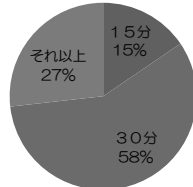
利用しやすくないと答えた方へなぜ利用しにくいですか



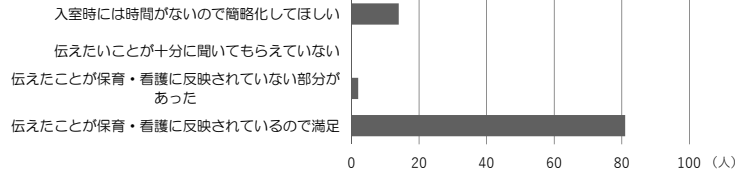
事前診察はどこで受けますか



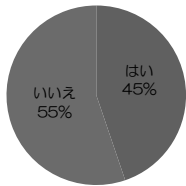
京大病院での事前診察に要した時間



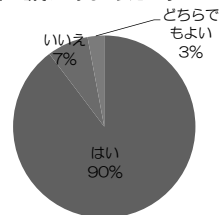
入室時の聞き取りについて



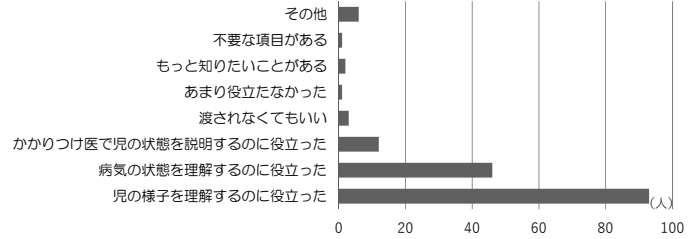
病児保育室での医師の観察があることを知っていましたか



医師の観察があると安心ですか



病児保育記録は役立っていますか





## IV 「就労支援」事業

# 就労支援事業ワーキンググループ活動報告

本 WG の主要活動である「研究・実験補助者雇用制度」については、育児や介護期にある研究者の研究継続支援という目的に即して、アンケートなどに示される利用者の声も考慮しながら、毎年、少しずつ改良を加えてきている。本年度中の実績は、第1期で応募者 27 名、利用者 18 名、第2期で応募者 31 名、利用者 19 名と、時期により変動はあるもののここ数年増加傾向にある。予算の制約のなかで、応募者が困難な状況にあることがわかりながら十分な支援ができないケースも増えてきている。また、ここ数回の傾向として、特任教員・研究員など比較的短い任期で京都大学に所属している研究者、特に外国人研究者からの応募が増加している。不安定な雇用、慣れない土地、家族からの援助も望めない、という状況のなかで育児や介護と研究の両立に苦慮されている男女研究者も多い。



雇用形態の変化や教員のダイバーシティ拡大に適応した制度とその運用の見直しも、制度全体の拡充とともに今後の課題である。

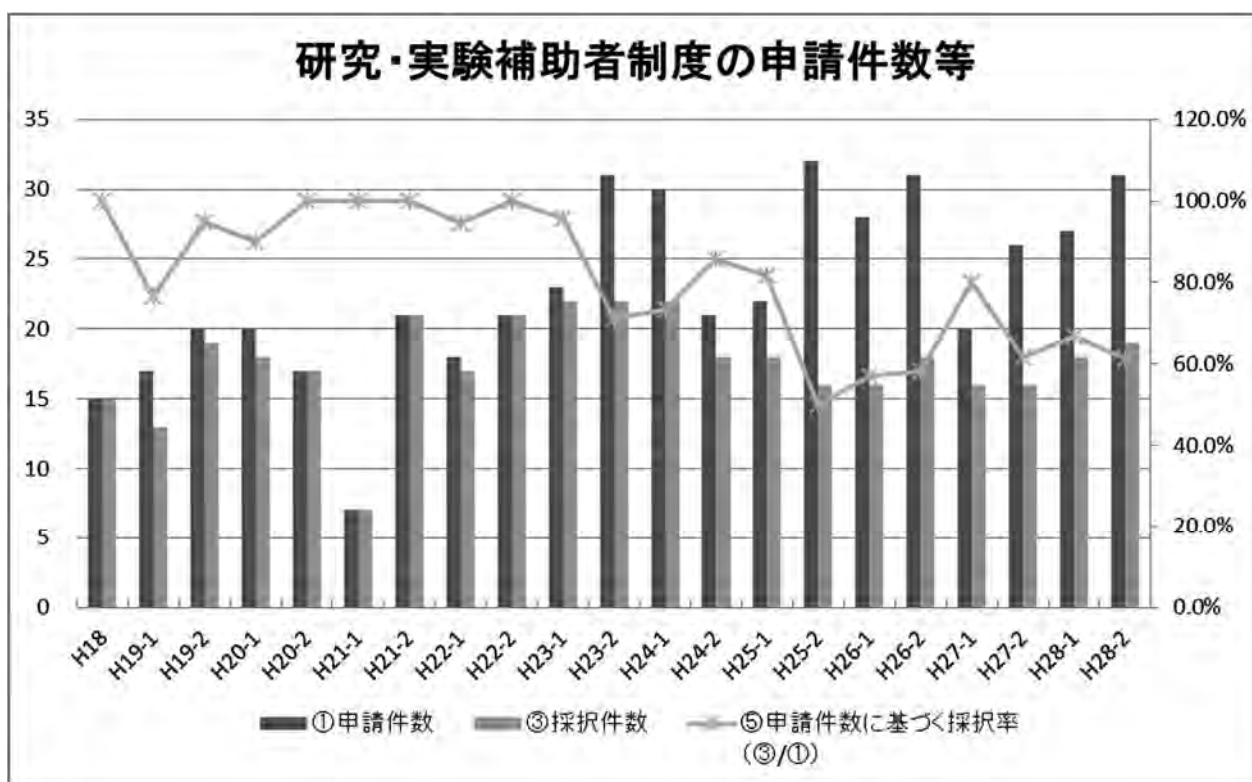
就労支援事業WG主査 佐藤 亨

## ■H28 活動記録

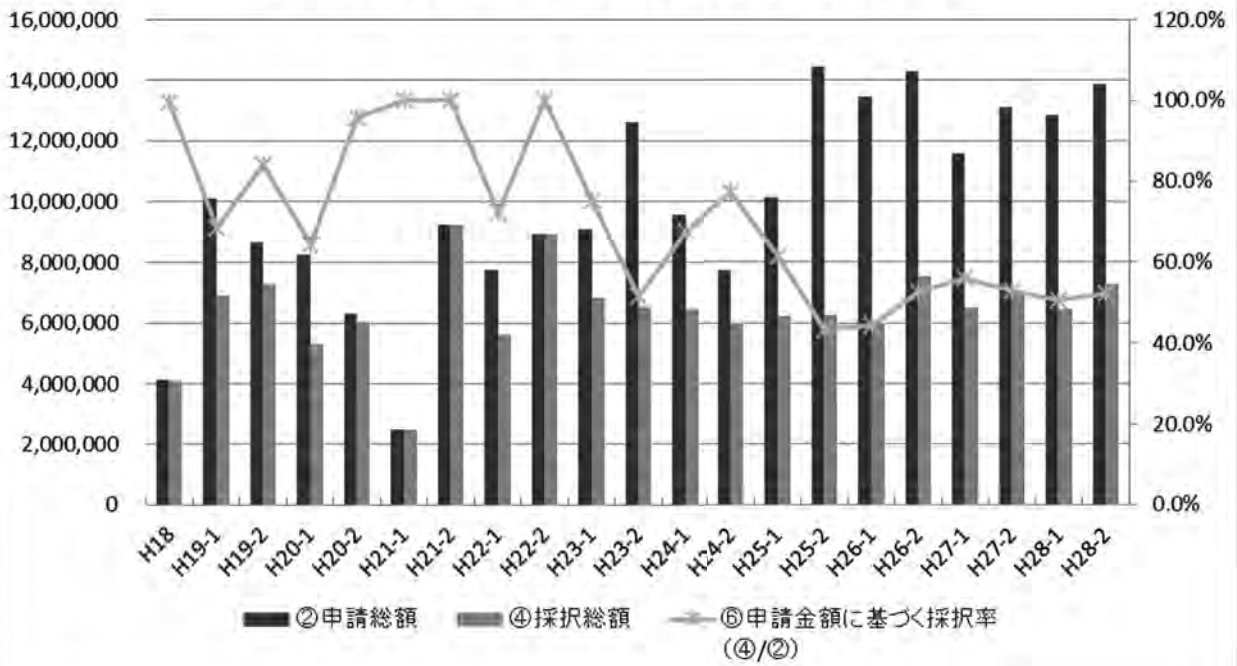
- |           |                             |
|-----------|-----------------------------|
| 5月30日(月)  | 第40回就労支援事業ワーキンググループ会議       |
| 6月6日(月)   | 平成28年度2期 就労支援事業による支援希望者募集開始 |
| 7月29日(金)  | 第41回就労支援事業ワーキンググループ会議       |
| 12月6日(金)  | 第42回就労支援事業ワーキンググループ会議       |
| 12月13日(火) | 平成29年度1期 就労支援事業による支援希望者募集開始 |
| 2月3日(金)   | 第43回就労支援事業ワーキンググループ会議       |

### 研究・実験補助者雇用制度 利用状況

期 間	①申請件数	②申請総額	③採択件数	④採択総額	⑤申請件数に基づく採択率 (③/①)	⑥申請金額に基づく採択率 (④/②)
H18	15	4,124,400	15	4,100,400	100.0%	99.4%
H19-1	17	10,091,600	13	6,911,800	76.5%	68.5%
H19-2	20	8,683,500	19	7,291,000	95.0%	84.0%
H20-1	20	8,246,400	18	5,321,200	90.0%	64.5%
H20-2	17	6,294,300	17	6,035,100	100.0%	95.9%
H21-1	7	2,505,000	7	2,505,000	100.0%	100.0%
H21-2	21	9,261,000	21	9,261,000	100.0%	100.0%
H22-1	18	7,772,500	17	5,617,500	94.4%	72.3%
H22-2	21	8,932,500	21	8,932,500	100.0%	100.0%
H23-1	23	9,100,000	22	6,837,500	95.7%	75.1%
H23-2	31	12,617,500	22	6,530,000	71.0%	51.8%
H24-1	30	9,545,000	22	6,450,000	73.3%	67.6%
H24-2	21	7,729,000	18	5,957,500	85.7%	77.1%
H25-1	22	10,115,000	18	6,219,400	81.8%	61.5%
H25-2	32	14,440,000	16	6,275,000	50.0%	43.5%
H26-1	28	13,452,500	16	6,002,500	57.1%	44.6%
H26-2	31	14,300,000	18	7,528,750	58.1%	52.6%
H27-1	20	11,600,018	16	6,503,000	80.0%	56.1%
H27-2	26	13,128,998	16	6,931,000	61.5%	52.8%
H28-1	27	12,830,184	18	6,466,000	66.7%	50.4%
H28-2	31	13,896,100	19	7,253,000	61.3%	52.2%



## 研究・実験補助者制度の申請金額等



## ■研究・実験補助者雇用制度 アンケート報告①

対象者:平成 27 年度第 2 期 研究・実験補助者雇用制度利用者 16 名

形式:実績報告と同時にメールにて依頼。

回答率:100%

### 1. 「研究・実験補助者雇用制度」を利用することで、どのようなことが可能になったか

- ・複数の研究を同時に効率よく進めることができました。臨床研究の成果を得るには時間がかかりますので、本制度の支援により、複数の研究を同時進行することで、継続的に成果を上げることが可能になりました。
- ・実験等に必要の実験動物の維持や免疫染色・PCR 等の試薬調整などをお願いすることができ、時間外の労働を必要最小限にすることができました。また、論文執筆に必要な、ゆっくり考える時間も確保できたように思っています。
- ・細胞培養や動物実験など、決まった曜日にどうしてもやらなければならない実験を代行してもらうことができた。免疫染色実験は時間がかかるため、単純作業を実験補助者に行ってもらい、発色や評価などの作業を一緒にすることで、効率よく実験を進めることができた。
- ・幼い二人の子どもの育児、二つの保育園の送迎で勤務時間が限られ、子どもの発熱で急に休むこともある中で、実験補助者のおかげで着実に実験を進めることができました。子どもを預けて長時間働くのではなく、実験の方を補助してもらうことで、子どもに過度な負担をかけることなく、子どもとの時間も楽しみながら仕事ができただけは、本当に感謝しています。
- ・時間と日数のかかるプラスミド DNA 作成やプラスミド精製、シーケンズの作業を分担してもらうことで、その間、他の作業に従事することができた。長年、雇用している学生を継続雇用できたので、私の勤務時間や勤務日等にかかわらず、自らの判断で作業を進めてもらえる事が多く、とても助かりました。
- ・こどもの送迎や保護者会などへの参加(おかげさまで、園の外部委員にも選任されましたが)。とくに年末年始に子ども 3 人と妻が体調を崩した時には私が健康であったため、大変助かりました。また、妻の一人暮らしの母が末期がんであるため、頻繁に妻が代休を取って病院に付き添っていたので、妻の育児に対する負担を軽減させてあげられたと思っています。
- ・私が研究室にいる時間が限られているため、生物の発生時間の関係でこれまで1日1回しかできなかった実験がありました。今回、「研究・実験補助者雇用制度」を利用することにより、その実験を1日2回以上行なうことが可能になり、今までと比べて効率よく実験をすることが可能になりました。
- ・第一に、育児に伴って研究時間の確保が難しい中、実験などの研究をサポートしてもらえることは、省時間として実質的な支えとなりました。また、精神的にも、研究が遅れてしまうという焦りを軽減してもらうことができ、健全な研究体制を確保すること

ができました。さらに、本制度を利用することによって、萌芽的研究でありながら、一定の成果を得る事が出来たため、その成果を基に次なる助成金の獲得に至ったことは、大きな成果であったと思います。

- ・本制度を利用させて頂いたことで、研究補助者の多大な支援を得て、限られた時間内により専門性の高い研究活動に専念することが出来、予定していた研究計画の遂行において大きな後押しとなりました。何よりも、この制度を利用させて頂きましたおかげで、補助者に研究に関連する初作業を進めてもらえて、保育園に予定時刻通りにお迎えに行けるようになり、ストレスが激減いたしました。さらに、継続的に本制度を利用させて頂いております経緯から、本制度を支えて下さる大学や、周囲の支援者との関係性の中で、自身の役割を改めて見つめなおす機会となり、自己概念の再構築に繋がりました。

- ・この制度を利用し、実験の準備や片付けなど作業を分担して行えることで、落ち着いて各実験に取り組むことができた。

- ・子供の急な病気などで実験の継続が難しくなることを恐れ、手を付けられなかった植物の栽培・長期実験を着手することができた。また実験補助者と栽培を分担することで、休日出勤も最小限におさえることができた。さらに、これまでは帰学後のサンプル処理のため子供のお迎えに間に合わないなどの理由で、なかなか積極的できなかった野外調査にも行くことができるようになった。

- ・現在従事しているプロジェクトは、X 線結晶構造解析技術の確立と進化によってそのスピードを加速することを目指し、その中で私は世界中の共同研究者から様々なターゲットを預かり抗体リガンドの応用に取り組んでいる。抗体リガンドの作製は免疫から精製まで連続的に数ヶ月かかる業務であり、途中で止めると大きな穴を空けることになる。実験補助者に業務を引き継いでもらったおかげで、産休・育休を取得しても共同研究先やプロジェクト全体の研究に支障を来すことなく進めることができた。

- ・制度を利用させて頂いて 4 期目となり、まとまった結果を前期から論文投稿中です。少しずつではありますが、結果を継続して出せていることは研究者としての自信につながり、今後の研究活動のモチベーションを維持することができています。

### 2. 「研究・実験補助者雇用制度」を利用した感想

- ・大変たすかりました。他大学ではこのような制度が少ないようで、非常に先進的な取り組みであり、ぜひ継続していただきたいと思っています。

・子育て中は保育園へのお迎えや、食事の世話などに追われてめまぐるしい毎日ではありましたが、この制度のおかげで4歳と1歳の子供たちを育てながら研究や論文の執筆を続けていこうと思うモチベーションが維持できたと大変感謝しております。

・この制度を利用して実験補助者を雇用することができて、研究費を一つ獲得するのと同様の費用が賄えたことにより、時間を十分実験に使えない後ろめたさが軽減された。実験補助者も作業に慣れて、効率がよくなってきた。

・この制度のおかげで、二人の子どもを育てながら、研究を進めることができました。子どもたちと過ごすことで新しいアイデアが浮かび、研究へのエネルギーが湧いてくるようになりました。この制度にはとても感謝しています。

・この制度を利用させていただいて、大変ありがたく感謝しています。限られた時間の中で、少しずつですが研究を進める事ができ、今年4月には論文が受理され、12月には新たな内容で学会発表ができましたのも、この制度のお陰だと思っています。どうか今後とも、この制度を継続していただけます様、よろしく申し上げます。

・これで3回利用させていただきました。家族との時間が増えるため大変助かっております。この制度自体にとくに問題点はなく強いて挙げるのであれば、男性の育児に対する社会の考えがさらに肯定的になればと思います。

・本制度は、第一子を出産した時にも利用させていただきました。第二子出産に際しては、研究の継続が難しくなるな、と不安を感じていましたが、この制度のことを思い出し、応募しました。この制度が利用できなかった状況を考えると、本当に感謝の念に耐えません。

・今回「研究・実験補助者雇用制度」を利用することにより以前より実験がスムーズに進むようになり、気持ちに余裕ができたからか、家での育児や家事も少し楽になったように感じます。今後も利用できるなら是非利用したいです。

・本制度利用前には、二人のこどもを約12時間も保育園で過ごさせていたので、親子共に精神的・身体的にも負担が大きく、離職を検討する日々でした。本制度により、育児や家事、介護に費やせる時間が増え、家族全員の精神的な負担が軽減されましたことを日々感謝しております。

・子育てにより十分な時間を取れずに進められなかったこと、共同研究者にも頼みづらかったことが解消され、研究のことを考える十分な時間を持つようになったことが大変ありがたい。心にゆとりを持てたことで、数年ぶりに学会やワークショップにも参加し、人とのディスカッションを通して研究をさらに進めることができたので、ぜひこの制度を継続して欲しい。

・この制度を利用し実験補助者と作業を分担するようになってからは、限られた時間内に滞りなく実験を進めることができ、早く帰宅も出来るようになり、研究・育児への身体的・精神的な負担が軽減されました。

・私達はプロジェクト期間内での成果を求められているので、自分の研究が遅れるだけでなく共同研究先やプロジェクト全体の進行に支障があると、出産・育児との両立が困難になる。この制度によるサポートがなければ実験補助者の雇用を確保することができなかった。この制度と優秀な実験補助者のおかげで研究を諦めることなく続けられた。恵まれた環境に感謝している。

・子どもが小さく時間制限や急な休みがある中で補助者がいることは実質的な面だけでなく、精神的な面でも余裕を持つことができ、心からこの制度に感謝しています。

### 3. この制度を利用する上で、困ったこと、改善した方がよいと思うことがあるか

・3年までとのことでしたので、3年目も期待していたのですが、採用されませんでした。利用したい人に対して、採用枠が少ないのでしょうか？ぜひ多くの方が採用されるように拡大してほしいです。

・附属センターに席を置く身としては、研究室を持たず学生も居ないのが現状です。そのため補助者は、外部の方に依頼する必要があります。一方で、継続的に研究を続けるには、同一の方に補助をしていただく環境が、知識の蓄積の観点からも必要となります。そのためには、同一の方に無理なく続けていただける給与を払えるよう、時間数を拡大していただくと大変助かるな、と感じました。もちろん、他の助成金で人件費を獲得できる状況が望ましい事は承知しておりますが、なにぶん萌芽の研究といった観点から厳しいのが現状でした。

・優秀な実験補助者を雇用するために、もう少し助成限度額を上げるともっと利用しやすい制度になると思う。

・以前も記載させて頂きましたが、補助者を紹介してもらえそうなシステムがあれば利用したいと思います。補助者の紹介システムとして、研究に従事していたが育休産休中などの理由で身分が途切れているような方がいらしたら共に支えあえるのではないかと思います。

### 4. この制度の募集情報の入手方法(※複数回答あり)

区分	人数
メール(うち所属部局から)	10
センターHP	2
指導教官からの情報	2
知人からの情報	1
その他	1
合計	

### 5. その他

・病児保育室にいつも大変助けられています。  
・待機児童保育室でもたいへんお世話になりました。このように

育児・介護中の研究者を直接助けていただける制度は大変ありがたいです。

・遠隔地のため、お迎え保育や病児保育は利用できませんが、京都の本学へ出張の際に利用できる一時保育があるといいと思います。

・乳児保育でも大変お世話になりました。今年は乳児保育の期間延長が実現したとの事、研究を続けながら安心して出産・育児ができるようになってきていると感じています。今後も同様の事業を維持していただければと思います。介護面でも何か現実的な事業があればと思います。

・同じ立場の方が、どのような研究・教育環境を築いていらっしゃるか、気軽にお話を聞く機会があればありがたいです。講演会、というより、座談会のような気軽さがあります。

・貴センターからの助成を受け、子育てと研究の両立が出来たことをとても感謝しております。今後も本事業が行われ、子育てに追われ研究に十分専念出来ない若手研究者には心身共にリフレッシュ出来る機会を得られることを願っております。

・男女共同参画社会に対する認識を深め、実際に実現してゆくための広報・啓発活動を積極的に展開して頂けるようお願いしています。

・年度途中での保育園への入園ができなかったため、待機乳児保育室を利用させてもらっている。初めての出産・育児ということもあり仕事との両立は想像以上に大変で、職場内に息子を預けられることで随分助けられた。通園の負担が軽減され、母乳育児を諦めることなく続けられた。また、同じ立場のお母さん達と話すことで励みになった。保育室は時間が決まっているので、それとは別に授乳室があれば就業前に授乳ができて便利だと思う。

## ■研究・実験補助者雇用制度 アンケート報告②

対象者:平成 28 年度第 1 期 研究・実験補助者雇用制度利用者 18 名

形式:実績報告と同時にメールにて依頼。

回答率: 94%(17 名)

### 1. 「研究・実験補助者雇用制度」を利用することで、どのようなことが可能になったか

・制度を利用させて頂いて 5 期が過ぎ、これまでの研究成果をまとめながら、次のステップとして子どもを連れての研究留学という貴重な経験を開始できています。補助者や周りの全てみなさまに支えられて、少しずつではありますが研究者としてのキャリアを形成できているように感じています。

・これまで多大な労力と時間を費やしていたマウスの維持、管理と実験を補助して頂いたことで、時間的余裕ができるようになった。その空いた時間を用いて、他の実験、学生の指導、子供との時間を新たに作れるようになり、非常に充実した時間を過ごせていると感じる。

・技術補佐員を雇用することで、本制度の利用者が研究室に拘束される時間を減らすことができた。時間に融通ができるため、家内にかわって子供の保育園への送迎が可能となり、育児と研究の両立をはかることができた。

・利用者の研究では、実験準備として緑藻の培養や特定の細胞の採取に多くの時間を要します。また解析試料の作製に約3日間の連続した時間を必要とします。実父母の世話で平日夜や休日の実験時間の確保が難しかったのですが、実験作業を実験補助者に分担していただき、限られた時間で何とか実験を継続することができました。

・これまで育児により研究を中断していた時間を、本制度の利用によって部分的には中断なく研究をすすめられるようになりました。私は理論分野の研究をしており、研究の多くの部分は自分でやらねばなりません。数値計算など実験と近い部分について補助者に任せることにより研究の中断をこれまでよりも気にせずに済むようになりました。

・補助者の方が研究をサポートしてくれることで、保育園の迎えの時間までに仕事を終わらせる事、子供の体調不良時でも研究が中断されることが少なく、研究を続けられる事が可能となりました。それにより、研究論文の発表につながりました。

・時間と日数のかかるプラスミド DNA 作成やプラスミド精製、シークエンスの作業を分担してもらうことで、その間、他の作業に従事することができました。長年、雇用している学生を継続雇用できたので、私の勤務時間や勤務日等にかかわらず、自らの判断で作業を進めてもらえる事が多く、とても助かりました。

・臨床業務が多忙であるため、実験を行うためのまとまった時間が取れないが、実験補助者を雇用することで、両者を両立することが可能となった。

・本制度を利用させて頂きましたことで、研究補助者の多大な

支援を得て、限られた時間内により専門性の高い研究活動に専念することが出来、予定していた研究計画の遂行において大きな後押しとなりました。また、責任を持って役割分担してくれる補助者の存在により、業務を整理し直し、優先度の高い事項により焦点を当てて本務および研究に従事することが可能になりました。

・家に帰らないといけない夕方以降に、実験そのものや実験の片づけを代行してもらえたことができたため、勤務時間中にはカンファレンスに参加するなどして、大学院生の指導や実験データの検討や実験計画の組み立てなど、自分にしかできない仕事を優先して行うことができた。

・毎回同じことを書いておりますが、膨大な作業時間を要する単純作業、入力作業等を、一人ではなく補助者の方と一緒にすることで、研究を進めていくリズムがうまれました。とくに今期は、これまでに入力した分の中から漏れを見つける、間違いを発見する、という作業を通しておこない、またデータの総合的な整理をおこなったので、1人でやるより作業効率がずいぶん高かったと確信しております。また、作業途中での中断が少なかったことも、正確性を高めるのに役立ったと思っています。

・分析前後の時間を要する作業を実験補助者に行ってもらえることで、すぐに分析作業に入ることができ、分析に集中できる。分析後もすぐに解析作業に入ることができるので結果がすぐに把握でき、その結果をもとに次の実験計画もスムーズに立てられるようになったため、報告会や学会で発表ができるような研究成果が得られ、現在はその内容に基づいて論文執筆を行うことができています。

・大学院生を研究補助者として雇用し、数値計算をしてもらうことで研究が飛躍的に進展した。特に、奇パリティ多極子という新しい分野を切り開く研究に取り組み、多極子と共存する超伝導体においてトポロジカル超伝導およびFFLO超伝導が実現することを示すことが出来た。その結果、補助者である大学院生も多くの経験を積み、一層の成長を遂げることができた。

・私が研究室にいる時間が限られているため、生物の発生時間の関係でこれまで1日1回しかできなかった実験がありました。今回、「研究・実験補助者雇用制度」を利用することにより、その実験を1日2回以上行なうことが可能になり、今までと比べて効率よく実験をすることが可能になりました。

・有機合成実験をいろいろ手伝ってもらいましたので研究が止まらず、進むことができました。また、研究・実験補助者が実験を行ってくれる間に自分は論文作成・文献調査など育児で限られている勤務時間を有効に使うこともできましたのですごく助か



っております。

- ・保育園への送迎、急病による保育園からの呼び出し、子供の病中・病後、入院時における付き添い、共働きによる家事の分担等のため、どうしても細切れ時間内でできる研究中心となり、なかなか長時間、長期間にわたる実験をすることができずにいました。しかしながら、本制度で博士研究員を技術補佐員として雇用し、実験の一部を分担していただくことにより、このような実験を実施することが可能になりました。
- ・この制度を利用していた時期にまとめた結果を国際学会で発表する事ができ、論文にまとめることができました。子育てをしながら研究を継続することは予想以上に大変でしたが、この制度のおかげで研究を継続する事ができただけでなく精神的に支えられたと思います。

## 2. 「研究・実験補助者雇用制度」を利用した感想

- ・この制度の対象者だけでなくすべての研究者は補助者を常に必要としていると最近は特に感じます。そのような研究環境の中で、自分がこの制度を利用できたことを深く受け止めており、今後の成果につなげたいという思いを強くしています。
- ・この制度を利用することにより、これまで時間が無いことで諦めていた仕事や家庭の事に関して、積極的に取り組むことができるようになった。
- ・本制度では、通常通りの雇用手続きを経て実験補助者を雇用する必要があり、子供の体調不良などに伴う突発的な業務スケジュール変化に原理的に対応できない制度となっている。育児を支援するための制度として、整備不足を感じた。
- ・両親の在宅介護および生活支援を行い、心身両面で疲労が蓄積するなかで、仕事を続けています。実験補助者雇用制度のおかげで、時間的制約の中で実験や研究を継続することができ、本当に有り難く思います。
- ・今まで制度があることは知っていましたが、今回初めて利用させていただきました。申し込みや利用するための書類等が大変ではないかと思って敬遠していたのですが、思ったよりも使いやすい制度でまた利用させていただきたいと思います。
- ・この制度のおかげで、仕事や育児の時間を確保することができ、精神的にも体力的にも、無事に過ごしていることに感謝しています。また、補助者の方も子育て中の女性です。子育てをしながら、研究に携わる中、少しずつスキルアップしてきており、お互いにとってよい制度であると感じます。
- ・この制度を利用させていただいて、大変ありがたく感謝しています。限られた時間の中で、少しずつですがポジティブに研究を進める事ができました。どうか今後とも、この制度を継続していただけます様、よろしく申し上げます。
- ・研究に携わり続けるためには、一定の時間を要する。しかし子育てをしながらでは時間的制約があり、そこをカバーしてもらえたのが非常にありがたかった。

・本制度利用前には、平日に二人のこどもが起きている間に家庭で共に過ごせる時間はたった数時間でしたので、親子共に精神的・身体的にも負担が大きく、離職を検討する日々でした。本制度により、育児や家事、介護に費やせる時間が増え、家族全員の精神的な負担が軽減されましたことを日々感謝しております。

- ・早く帰宅する後ろめたさを感じなくてよいのでとても助かった。
- ・昨年まで修士過程の学生さんだった補助者の方は、博士課程には進学せず、ご結婚されました。同じ女性として、多様な進路を雑談しながら作業できることは、わたしにとって刺激的でした。若い女性が進学と結婚を両立させない、というのは私にとって驚きでしたが、わたしたちの作業時間は、おそらく(願わくは)彼女にとっても、充実した時間だったと思います。
- ・小学生以下の子供がいる女性研究者としては、このような制度が利用できることは大変有用で助けられた。雇用期間が半年で、選考結果が出てから雇用申請手続きの期限までの期間が短いので、雇用者を見つけるのに多少の苦労があった。
- ・子育てと研究を両立しつつ高い研究成果を挙げるために大変有用な制度だと思いますので、ぜひ継続してほしいと思います。私も大変助けられました。どうもありがとうございました。
- ・今回、「研究・実験補助者雇用制度」を利用することにより実験がスムーズに進むようになり、気持ちに余裕ができたからか、家での育児や家事も少し楽になったように感じます。今後も利用できるなら是非利用したいです。
- ・私は出産2か月後から仕事に復帰していますが、育児と研究を並行することはやはり体力を含めいろんな意味で大変です。今回「研究・実験補助者雇用制度」を利用することで本当に助かっておりますのでこれからも支援を強く希望しております。
- ・以前から研究構想にはあったものの、育児のために実施困難であった課題を実行に移すことができ、成果も出始めています。この課題は、今までの自分の研究とは異なる分野への挑戦であったため、実行に移すきっかけとなったのは非常に大きな意味がありました。
- ・産休明けで人間健康科学専攻に移動となり、すぐに演習や実習が始まりました。子供の送迎で勤務時間も限られている中で部屋の移動や引継ぎや慣れない業務に追われ、データはあるのに研究が進まない状況に焦りやストレスを感じておりましたが、補助者の方に手伝ってもらい研究を進めることができました。

## 3. この制度を利用する上で、困ったこと、改善した方がよいと思うことがあるか

- ・申請書への必要記載内容はかなり個人的な内容ですので、可能な限り機密性が保たれるように配慮をお願いしたいです。たとえばオンラインで登録できれば事務の方の目に触れる機会が減りますでしょうか。半年ごとの採用は期間が短くまた書類仕事がむしろ煩雑に感じますので、年単位

などのより長期的な事業を希望します。この事業の利用者は、時間的および肉体的制約の中で研究を継続しているために孤立しやすくコミュニケーション不足に陥りやすいように感じていますので、利用者同士などのコミュニケーションを促せるような機会があればと希望しています。昨年度2月に開催されたWomen and Wishフォーラム2は昼間の時間帯に開催されており参加しやすく、内容や参加者同士のコミュニケーションなどとても良い機会を頂けたと感謝しています。

- ・実験補助者の雇用期間の契約が短く、また賃金も低く設定されているため、優秀な補助者の確保が難しいと感じる。この予算における問題を改善することでより多くの人が制度を有意義に利用できるようになるのではないかと思います。

- ・子供の急な発熱などの場合雇用の形では対応できないので、短期間の突発的に人手がいる場合は、謝金での対応も検討していただきたい。

- ・実験補助者の人選が大切だが、難しい面もあると思う。たまたま医学部の健康科学科に在籍していて、こういったアルバイトに興味のある方が見つかったが、彼女が卒業したのちに、また同じような方を探すのが難しいかもしれない。学内の実験補助アルバイト希望の学生さんなどを紹介するシステムがあれば助かる。

- ・選考結果が出てから雇用申請手続きの期限までの期間が短いので、申請手続きなども慌ただしく、雇用する期間が半年だと条件的に雇用する人も見つかりにくいので、1年単位の申請に変えてほしい。それに伴って、研究内容によっては利用して半年ではなかなか成果もすぐにはでない場合もあるので、成果報告などの調査も1年経過ごとにしてほしい。また、大きな成果を上げるためには、この制度を複数年継続して利用できることが望ましいと思われる。

- ・特に困ったことはおりません。これからも多くの女性研究者にこういう機会が増えることを希望しております

- ・本制度の「産休・育休・介護のため研究時間の確保が困難な研究者を援助する」という目的を、この制度を利用していない教職員にも知ってもらえるように、周知方法を工夫したり、広報活動を積極的に行う必要があると思います。産休・育休・介護に携わっている研究者は、共働き、核家族化、晩婚に伴う祖父母世代の高齢化、保育園の不足、職場の無理解等の問題に直面し、本当に困窮しています。本制度の活用なしには、研究との両立は不可能です。一方で、産休・育休・介護を経験したことのない人の中には、本制度の本来の目的を理解していない、忘れてしまっている人もおり、両者の間には温度差があります。制度の利用者だけでなく、雇用された者、職場の上司・同僚等にも、アンケートや聞き取り調査を行い、本制度の趣旨に沿って正しく活用されているか、実態を把握し、正しく活用されてい

ない場合には指導し、改善を求めていく必要があると思います。

- ・採用期間の変更（延長）などもう少し融通がきくようでしたら助かります。

#### 4. この制度の募集情報の入手方法(※複数回答あり)

区分	人数
メール（うち所属部局から）	6
センターHP	4
指導教官からの情報	1
知人からの情報	3
その他	3
合計	17

#### 5. その他

- ・男女共同参画推進センターで行われている講義 ILAS セミナー、ジェンダー論を聴講させていただきました。大変の興味深い内容で改めてジェンダーについて考えることができましたので、このような貴重な機会を頂きましたことにセンターや講師の先生方および受講していた学生の方などみなさま全てに感謝を申し上げます。

- ・乳児保育でも大変お世話になりました。今後も同様の事業を維持していただければと思います。介護面でも何か現実的な事業があればと思います。

- ・他大学へも積極的に成果や状況を公表されるとよいと思います。

- ・このような制度をさらに増やしていただいて採択率や支給率や連続利用年数を増やす方向で改善してもらいたい。

# 資 料

## 男女共同参画推進センター 関係者名簿

2016.10.1 現在

役職	氏名	所属・職
センター長	稲葉 カヨ	理事・副学長
男女共同参画推進本部支援室長	伊藤 公雄	文学研究科・教授
広報・相談・社会連携事業ワーキンググループ		
主査	今村 博臣	生命科学研究科・准教授
事業支援員	鈴木 晶子	教育学研究科・教授
事業支援員	松下 佳代	高等教育研究開発推進センター・教授
事業支援員	久家 慶子	理学研究科・准教授
事業支援員	竹之内 沙弥香	医学部附属病院・特定講師
育児・介護支援事業ワーキンググループ		
主査	小西 由紀子	理学研究科・准教授
事業支援員	岩崎 奈緒子	総合博物館・教授
事業支援員	神吉 紀世子	工学研究科・教授
病児保育事業ワーキンググループ		
主査	足立 壯一	医学研究科・教授
事業支援員	丹羽 房子	医学部附属病院・特定助教
事業支援員	長尾 美紀	医学部附属病院・講師
事業支援員	嶋野 令子	医学部附属病院・副看護部長
事業支援員	國友 陵一	医学部附属病院・総務課長
事業支援員	隈村 綾子	医学部附属病院・医務課掛長
就労支援事業ワーキンググループ		
主査	佐藤 亨	情報学研究科・教授
事業支援員	鈴木 眞知子	医学研究科・教授
事業支援員	高橋 淑子	理学研究科・教授
事業支援員	横山 美夏	法学研究科・教授
事業支援員	瀬原 淳子	再生医科学研究所・教授
事業支援員	喜多 恵子	農学研究科・教授

## 男女共同参画推進委員会会議 議事

### ■推進委員会会議議題と資料

#### 2016年4月6日(水)

##### 【報告】

1. 車座フォーラム 2016 会場仮予約(国際科学イノベーション棟、時計台国際交流ホール)
2. センターのHPを変更
3. ワーキンググループの活動状況と今後の予定

##### 【資料】

1. 介護のつどい 企画案
2. 病児保育室開室事項の変更について

#### 5月17日(火)

##### 【議事】

1. 病児保育室の保育士雇用条件、採用方法について

##### 【報告】

1. 車座フォーラム 2016 会場決定(国際科学イノベーション棟、総合研究8号館)
2. 保育委託業者の施設内事故報告
3. センター内 AED 設置について
4. ワーキンググループの活動状況と今後の予定

##### 【資料】

1. 病児保育室保育士に関する資料
2. アルファコーポレーションからの報告
3. ニュースレター「たちばな」第68号
4. 京都産業大学ダイバーシティ推進室 教職員セミナー企画案
5. 「介護のつどい」チラシ
6. 平成27年度待機乳児保育室 利用者の感想・意見

#### 6月14日(火)

##### 【議事】

1. 女子高生・車座フォーラム 2016 チラシ・プログラムの確定

##### 【報告】

1. 平成28年度ベビーシッター割引券について
2. アルファコーポレーションからの報告(東京都による行政指導の終了)
3. ワーキンググループの活動状況と今後の予定

##### 【資料】

1. 女子高生・車座フォーラム 2016 チラシ・プログラム案
2. 平成28年度ベビーシッター割引券について
3. 平成28年度2期 研究実験補助者募集要項
4. 関西科学塾 チラシ

#### 7月12日(火)

##### 【議事】

1. 8/7 ライフプランニングフォーラムの共催について

##### 【報告】

1. センターHPで車座フォーラムの開催告知

2. ワーキンググループの活動状況と今後の予定

【資料】

1. ニュースレター「たちばな」第 69 号最終版

## 9 月 13 日(火)

【議事】

1. ワーキンググループメンバーの任期更新について

【報告】

1. 平成 28 年度 2 期研究実験補助者 審議結果
2. 8/7 法学部ライフプランニングフォーラム共催
3. 来年度の全学共通科目、ILAS セミナーの後任について
4. ワーキンググループの活動状況と今後の予定

【資料】

1. ワーキンググループメンバーの任期更新に関する資料
2. 平成 28 年度 2 期研究実験補助者 採択者一覧
3. ニュースレター「たちばな」第 69 号

## 10 月 13 日(木)

【議事】 “Women and Wish Forum 第 3 回”について

【報告】

1. 第 9 回京都大学たちばな賞 募集開始予定
2. ワーキンググループの活動状況と今後の予定

【資料】

1. “Women and Wish Forum 第 3 回”企画案

## 11 月 14 日(月)

【報告】

1. 第 9 回京都大学たちばな賞 募集開始
2. 来年度の全学共通科目、ILAS セミナーの実施について
3. ワーキンググループの活動状況と今後の予定

【資料】

1. “Women and Wish Forum 第 3 回”企画案
2. ニュースレター「たちばな」第 70 号 最終版
3. オープンホスピタル ポスター
4. 車座フォーラム グループ内訳

## 12 月 12 日(月)

【議事】 平成 29 年度待機乳児保育室 保育士配置数について

【報告】

1. 第 9 回京都大学たちばな賞 募集終了
2. 平成 29 年度 1 期 研究・実験補助者 募集開始予定
3. ワーキンググループの活動状況と今後の予定

【資料】

1. 待機乳児保育室 保育士配置数案
2. 女子高生・車座フォーラム 2016 プログラム
3. ニュースレター「たちばな」第 71 号校正

## 1月10日(火)

### 【議事】

1. 平成28年度待機乳児保育室1月～3月の保育士数増員について
2. 平成29年度 待機乳児保育室の開室について

### 【報告】

1. 第9回京都大学たちばな賞 選考開始
2. 平成29年度1期研究実験補助者 募集中
3. ワーキンググループの活動状況と今後の予定

### 【資料】

1. H29 待機乳児保育室 利用案内(案)
2. “Women and Wish Forum 第3回”企画
3. ニュースレター「たちばな」第71号

## 2月13日(月)

### 【報告】

1. 第9回京都大学たちばな賞受賞者 決定
2. 平成29年度1期研究実験補助者 審査中
3. ワーキンググループの活動状況と今後の予定

### 【資料】

1. たちばな賞受賞者 詳細
2. 平成28年度活動報告書原稿
3. ニュースレターたちばな第72号最終版

京都大学教員数

(平成28年5月1日現在)

区分	総長		役員			教授			准教授			講師			助教			助手			合計		
	男	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
総長	1	1																			1	0	1
理事・監事(非常勤含む)			8	1	9																8	1	9
文学研究科						43	8	51	22	3	25	2		2	4	2	6				71	13	84
教育学研究科						13	3	16	10	6	16	1		1	2	1	3				26	10	36
法学研究科						45	5	50	13	4	17	2	1	3							60	10	70
経済学研究科						19	1	20	8	2	10	2	4	6	1		1				30	7	37
理学研究科						84	1	85	76	10	86	10	1	11	76	6	82				246	18	264
医学研究科						66	10	76	58	6	64	47	7	54	33	17	50		1	1	204	41	245
医学部附属病院						6		6	13	3	16	9	1	10	120	20	140				148	24	172
薬学研究科						13		13	14	2	16	1	2	3	12		12				40	4	44
工学研究科						128	1	129	124	3	127	21	2	23	119	10	129				392	16	408
農学研究科						61	6	67	50	2	52	4	2	6	59	6	65				174	16	190
人間・環境学研究科						61	8	69	26	5	31		1	1	15	1	16				102	15	117
エネルギー科学研究科						18		18	20		20				11		11				49	0	49
アジア・アフリカ地域研究研究科						14		14	9	4	13				1	1	2				24	5	29
情報学研究科						38		38	25	1	26	8		8	31	2	33				102	3	105
生命科学研究科						17		17	13	1	14	2		2	14	2	16				46	3	49
総合生存学館						7	1	8	4		4										11	1	12
地球環境学堂						17		17	11	5	16				11	1	12				39	6	45
公共政策連携研究部						10		10													10	0	10
経営管理研究部						13		13	4	2	6										17	2	19
化学研究所						24		24	16	2	18		2	2	37	1	38				77	5	82
人文科学研究所						19	1	20	13	2	15		1	1	7	6	13	1		1	40	10	50
再生医科学研究所						6	1	7	10	1	11	1		1	9	1	10				26	3	29
エネルギー理工学研究所						11		11	12		12	2		2	11		11				36	0	36
生存圏研究所						14		14	10		10	2		2	9	2	11				35	2	37
防災研究所						33	1	34	32	1	33				19	1	20				84	3	87
基礎物理学研究所						10		10	9		9				4		4				23	0	23
ウイルス研究所						12	1	13	8		8	2		2	10	3	13				32	4	36
経済研究所						13		13	1		1				2	1	3				16	1	17
数理解析研究所						12		12	11		11	3		3	11		11				37	0	37
原子炉実験所						15	1	16	19	2	21	1		1	26	3	29				61	6	67
霊長類研究所						13		13	10		10				8	5	13				31	5	36
東南アジア研究所						7	3	10	10		10				2	2	4				19	5	24
iPS細胞研究所						12	1	13	7		7	4		4							23	1	24
附属図書館											1	1									0	1	1
学術情報メディアセンター						7		7	7		7	1		1	4		4				19	0	19
放射線生物研究センター						3		3	3		3	1		1							7	0	7
生態学研究センター						7		7	2	1	3										9	1	10
地域研究統合情報センター						4		4	3	2	5				2		2				9	2	11
野生動物研究センター						3	1	4	2		2										5	1	6
高等教育研究開発推進センター						2	1	3	2	1	3										4	2	6
総合博物館						2	1	3	1	1	2	1		1	1		1				5	2	7
フィールド科学教育研究センター						4	1	5	7		7	2		2	5	3	8				18	4	22
こころの未来研究センター						4	1	5													4	1	5
文化財総合研究センター									1		1				4		4				5	0	5
学生総合支援センター						1		1		2	2	2		2	1		1				4	2	6
大学文書館						1		1													1	0	1
学際融合教育研究推進センター									1		1										1	0	1
国際高等教育院						22	7	29	12	3	15										34	10	44
環境安全保健機構						5		5	4		4				7	1	8				16	1	17
情報環境機構						3	1	4	1		1				1	1					4	2	6
産官学連携本部									1		1										1	0	1
物質-細胞統合システム拠点						7	2	9	1		1	1		1	1		1				10	2	12
合計	1	1	8	1	9	949	68	1017	716	78	794	132	24	156	689	99	788	1	1	2	2496	271	2767

(注)育児休業者・退職者、再雇用者は除く



## 京都大学学生数

### 学部学生数

(平成28年5月1日現在)

区分	学部学生			聴講生			科目等履修生			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
総合人間学部	425	167	592				13	7	20	438	174	612
文学部	595	415	1,010	31	20	51	12	8	20	638	443	1,081
教育学部	170	124	294	6	2	8	1	2	3	177	128	305
法学部	1,112	405	1,517	2	1	3	1	1	2	1,115	407	1,522
経済学部	925	220	1,145	2	2	4	2		2	929	222	1,151
理学部	1,278	132	1,410				7		7	1,285	132	1,417
医学部(6年制)	569	119	688							569	119	688
医学部(4年制)	168	460	628							168	460	628
薬学部(6年制)	95	93	188				2	1	3	97	94	191
薬学部(4年制)	179	48	227				1		1	180	48	228
工学部	3,964	369	4,333	1		1	2	1	3	3,967	370	4,337
農学部	925	417	1,342				6	3	9	931	420	1,351
計	10,405	2,969	13,374	42	25	67	47	23	70	10,494	3,017	13,511
	(142)	(93)	(235)							(142)	(93)	(235)

(注)( )内は、外国人留学生数(留学ビザ留学生)で内数。

### 大学院学生数

(平成28年5月1日現在)

区分	修士課程			博士(後期)課程			専門職学位課程			聴講生			科目等履修生			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
文学研究科	145	92	237	135	77	212				14	13	27				294	182	476
教育学研究科	49	41	90	52	48	100							2	5	7	103	94	197
法学研究科	25	18	43	59	17	76	275	78	353				5		5	364	113	477
経済学研究科	63	39	102	105	34	139				2		2	2	1	3	172	74	246
理学研究科	545	86	631	413	71	484							2		2	960	157	1,117
医学研究科				517	194	711										517	194	711
	83	101	184	97	81	178	31	45	76				2		2	213	227	440
薬学研究科				21	4	25										21	4	25
	93	36	129	41	20	61										134	56	190
工学研究科	1,343	168	1,511	452	75	527										1,795	243	2,038
農学研究科	469	225	694	180	85	265							2		2	651	310	961
人間・環境学研究科	215	136	351	158	139	297										373	275	648
エネルギー科学研究科	249	28	277	55	21	76										304	49	353
アジア・アフリカ地域研究研究科				77	74	151							1		1	78	74	152
情報学研究科	375	40	415	114	30	144										489	70	559
生命科学研究科	90	70	160	63	49	112										153	119	272
総合生存学館				27	19	46										27	19	46
地球環境学舎	40	51	91	26	31	57										66	82	148
公共政策教育部							72	16	88	1		1		1	1	73	17	90
経営管理教育部				8		8	120	62	182				14	1	15	142	63	205
計	3,784	1,131	4,915	2,600	1,069	3,669	498	201	699	17	13	30	30	8	38	6,929	2,422	9,351
	(297)	(265)	(562)	(432)	(320)	(638)	(45)	(51)	(96)							(774)	(636)	(1410)

(注1) 医学研究科・薬学研究科の博士(後期)課程の上段は博士課程(4年制)

(注2) アジア・アフリカ地域研究研究科、総合生存学館は一貫制博士課程

(注3)( )内は、外国人留学生数(留学ビザ留学生)で内数。

# 京都大学の女性研究者・女子学生の状況

## 1. 教員数の経年変化と女性比率

(分析データ：京都大学概要 2016)

2004年までは、保田その氏の作成データ（京都大学女性教員懇話会 2005年度ニュースレターNo.2）による

2016年5月1日現在の京都大学の教員数(助手2名を含む)は、全体で2,767名である。そのうち女性教員は全体の9.8%、数にしてわずか271名である。2006年は7.3%だったので、この10年間で2.5%増加している。女性教員数が目立って増加の傾向を見せてきたのは、2000年頃からである。図1に1952年以來の女性教員の推移を示す。

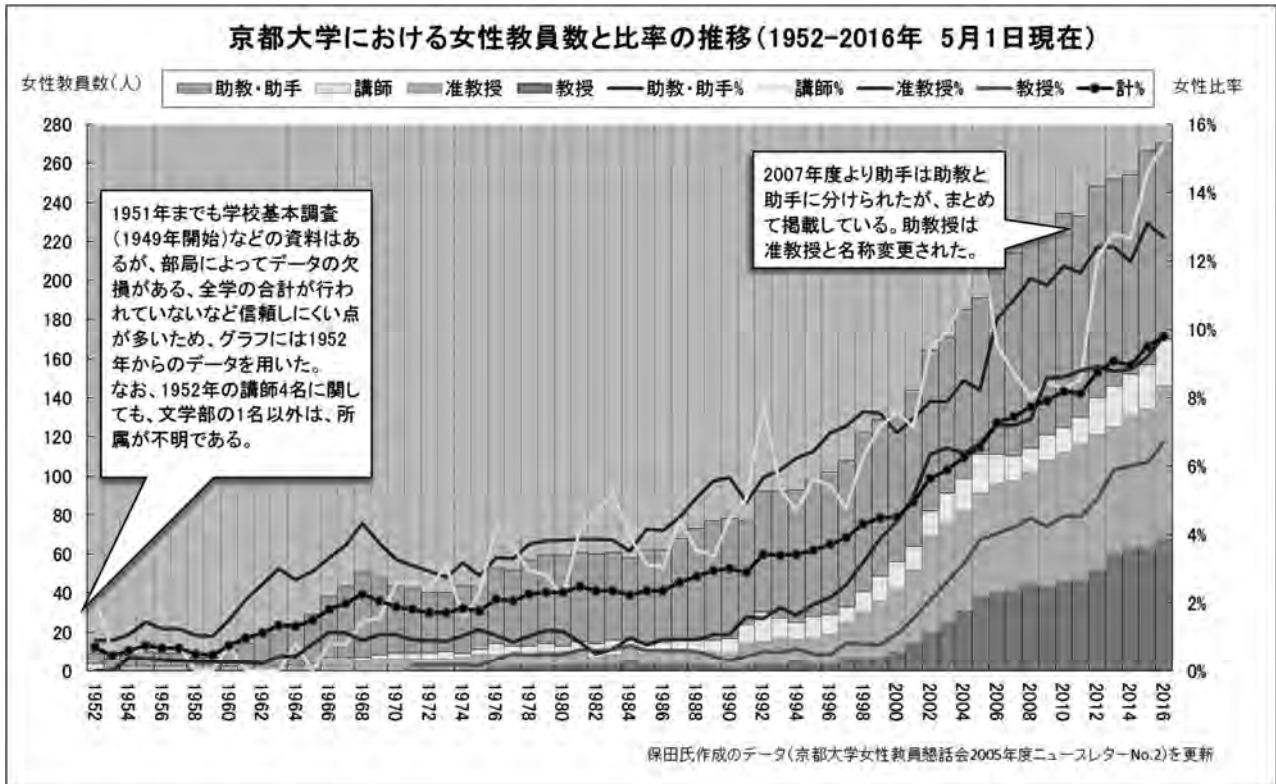


図1 1952年以來の女性教員の推移

職階別に男女比を見ると、女性は総数が少ないのでどのポストでもわずかだが、その中でも、教授ポストの女性比率が特に少なく、6.7%しかない。准教授ポストでは9.8%、講師では15.4%、助教・助手では12.7%が女性である(図2)。

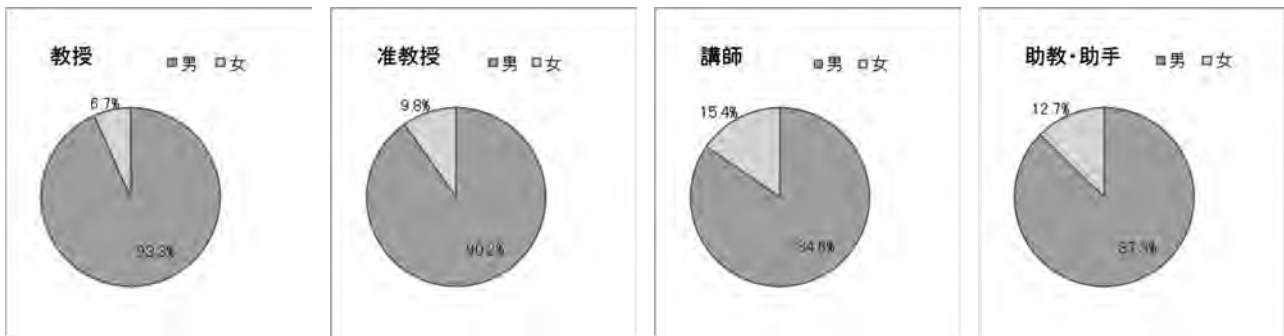


図2 教員の職階毎の男女比(2016年5月1日現在)

図3の職階分布からわかるように、男性では教授(38.2%)が最も多く、女性では助教・助手(37%)が最も多い。



図3 男女別教員の職階分布

表1に男女別教員数(「定員」)を示す。女性がない部局は載せていないが、総合計は総教員数である。

部局	男	女	計	女性比率(%)
附属図書館	0	1	1	100.0%
高等教育研究開発推進センター	4	2	6	33.3%
学生総合支援センター	4	2	6	33.3%
情報環境機構	4	2	6	33.3%
総合博物館	5	2	7	28.6%
教育学研究科	26	10	36	27.8%
国際高等教育院	34	10	44	22.7%
東南アジア研究所	19	5	24	20.8%
人文科学研究科	40	10	50	20.0%
こころの未来研究センター	4	1	5	20.0%
経済学研究科	30	7	37	18.9%
地域研究統合情報センター	9	2	11	18.2%
フィールド科学教育研究センター	18	4	22	18.2%
アジア・アフリカ地域研究研究科	24	5	29	17.2%
医学研究科	204	41	245	16.7%
野生動物研究センター	5	1	6	16.7%
物質-細胞統合システム拠点	10	2	12	16.7%
文学研究科	71	13	84	15.5%
法学研究科	60	10	70	14.3%
医学部附属病院	148	24	172	14.0%
霊長類研究所	31	5	36	13.9%
地球環境学堂	39	6	45	13.3%
人間・環境学研究科	102	15	117	12.8%
ウイルス研究所	32	4	36	11.1%
経営管理研究部	17	2	19	10.5%
再生医科学研究科	26	3	29	10.3%
生態学研究センター	9	1	10	10.0%
薬学研究科	40	4	44	9.1%
原子炉実験所	61	6	67	9.0%
農学研究科	174	16	190	8.4%
総合生存学館	11	1	12	8.3%
理学研究科	246	18	264	6.8%
生命科学研究科	46	3	49	6.1%
化学研究所	77	5	82	6.1%
経済研究所	16	1	17	5.9%
環境安全保健機構	16	1	17	5.9%
生存圏研究所	35	2	37	5.4%
iPS細胞研究所	23	1	24	4.2%
工学研究科	392	16	408	3.9%
防災研究所	84	3	87	3.4%
情報学研究科	102	3	105	2.9%
総合計	2,487	270	2,757	9.8%

## 2. 女性研究者の雇用形態

(分析データ : 総務部資料 2016年5月1日)

表2に示すように、本学には女性研究者が約951人いる。プロジェクトなどの雇用でない、いわゆる“定員”の教員は273人、残り678人が種々のプロジェクトなどで雇用されている任期付きの研究者である。表2にその職種、職階分布を示した。表2で常勤というのは、勤務形態は定員と同じだが雇用形態が例えば、准教授(産官学連携)というように職名に財源の由来が付いている任期付きのポストを示している。非常勤というのは、勤務形態が非常勤で雇用の財源はいろいろである。例えば「最先端研究」などである。

表2 女性研究者の雇用形態

学内の雇用形態		人数	%
定員	教授	68	7.2
	准教授	78	8.2
	講師	24	2.5
	助教・助手	103	10.8
	合計	273	28.7
常勤	教授	3	0.3
	准教授	24	2.5
	講師	12	1.3
	助教	92	9.7
	研究員	180	18.9
	合計	311	32.7
非常勤	研究員	260	27.3
	医員	104	10.9
	教員	3	0.3
	合計	367	38.6
総合計		951	100.0

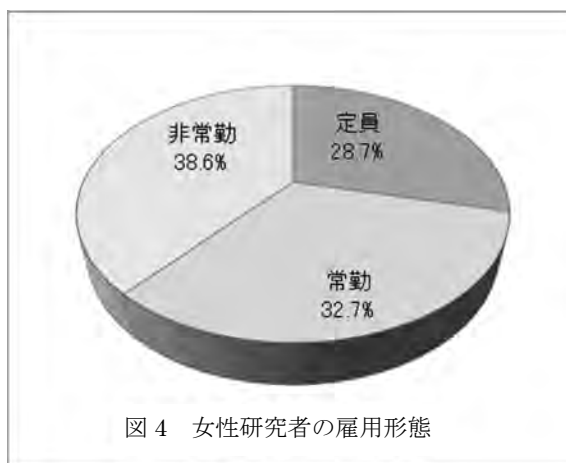


図4 女性研究者の雇用形態

### 3. 女性教員の部局別・職階別分布

表3に全部局の職階別女性教員数(2016年5月1日現在)を示す。

(分析データ：総務部資料2016年5月1日)

表3: 部局別職階別女性教員数(2016年5月1日現在、総務部より)

部局	定員					常勤						非常勤				総合計
	教授	准教授	講師	助教 助手	合計	教授	准教授	講師	助教	研究員	合計	研究員	医員	教員	合計	
医学研究科	10	5	9	19	43	0	11	3	13	23	50	41	0	0	41	134
医学部附属病院	0	3	1	16	20	0	1	0	23	9	33	18	100	0	118	171
iPS細胞研究所	0	0	0	0	0	0	1	0	2	43	46	8	0	0	8	54
農学研究科	4	2	2	8	16	0	1	0	3	2	6	20	0	0	20	42
学際融合教育研究推進センター	0	0	0	0	0	2	6	3	9	3	23	18	0	0	18	41
工学研究科	1	3	1	7	12	0	0	0	2	12	14	21	0	0	21	47
物質-細胞統合システム拠点	2	0	0	0	2	0	0	0	6	10	16	16	0	0	16	34
理学研究科	2	9	1	7	19	0	0	0	0	6	6	7	0	0	7	32
人間・環境学研究科	7	4	1	2	14	0	0	1	0	3	4	6	0	0	6	24
霊長類研究所	0	0	0	5	5	0	0	0	1	3	4	7	0	1	8	17
教育学研究科	4	6	0	3	13	0	0	0	0	1	1	6	0	0	6	20
文学研究科	8	3	0	1	12	0	1	0	0	1	2	3	0	0	3	17
法学研究科	5	5	1	2	13	0	0	0	4	0	4	0	0	0	0	17
産官学連携本部	0	0	0	0	0	0	1	0	0	6	7	6	0	0	6	13
白眉センター	0	0	0	0	0	0	4	0	12	0	16	0	0	0	0	16
化学研究所	0	1	1	3	5	0	0	0	0	6	6	10	0	0	10	21
東南アジア研究所	3	0	0	2	5	0	0	0	0	1	1	5	0	0	5	11
人文科学研究科	1	2	1	6	10	0	0	0	1	0	1	5	0	0	5	16
薬学研究科	0	3	1	1	5	0	0	1	0	2	3	2	0	0	2	10
アジア・アフリカ地域研究研究科	0	2	0	2	4	0	0	0	0	0	0	5	0	0	5	9
野生動物研究センター	1	0	0	0	1	0	0	0	3	2	5	8	0	1	9	15
ウイルス研究所	1	0	0	4	5	0	0	0	1	1	2	3	0	0	3	10
生存圏研究所	0	0	0	2	2	0	0	0	0	4	4	8	0	0	8	14
生命科学研究科	0	0	1	4	5	0	0	0	0	6	6	6	0	0	6	17
地球環境学堂	0	4	0	2	6	0	0	0	0	5	5	1	0	0	1	12
防災研究所	1	1	0	1	3	0	0	0	0	4	4	3	0	0	3	10
経済学研究科	1	1	3	0	5	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	7
国際高等教育院	4	1	0	0	5	0	3	2	0	0	5	0	0	0	0	10
原子炉実験所	1	2	0	4	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
情報学研究科	0	1	0	2	3	0	1	0	3	1	5	1	0	0	1	9
フィールド科学教育研究センター	1	0	0	3	4	0	0	0	0	1	1	1	0	0	1	6
再生医科学研究科	1	1	0	1	3	0	0	0	0	5	5	4	0	0	4	12
こころの未来研究センター	1	0	0	0	1	0	1	0	2	0	3	4	0	0	4	8
生態学研究センター	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	1	5	0	0	5	7
アフリカ地域研究資料センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3	3
国際交流推進機構	2	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
地域研究統合情報センター	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
高等教育研究開発推進センター	1	1	0	0	2	0	1	0	1	0	2	3	0	0	3	7
福井謙一記念研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
経営管理研究部	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	2	1	0	1	2	5
総合生存学館	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
基礎物理学研究所	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	1	2
経済研究所	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1	1	0	0	1	3
総合博物館	1	1	0	0	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	3
情報環境機構	1	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
放射線生物研究センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	2
学生総合支援センター	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
環境安全保健機構	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
エネルギー理工学研究所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3	3
附属図書館	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
男女共同参画推進本部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
エネルギー科学研究科	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1
学術情報メディアセンター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	1	2
合計	65	70	23	111	269	2	32	11	88	166	299	264	100	4	368	936

#### 4. 女子学生の状況

(分析データ：総務部資料 2016 年 5 月 1 日)

2016 年 5 月 1 日現在の京都大学の学部生数、大学院生数、女性比率を表 4 と表 5 に示す。1946 年からの女子学生数とその比率は図 5 にある。

学部学生の女性比率は全体で 22.2%と、教員と比較するとかなり高い。医学部(4 年制)では、73.2%、薬学部(6 年制)では 49.5%、文学部、教育学部は、約 40%が女子学生である。工学部は教員と同じく低く、女性比率 8.5%である。大学院では、修士課程から博士課程に進むに従って、女性比率が、23.0%から 29.1%へと高くなる。しかし、図 6 に示したように教員への道は細いパイになっている。

表4 学部学生数と女性比率

	学部生数計	女性%
総合人間学部	612	28.2
文学部	1,081	41.1
教育学部	305	42.2
法学部	1,522	26.7
経済学部	1,151	19.2
理学部	1,417	9.4
医学部(6年制)	688	17.3
医学部(4年制)	628	73.2
薬学部(6年制)	191	49.5
薬学部(4年制)	228	21.1
工学部	4,337	8.5
農学部	1,351	31.1
計	13,511 (235)	22.2

注) ( )内は、外国人留学生数(留学ビザ留学生)で内数

表5 大学院生数と女性比率

	修士課程	女性%	博士課程	女性%
文学研究科	237	38.8	212	36.3
教育学研究科	90	45.6	100	48.0
法学研究科	43	41.9	76	22.4
経済学研究科	102	38.2	139	24.5
理学研究科	631	13.6	484	14.7
医学研究科			711	27.3
	184	54.9	178	45.5
薬学研究科			25	16.0
	129	27.9	61	32.8
工学研究科	1,511	11.1	527	14.2
農学研究科	694	32.4	265	32.1
人間・環境学研究科	351	38.7	297	46.8
エネルギー科学研究科	277	10.1	76	27.6
アジア・アフリカ地域研究研究科			151	49.0
情報学研究科	415	9.6	144	20.8
生命科学研究科	160	43.8	112	43.8
総合生存学館			46	41.3
地球環境学舎	91	56.0	57	54.4
公共政策教育部				
経営管理教育部				
計	4,915 562	23.0	3,669 638	29.1

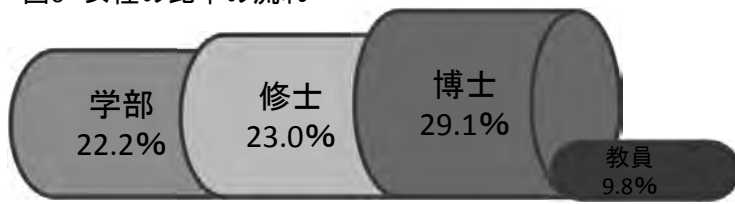
(注1)医学研究科博士(後期)課程の上段は博士課程(4年制)

(注2)アジア・アフリカ地域研究研究科、総合生存学館は一貫制博士課程

(注3) ( )内は、外国人留学生数(留学ビザ留学生)で内数



図6 女性の比率の流れ



※ 2.「女性研究者の雇用形態」(表 2、図 4)、3.「女性教員の部局別・職階別分布」(表 3)は、総務部(2016年5月1日現在)より作成。その他は、京都大学概要 2016(2016年5月1日現在)より作成。総務部データと京都大学概要では、集計上の事情によって女性研究者総数で数名の違いがある。また、作図にあたり四捨五入している。

## 平成28年度 京都大学男女共同参画推進センター報告書

発行日 平成29年3月

発行所 京都大学男女共同参画推進センター

© 京都大学男女共同参画推進センター



